

四万十町における 小規模地域人口推計

業務報告書

令和3年3月



人口・地域経済研究室
03-6262- 2950
kenkyu@jcrd.jp
東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋フサビル13F
<http://www.jcrd.jp/>
Facebookページ「地域づくりの現場なう！」

目次

1 はじめに		3
2 人口推計の手法		4
3 四万十町の概況		6
4 四万十町人口ビジョン概要		12
5 人口推計及びシミュレーションについて		13
6 四万十町全体の人口推計(現状推移及びシミュレーション)		15
7 各地域(旧町村)別の人口推計(現状推移及びシミュレーション)		19
7-1.窪川地域 7-2.大正地域 7-3.十和地域		
8 現状推移とシミュレーション結果の比較		31
9 各小学校区別の人口推計(現状推移及びシミュレーション)		33
人口分布の変移 9-1.仁井田 9-2.影野 9-3.七里 9-4.米奥 9-5.窪川 9-6.川口 9-7.東又 9-8.興津 9-9.田野々 9-10.北ノ川 9-11.十川 9-12.昭和 児童生徒数の変移		
10 シミュレーション内容と結果		85
11 【事例】 他地域における取組		89
12 おわりに		92
(参考資料)各小学校区別の人口推計(シミュレーション④)		93

1.はじめに

地域の将来や目指す姿、行政の施策を考える際、人口は全ての基礎となるデータである。

そのため、地方自治体は、国のまち・ひと・しごと創生の取組を踏まえ、「地方人口ビジョン」による地域人口の現状分析、長期的な人口の将来展望等を行うとともに、「人口減少克服」と「地方創生」の観点から「地方版総合戦略」を策定し、地方自治体の描く将来像に向け、地方創生の取組を進めている。

今後、それらの取組を更に進めていくためには、地方創生の主役である地域住民が、地域の現状を認識することが重要であり、地域の人口などについても現状のまま推移した場合どうなるか、どのくらい改善すればよいか、具体的な数字を用いて理解しやすいかたちで示すことが求められている。また、それぞれの地域において問題意識の共有が図られることで、地域住民のまちづくりへの積極的な参加につながるものとする。

本書では、小規模地域での人口推計に適しているとされる「コーホート変化率法」により、2020年7月31日時点の住民基本台帳人口とその5年前の人口の変化率を分析して、四万十町、各小学校区及び各地区ごとに将来の人口推計及びシミュレーションを実施する。

本書が、それぞれの地域で検討される各分野・各施策の基礎資料として幅広く活用いただければ幸いである。

なお、当センターで使用する「コーホート変化率法」に基づく人口推計については、「島根県中山間地域研究センター」で開発された手法を参考にしている。

2. 人口推計の手法 (1)

➤ コーホート変化率法

- 過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法（「自然増減※1」、「純移動※2」を併せて推計）
- 年齢別・男女別の基準年及び5年前の人口から算出
- 小規模地域別の推計をする場合に最適
（採用団体）（一財）地域活性化センター

島根県中山間地域研究センター 他

➤ コーホート要因法

- 「自然増減」及び「純移動」という二つの『人口変動要因』のそれぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法
- 年齢別・男女別の基準年人口に生残率・出生率・純移動率等を乗じて算出
- 全国ベースの推計をする場合に最適
（採用団体）国立社会保障・人口問題研究所

日本創生会議 他

【イメージ図：コーホート変化率法】

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15歳～19歳
2015年				
		1.2倍	0.9倍	1.5倍
2020年				
		1.2倍	0.9倍	1.5倍
2024年				

※1 自然増減・・・出生と死亡による人口の増減

※2 純移動・・・転入数から転出数を差し引いた数

2. 人口推計の手法 (2)

【 コーホート変化率法のメリット 】

➤ 住民基本台帳のデータが活用可能

- ・ 生残率等のデータがない小規模地域の人口推計が可能
- ・ 最新の状況への更新が容易

➤ 変数操作が容易

- ・ 地域の課題・可能性に応じたシミュレーションが可能
- ・ 地域住民の方の意見を反映した、具体的な「人口戦略」の策定に有効

田園回帰 1%戦略～地元に戻り仕事を取り戻す～藤山 浩 著

毎年、地域人口の1%分を新たに取り戻していけば、地域人口の安定化が見えてくる。

毎年達成

1,000人の集落 ⇒ 10人 ⇒ 例えば、子育て世代家族2組（親2、子1） + 退職後夫婦2組

300人の集落 ⇒ 3人 ⇒ 例えば、子育て世代家族1組（親2、子1）

100人の集落 ⇒ 1人 ⇒ 例えば、域外進学者のUIターン就職 1人

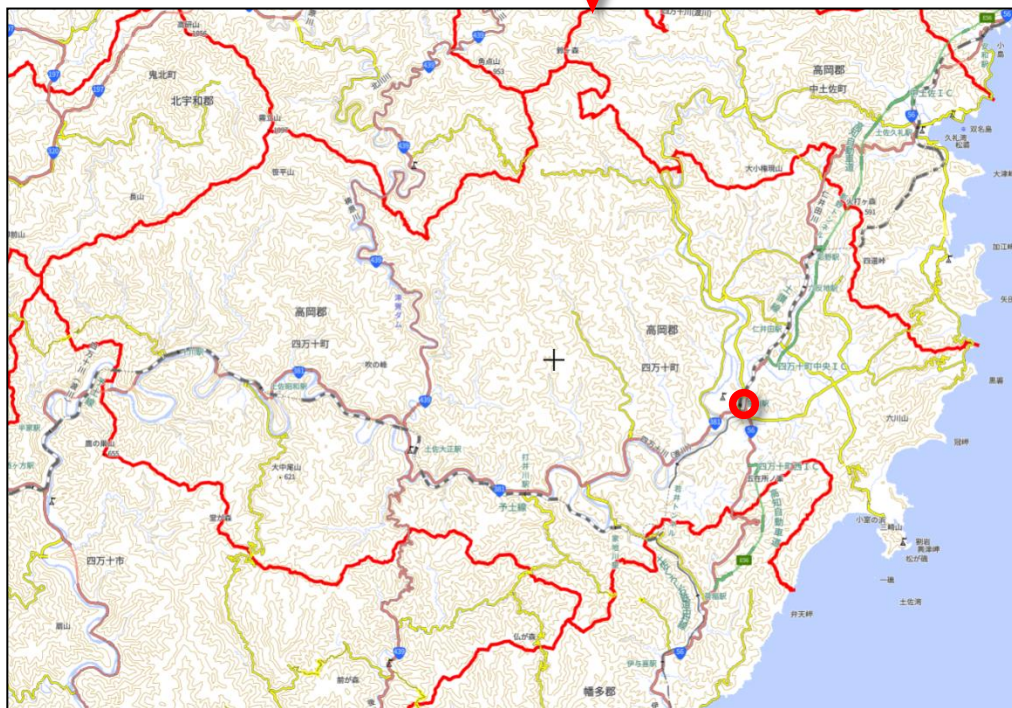
シミュレーション

ほとんどの集落や地域で
人口減少・高齢化・少子化が緩和される

3. 四万十町の概況 (1)



高知県の中西部に位置する。
町の南東部は土佐湾に面するが、
多くは山間部が占め、町の西端で
愛媛県と境界を接す。



出典：電子国土Web（国土地理院）

四万十町章



都道府県	高知県
郡	高岡郡
面積	642.28km ²
総人口	16,463人 (2020年7月31日付住民基本台帳)
人口密度	25.6人/km ²
隣接自治体	高岡郡中土佐町・梶原町・津野町、幡多郡黒潮町、四万十市 愛媛県北宇和郡 鬼北町・松野町
町の木	シマントヒノキ
町の花	エンコウツツジ
町の鳥	ヤイロチョウ

3. 四万十町の概況 (2)

来 歴：明治22年4月1日町村制施行以後、窪川と大正の町制移行、以後も編入や合併を経る。

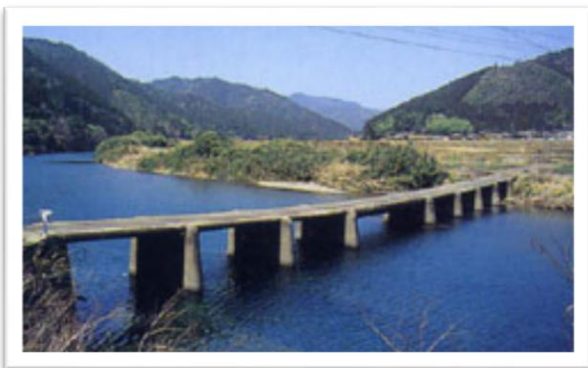
平成18年3月20日に窪川町、大正町、十和村の2町1村が合併し誕生。

地 勢：高知県の中西部に位置し、町の西部は愛媛県北宇和郡に接している。

南東部は土佐湾に接し漁港も有するが、大部分は林野（総面積642.28km²のうち87.1%）に占められ、四万十川やその支流の河川沿いの平地や台地上に集落が形成されている。

豊かな森林資源は「四万十ヒノキ」としてブランド化され、四万十町役場本庁舎をはじめ優良な建材等として様々な形で利用されている。

沿 革：古代より人々が暮らしてきた地域であり、近世になると、宇和島街道と中村街道が交差する土佐藩西部の交通の要衝として発展してきた。現在の国道にその機能はそのまま残り、加えて鉄道でも、土讃線、予土線、土佐くろしお鉄道が窪川駅から伸びており、交通の要衝としての役割は現在においても引き継がれている。

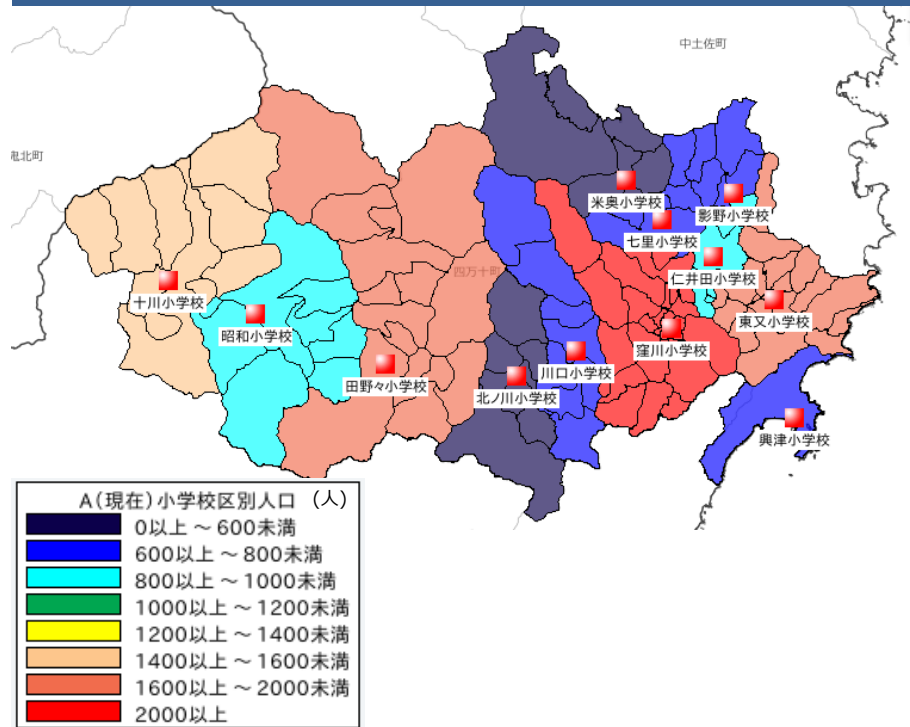


3. 四万十町の概況 (3)

小学校区	通学区域
仁井田	替坂本(六反地) 六反地 仁井田 小向 中ノ越 平串 富岡
影野	床鍋 影野 奥呉地 魚ノ川 下呉地 替坂本(替坂本 山株)
七里	中村 勝賀野 川ノ内 七里 作屋(下作屋、西ノ川)
米奥	作屋(上作屋) 米奥 窪川中津川 日野地 上秋丸 壺斗俵 東北ノ川 市生原
窪川	古市町 東町 茂串町 本町 新開町 琴平町 北琴平町 榊山町 香月が丘 窪川 神ノ西 西原 金上野 見付 東大奈路 根元原 根々崎 大井野 東川角 西川角 宮内 仕出原 高野 若井川 峰ノ上 若井 口神ノ川 中神ノ川 奥神ノ川 大向
川口	檜生原 寺野 南川口 天ノ川 秋丸 折合 野地 家地川
東又	黒石 本堂 与津地 親ヶ内 八千数 藤ノ川 向川 数神 奈路 道徳 平野 土居 弘見 飯ノ川 志和峰 大鶴津 小鶴津 志和
興津	興津
田野々	大正 瀬里 希ノ川 下岡 上岡 芳川 江師 小石 西ノ川 大正大奈路 大正中津川 木屋ヶ内 下道 下津井
北ノ川	打井川 上宮 弘瀬 大正北ノ川 市ノ又 烏手 相去
十川	小野 久保川 大道 十川 戸川 古城 地吉 十和川口 広瀬 井崎
昭和	里川 浦越 茅吹手 津賀 野々川 昭和 大井川 河内

3. 四万十町の概況 (4)

小学校区別の人口分布（2020年7月）



出典：四万十町住民基本台帳人口（2020.7.31時点）

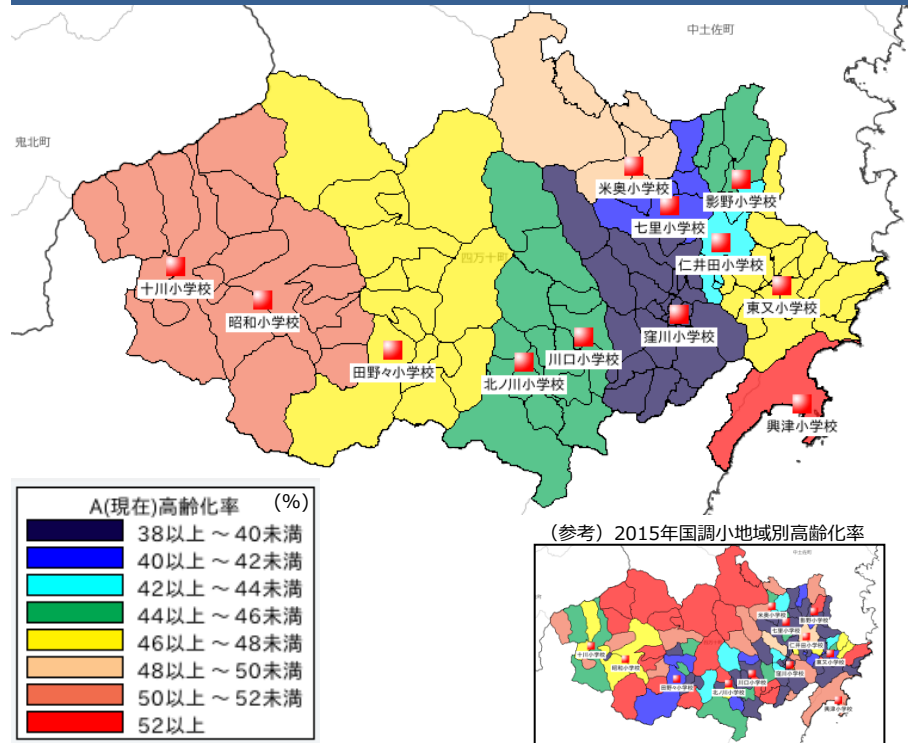
小学校区別の人口をみると、窪川小学校区が町全体の35.3%を占めており、続いて田野々小学校区が10.6%、東又小学校区9.8%、十川小学校区9.5%の順となっており、これらの小学校区で、全体の65.2%を占めている。

これら4小学校区の周辺に位置する興津小学校区やその他山間部の各小学校区では、800人に満たない校区人口が半数存在する。

注）本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

注）地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小学校区へ、「作屋」は七里小学校区に含めて表示している。

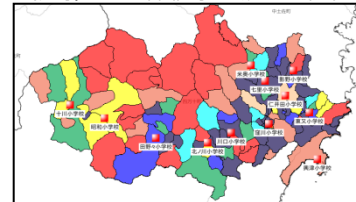
小学校区別の高齢化率（65歳以上人口の割合）



出典：四万十町住民基本台帳人口（2020.7.31時点）

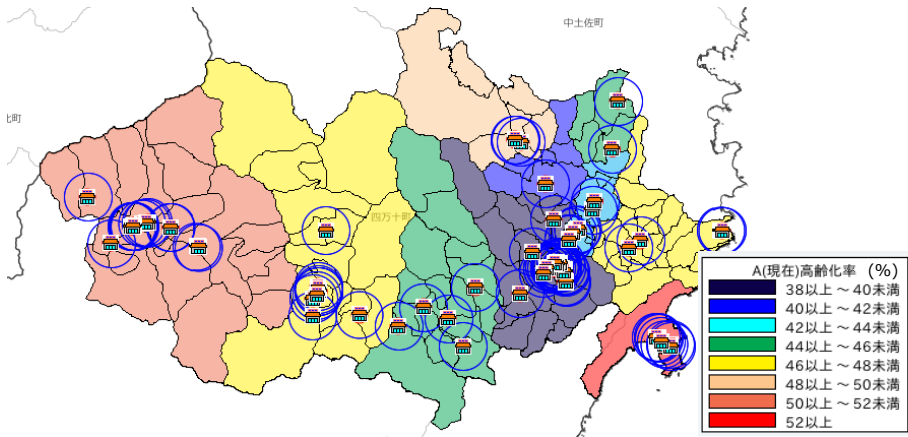
地区別の高齢化率（65歳以上の人口割合）をみると、最も人口が集中している窪川小学校区が最も高齢化率が低い状況となっており、当校区を中心に距離が離れる程、高齢化率が高くなっている状況が見て取れる（最も高齢化率が高いのは興津小学校区の58.8%）。このような地域においては、地域の人口が減少する中、高齢夫婦・高齢の単身世帯数が増加するため、日常生活における支援の必要性が高まると考えられる。

（参考）2015年国調小地域別高齢化率



3. 四万十町の概況（5）

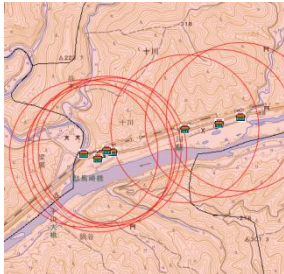
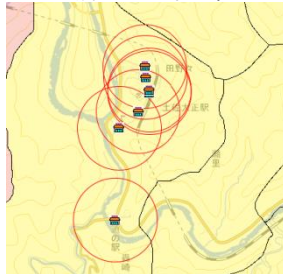
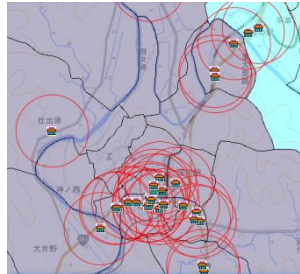
高齢化率と徒歩・自転車圏内の食料品店（2020年7月）



窪川地域中心エリア（窪川）

大正地域中心エリア（大正）

十和地域中心エリア（十川）



出典：四万十町住民基本台帳人口（2020.7.31時点）

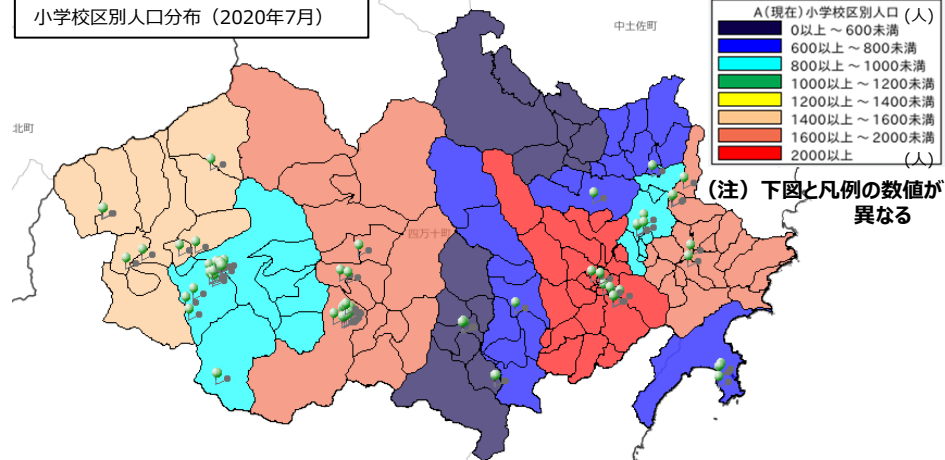
小学校区別の高齢化率と町内の食料品店（スーパー、コンビニ、専門店など）からの徒歩及び自転車を想定した距離（徒歩：半径0.5km（赤円）、自転車：半径1.5km（青円））を示し、高齢化率の高い地域で徒歩圏や自転車圏内に食料品など生活に必要となる商品を取り扱う店があるかどうかを確認する。主要な国道や県道沿いに多くの店舗が立地し、人口の大部分をカバーできていることが確認できる。また、町の主要3か所では徒歩圏に店舗が複数立地する。今後高齢化率の高い地域が増えるとともに、自動車を利用できない人もますます増加すると考えられることから、高齢化に対応した生活サービスのあり方を検討する必要がある。

注) 本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

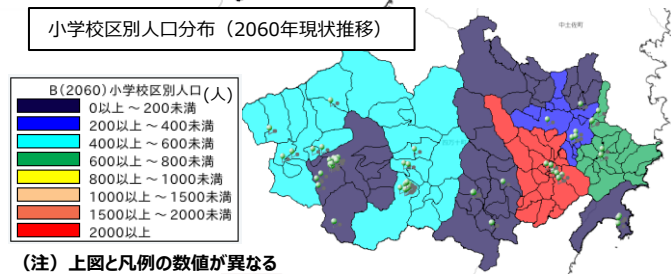
(注) 地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小校区へ、「作屋」は七里小校区に含めて表示している。

小学校区別人口と公営住宅

小学校區別人口分布（2020年7月）



小学校區別人口分布（2060年現状推移）



(注) 上図と凡例の数値が異なる

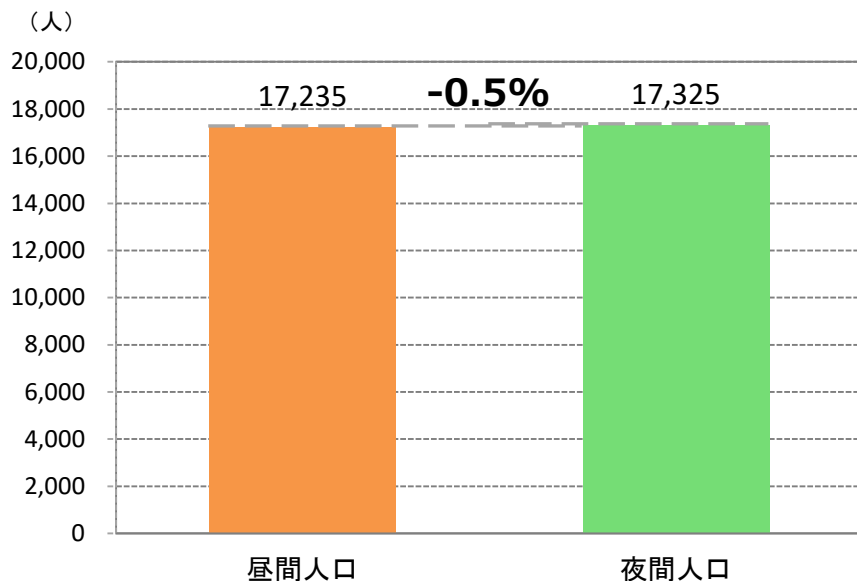
出典：四万十町住民基本台帳人口（2020.7.31時点）、本書推計値

小学校区別人口と公営住宅の立地状況について確認する。公営住宅は米奥小学校区を除いた小学校区全てに立地している。また、全町での平均入居率は9割を超えており、町民の住環境を支える重要なインフラである。その中には子育て世代（高校生以下）も1/4程度含まれており、小中学校や祭事など地域コミュニティを下支えしていると思われる。

高い入居率と移住者の受け皿としても活用される公営住宅であるが、今後人口減少が予測されるなかで、その需給量を勘案しつつ必要なスクラップ&ビルド等を検討する等、適正なストックマネジメントが求められる。

3. 四万十町の概況 (6)

昼間人口と夜間人口 (2015年)

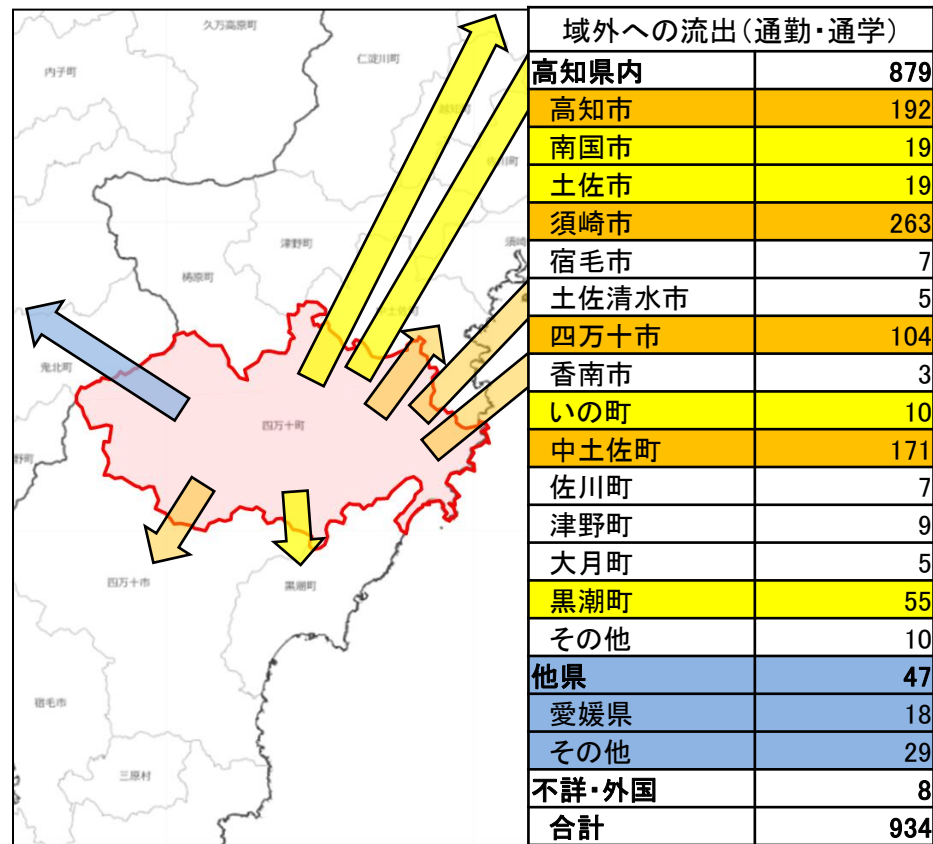


出典：総務省統計局「2015年国勢調査」

昼間人口が夜間人口よりも90人少なく(▲0.5%)、通勤者・通学者が地域外に流出している。

高知市や高知県内の都市のほか愛媛方面まで、主に自動車の利用によって通勤圏となっている。また、高知自動車道のインターチェンジが町内に複数あることから、近隣市町に自動車で通勤することも可能である。また、地形や地理的制限はあるものの、通勤・通学の環境は比較的整備されている地域であり、町外への通勤者がわずかに多い状況にある。

通勤・通学者の流出者数の地域別構成 (2015年)



出典：総務省統計局「2015年国勢調査」

四万十町内に常住しながら町外に通勤・通学する人は879人で、移動先は須崎市、高知市、中土佐町、四万十市の順に多い。

また、県外への通勤・通学者も47人おり、通勤・通学者の流出入者数を比較すると、域外への流出が30人多くなっている。

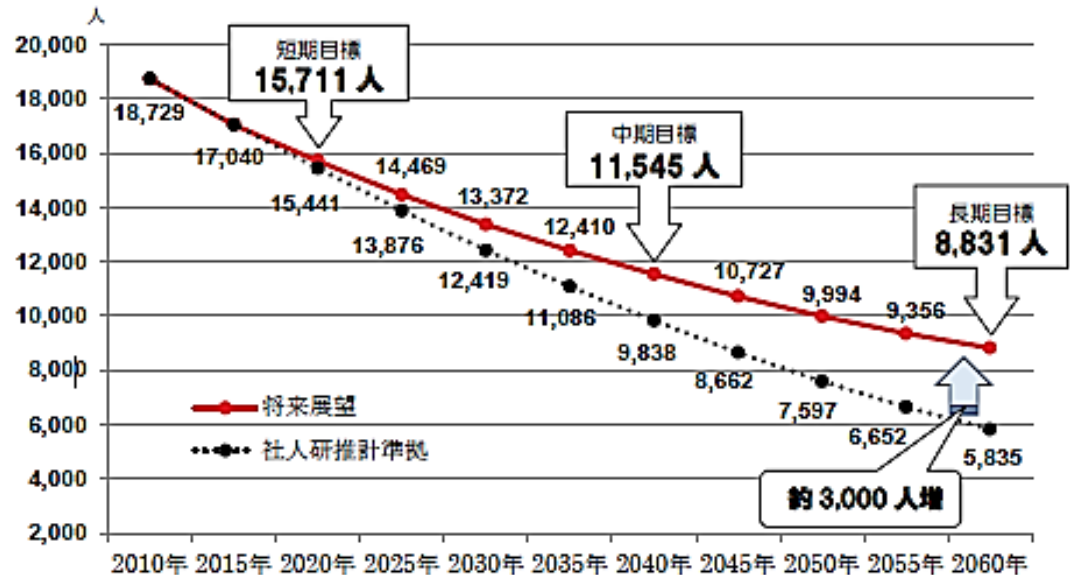
4. 四万十町人口ビジョン (2015年11月策定) 概要

【主な傾向】

・ 1955年をピークに、1975年までは大きく減少傾向であり、1975年以降は団塊ジュニア世代の誕生等により緩やかに転じているが、現在に至るまで減少傾向は続いている。

・ 国立社会保障・人口問題研究所の推計（2013年推計）によると、2060年の人口は2010年の人口（18,727人）と比べて7割以上減少し、5,835人になると推測されている。

【総人口の推移】



【目指すべき将来の方向】

四万十町の将来像である「山・川・海 自然が 人が元気で 四万十町」の実現に向け、町民一人ひとりが互いに尊重して支え合う地域のしくみづくりによる「自律と共生のまちづくり」のもと、将来にわたって活力あるまちづくりを推進する。

目指すべき将来の方向を実現するために、以下3つの基本視点を掲げる

- ①若い世代の就労と希望を持ち安心して暮らせるまちづくり
- ②住み続けたい、住んでみたいまちづくり
- ③人口減少を見据えた持続可能なまちづくり

【中期・長期の目標人口】

中期2040年：11,545人
長期2060年：8,831人

【条件】

- ・ 合計特殊出生率
 - ①2040年までに2.18に上昇
- ・ 社会増減
 - ②年間20組（40人）が移住
 - ③若年層の転出超過人口を2030年までに3割抑制

5. 人口推計及びシミュレーションについて (1)

- ① 町内の12小学校区及び旧町村3地域の人口動態に関する「現状分析」、「現状で推移した場合の将来推計」を行った。なお、今回の推計の基礎とした住民基本台帳における2020年7月31日付人口に、外国人人口95人(男22人、女73人)は含んでいない。
- ② 推計の手法については、変数操作や最新の状況への更新が容易であり、小規模地域の人口推計に適しているコーホート変化率法を用いた(P4~5参照)。
- ③ コーホート変化率は、各小学校区及び各地区ごとに住民基本台帳における2020年7月31日人口を基準とし、5年前である2015年7月31日の人口から算出した。
- ④ 推計にあたっては、各小学校区及び各地区ごとの将来推計人口と高齢化率の推移、児童・生徒数の推移※を5年ごとのグラフで表示した。グラフは2015年、2020年は実績値であり、2025年以降は推計値である。人口ピラミッドは2020年と2060年の比較を表示した。
- ⑤ 推計は四捨五入で行っているため、男女または年代別の合計が総数に合致しない場合がある。
- ⑥ 四万十町全体および旧町村の3地域の推計値は各小学校区の推計値を合算した。
- ⑦ シミュレーション①及び②の条件は、人口ビジョンの目標値(合計特殊出生率2.18、年間20組の夫婦の流入)を元にした。加えて、シミュレーション①は20組の流入夫婦を人口比で按分し各小学校区へ割り当て、シミュレーション②は町人口の約3分の1を占める窪川小学校区の人口の偏向を避けた場合(窪川小学校区に集中する人口を分散させた場合)と比較するため、窪川小学校区を除いた11小学校区に人口比按分で割り当てた。

※児童・生徒数は、年代毎人口から按分して算出したため、実際の数とは異なる可能性がある

5. 人口推計及びシミュレーションについて (2)

各小学校区で行うシミュレーションは下記3パターンとした。

【シミュレーション①】

四万十町全体で

- ・20歳代後半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ・30歳代前半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ※各小学校区毎の流入組数は、現在の人口比で按分した。



合計特殊出生率2.18の達成
(四万十町人口ビジョン目標値)

【シミュレーション②】

四万十町全体で

- ・20歳代後半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ・30歳代前半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ※各小学校区毎の流入組数は、窪川小学校区を除いた現在の人口比で按分
- ※窪川小学校区の人口の偏向を避けた場合を想定した。



合計特殊出生率2.18の達成
(四万十町人口ビジョン目標値)

【シミュレーション③】

- ・各小学校区の流出入の特性に応じて、流入（流出阻止）世帯を検討
- ※流入（流出阻止）世帯の検討に当たっては、各小学校のコーホート変化率の流出年齢や性別の特性、各小学校区の産業構造、町営住宅の有無等を考慮した。
- ※各小学校区の2020年人口の0.5%程度の人口の流入（流出阻止）を想定した。
- ※米奥小学校区については農家住宅6戸に対し、R3～7年、13～17年、23～27年、33～37年の間にそれぞれ30代前半夫婦 4 組、30代後半夫婦2組の流入を想定し、6世帯のうち3世帯は0～4歳の子どもが1人いる世帯とした。
- また、10年間居住し農家住宅を退去した世帯はそのまま小学校区に残る想定とした。



合計特殊出生率1.68
※厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」
四万十町出生率ベイズ推定値

四万十町全体および旧町村の3地域の推計については、各小学校区の推計値を合算した。

6. 四万十町全体の人口推計【現状分析】

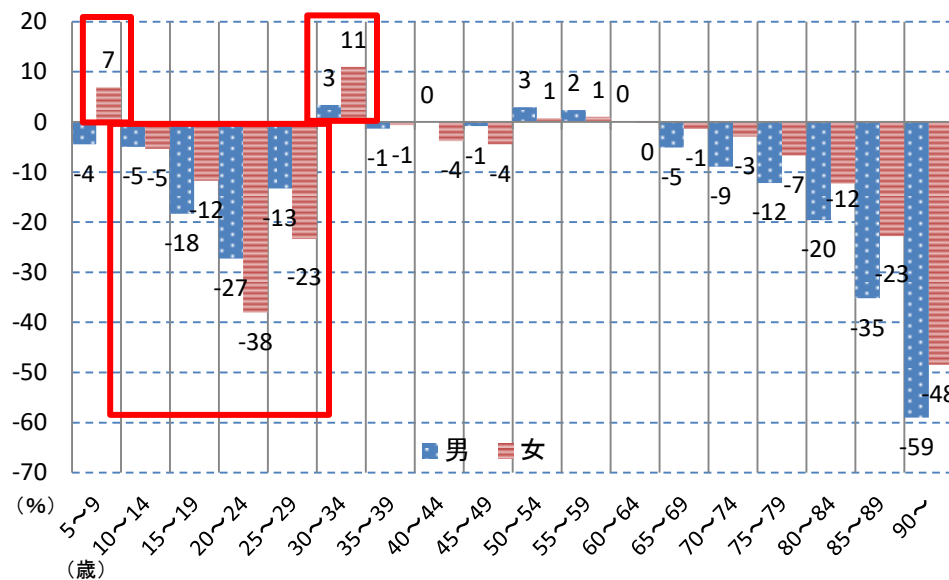
●出生率 1.45
●高齢化率 44%

◇ 人口推移実績（四万十町、高知県）

	2015年		2020年	増減	増減率
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%
高知県	729,161	⇒	690,668	▲38,493	▲5.28%
男性	343,033	⇒	325,857	▲17,176	▲5.01%
女性	386,128	⇒	364,811	▲21,317	▲5.52%

高知県人口：高知県HP（高知県推計人口 人口動態及び推計世帯数より）

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 四万十町の人口減少率は、高知県全体と比較すると男女ともに大きく、特に女性の率が高い
- ✓ 「5～9歳」の女性（+17人）、「30～34歳」の男女（男+11人・女+30人）で流入超過となっている
- ✓ 一方で、「10～29歳」の男女（男性▲211人・女性▲256人）で流出超過となっている。特に、「20～24歳」の世代（男▲92人・女▲137人）の流出が大きい

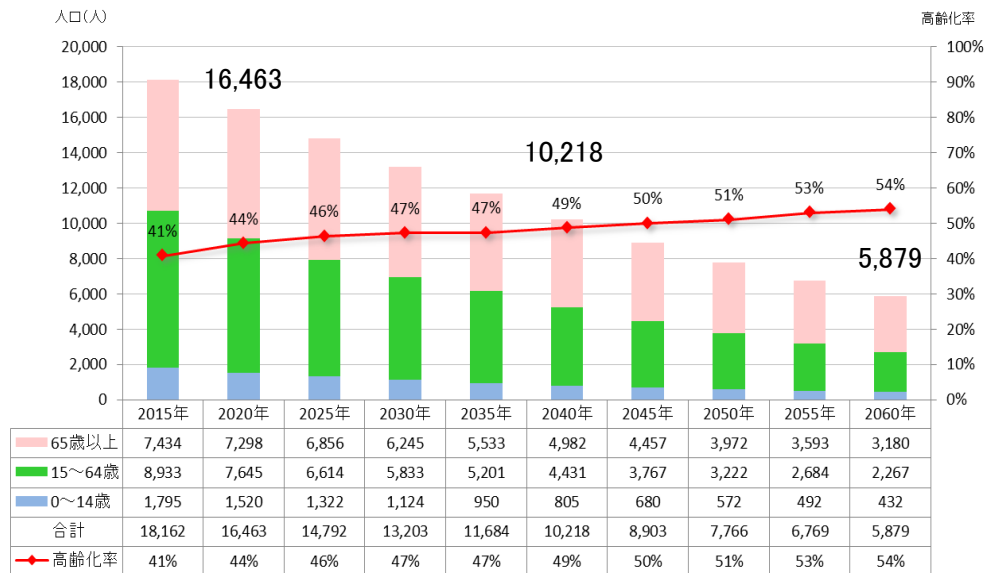
6. 四万十町全体の人口推計【現状推移】

◇ 人口推移の解説

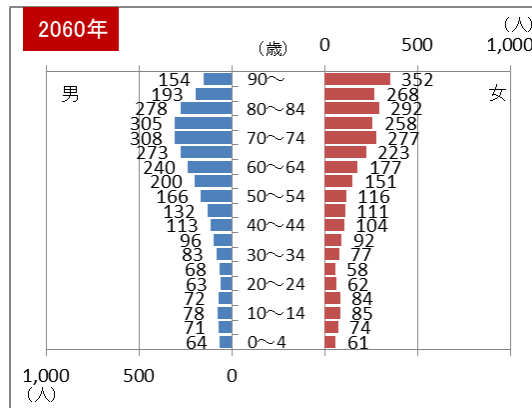
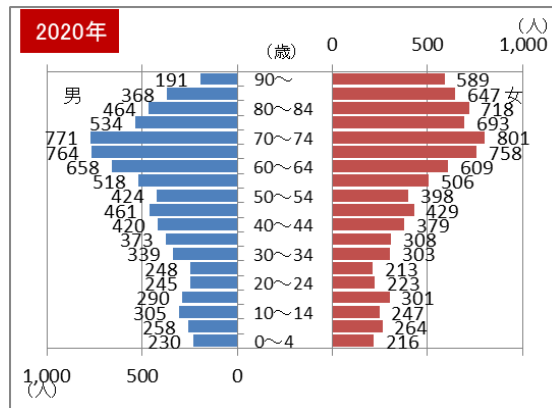
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、四万十町の人口は10,584人減少（増減率▲64.3%）
- ✓ 年少人口は1,520人→432人（同▲71.6%）、生産年齢人口は7,645人→2,267人（同▲70.3%）に減少
- ✓ 老年人口は7,298人→3,180人（同▲56.4%）に減少するものの、高齢化率は54%まで上昇
- ✓ 男女別・年代別でも総じて人口が減少。特に54歳以下の世代の減少が顕著
- ✓ 児童・生徒数は983人→281人（同▲71.4%）に減少

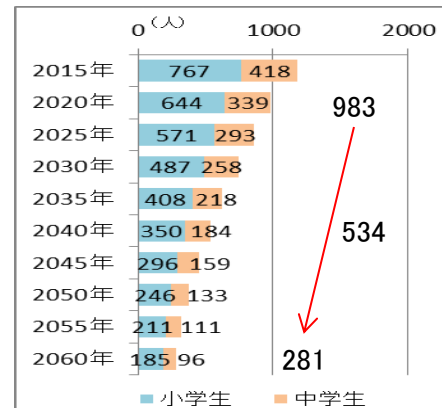
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



6. 四万十町全体の人口推計【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 合計：毎年40人（地域人口の0.2%）増 出生率：2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）

①：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年10組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年10組

※各小学校区毎の流入組数は、現在の人口比で按分

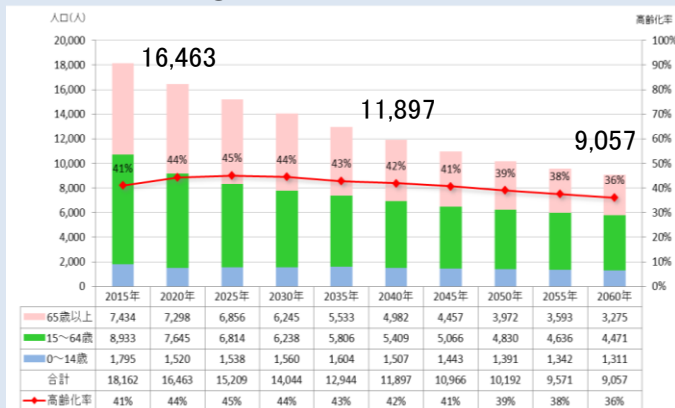
②：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年10組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年10組

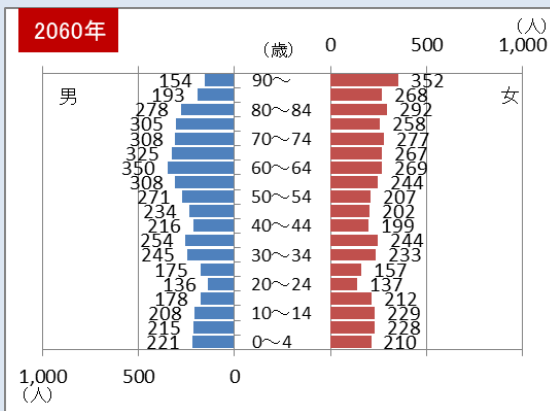
※各小学校区毎の流入組数は、窪川小学校区を除いた現在の人口比で按分

◇ 将来推計人口と高齢化比率

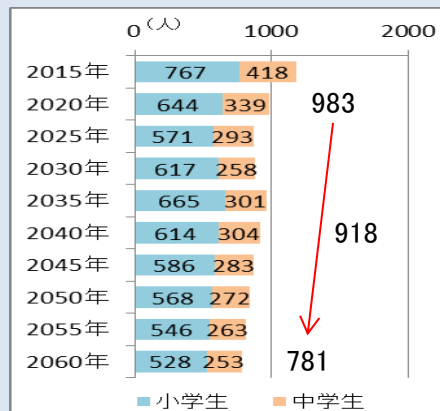
<シミュレーション①>



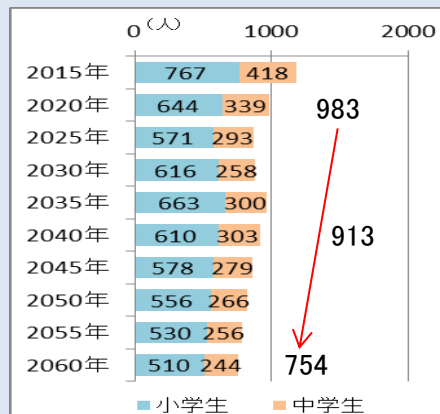
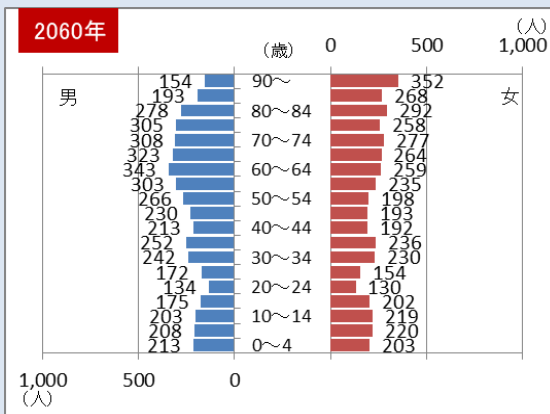
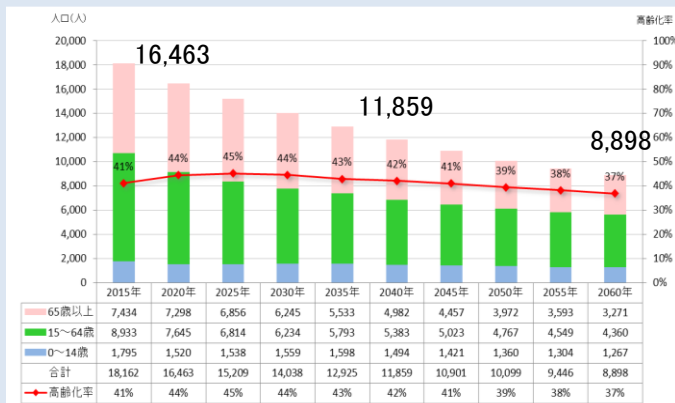
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション②>



6. 四万十町全体の人口推計【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年56人（地域人口の0.3%）増】（大人47人・子ども9人）

・20歳代前半～30歳代後半のUIターン者が毎年29人

・20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年9組

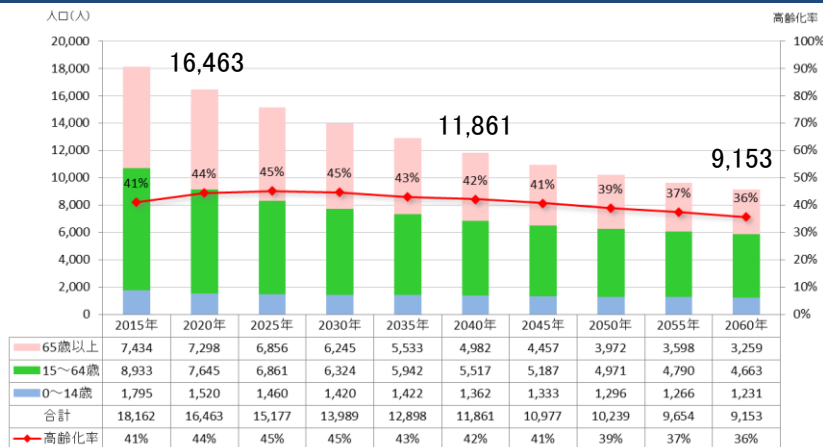
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

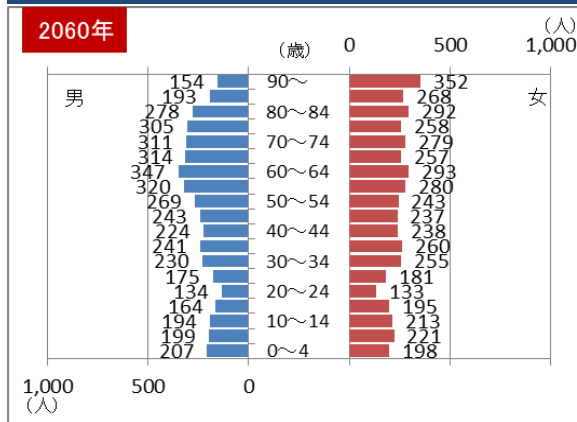
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代前半～30歳代後半のUIターン者29人と、20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦9組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を維持することを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の地域人口は9,153人となり、現状推移の5,879人を3,274人（増減率+55.7%）上回る。
- ✓ 年少人口は1,231人となり、現状推移の432人を799人（同+185.0%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は4,663人となり、現状推移の2,267人を2,396人（同+105.7%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は18ポイント改善し36%となる。

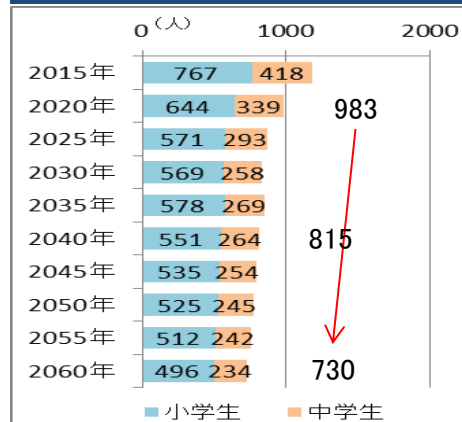
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-1. 窪川地域【現状分析】

【窪川地域の特徴】

- ・四万十町役場や窪川駅、各種商業施設が所在し、町の行政・経済の中心となる地域である。
- ・窪川小学校区に行政・金融機関、商業施設が集積しており、他の小学校区は四万十川やその支流沿いの平地に農地と集落が分散して立地している。

【主な施設等】

四万十町役場（本庁）、四万十町立図書館、四万十B&G海洋センター、窪川警察署、県立農業担い手育成センター、県立窪川高等学校、四万十町商工会、四万十町観光協会、JA高知県四万十支所、道の駅あぐり窪川JR四国土讃線窪川駅（他3駅）、予土線若井駅（他1駅）、土佐くろしお鉄道中村線 窪川駅（他1駅）など

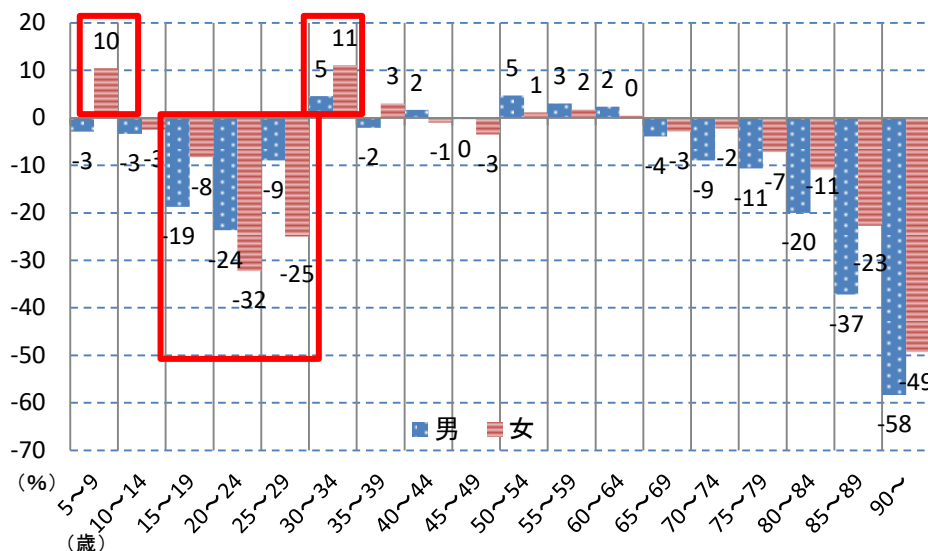
● 出生率 1.41

● 高齢化率 43%

◇ 人口推移実績（窪川地域、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
窪川地域	12,675	⇒	11,632	▲1,043	▲8.23%
男性	5,919	⇒	5,486	▲433	▲7.32%
女性	6,756	⇒	6,146	▲610	▲9.03%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 窪川地域の人口は5年間で1,043人減、減少率は8.23%となっており、町全体の減少率よりも小さい。
- ✓ 「5~9歳」の女性（+19人）、「30~34歳」の男女（男+11人・女+24人）で流入超過
- ✓ 一方で、「15~29歳」男女（男▲122人・女▲152人）のすべての年齢層で流出超過となっている

7. 各地域（旧町村）別の人口推計

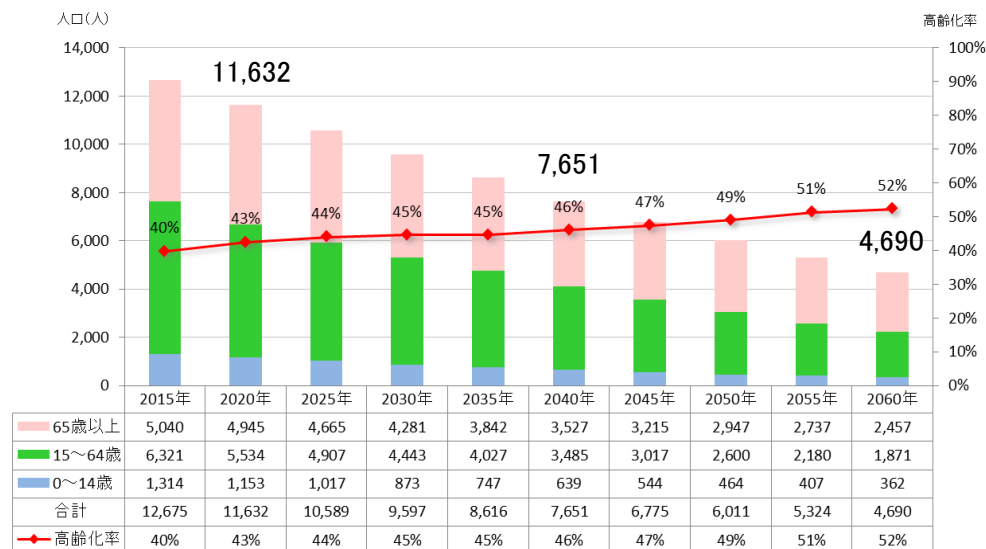
7-1. 窪川地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

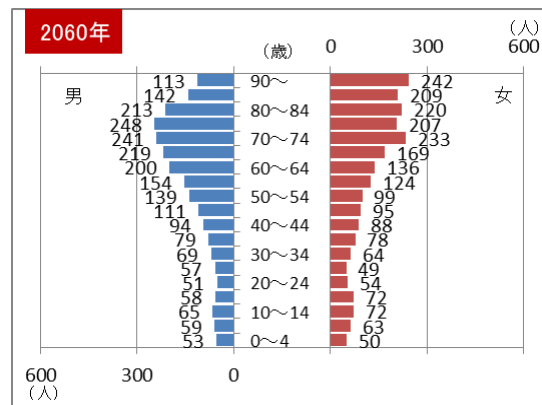
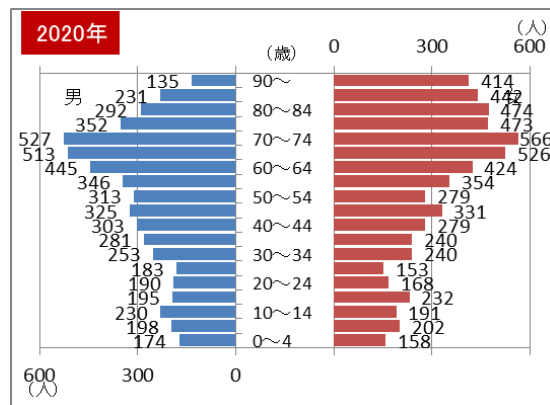
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は▲6,942人減少（増減率▲59.7%）
- ✓ 年少人口は1,153人→362人（同▲68.6%）、生産年齢人口は5,534人→1,871人（同▲66.2%）に減少
- ✓ 老年人口は4,945人→2,457人（同▲50.3%）に減少するものの、高齢化率は52%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に20～34歳男女の世代の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は747人→237人（同▲68.3%）に減少

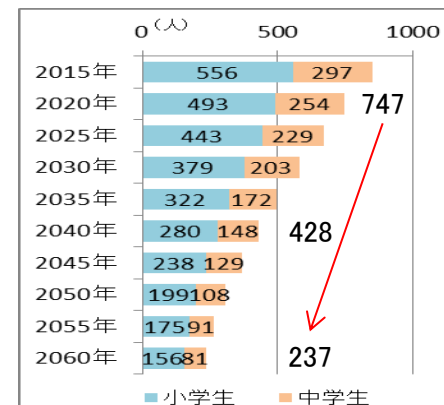
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-1. 窪川地域【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率:2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

①:下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年8組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年6組

【合計 毎年28人(地域人口の0.2%)増】

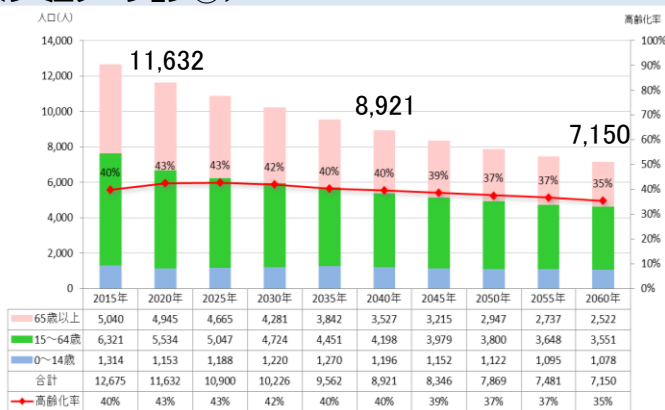
②:下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年5組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年5組

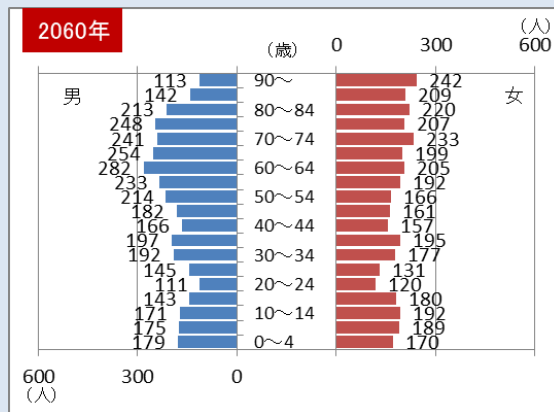
【合計 毎年20人(地域人口の0.2%)増】

◇ 将来推計人口と高齢化比率

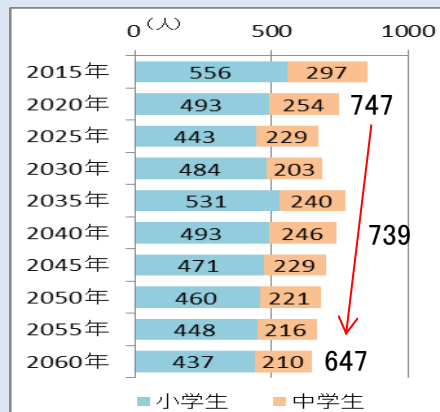
<シミュレーション①>



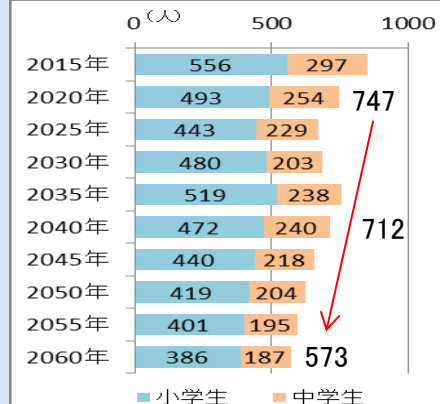
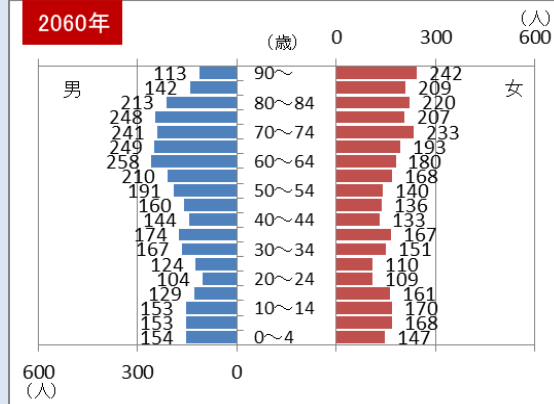
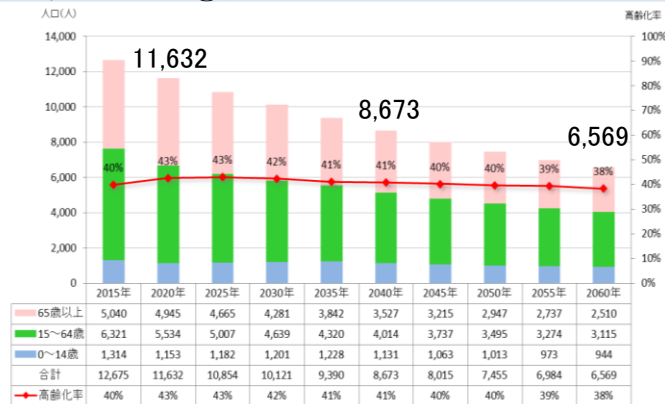
◇ 人口ピラミッド(2060年)



◇ 児童・生徒数(2060年)



<シミュレーション②>



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-1. 窪川地域【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年32人（地域人口の0.3%）増】（大人28人・子ども4人）

- ・20歳代後半のUIJターン者が毎年20人

- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年4組

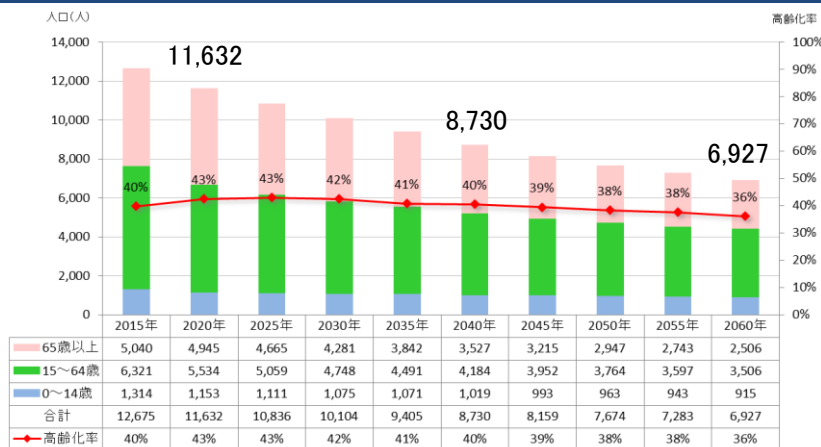
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

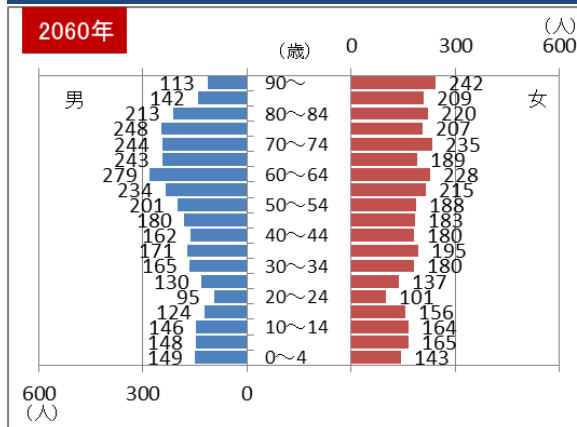
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代前半～30歳代後半のUIJターン者20人と、20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦4組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の地域人口は6,927人となり、現状推移の4,690人を2,237人（増減率+47.7%）上回る。
- ✓ 年少人口は915人となり、現状推移の362人を553人（同+152.8%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は3,506人となり、現状推移の1,871人を1,635人（同+87.4%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は16ポイント改善し36%となる。

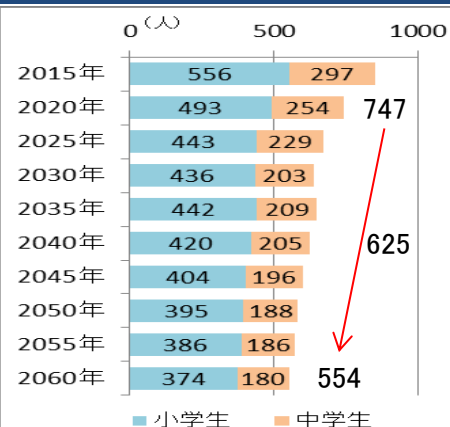
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-2. 大正地域【現状分析】

【大正地域の特徴】

- ・町の中央部に位置し、地域の南部を東西に横断する四万十川及びその支流沿いの平地に集落と農地が分散しており、地域面積のほとんどが森林で占められている。
- ・田野々小学校区の中心部は、JR土佐大正駅を中心にコンパクトに大正地域振興局、町立図書館大正分館、小中学校、診療所、商店等が集積している。

【主な施設等】

四万十町大正地域振興局、県立四万十高等学校、町立図書館大正分館、大正診療所、JR四国予土線土佐大正駅（他1駅）、道の駅四万十大正、JA高知県大正支所、四万十町郷土資料館、海洋堂ホビー館四万十／かつば館

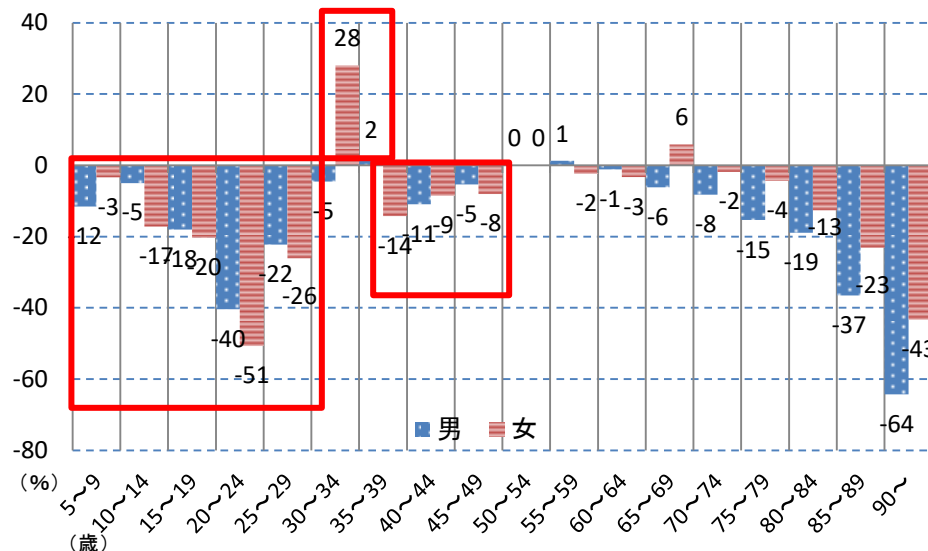
● 出生率 1.48

● 高齢化率 46%

◇ 人口推移実績（地域、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
大正地域	2,617	⇒	2,308	▲309	▲11.81%
男性	1,262	⇒	1,107	▲155	▲12.28%
女性	1,355	⇒	1,201	▲154	▲11.37%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 大正地域の人口は、5年間で▲309人減、減少率は11.81%となっており、町全体の減少率よりも大きい。
- ✓ 「30~34歳」の女性（+7人）「35~39歳」の男性（+1人）で流入超過
- ✓ 一方で、「5~29歳」の男女（男▲47人・女▲65人）、「35~39歳」の女性（▲5人）、「40~49歳」の男女（男▲10人・女▲10人）で流出超過。特に「20~24歳」の男女（男▲19人・女▲36人）の流出が多い

7. 各地域（旧町村）別の人口推計

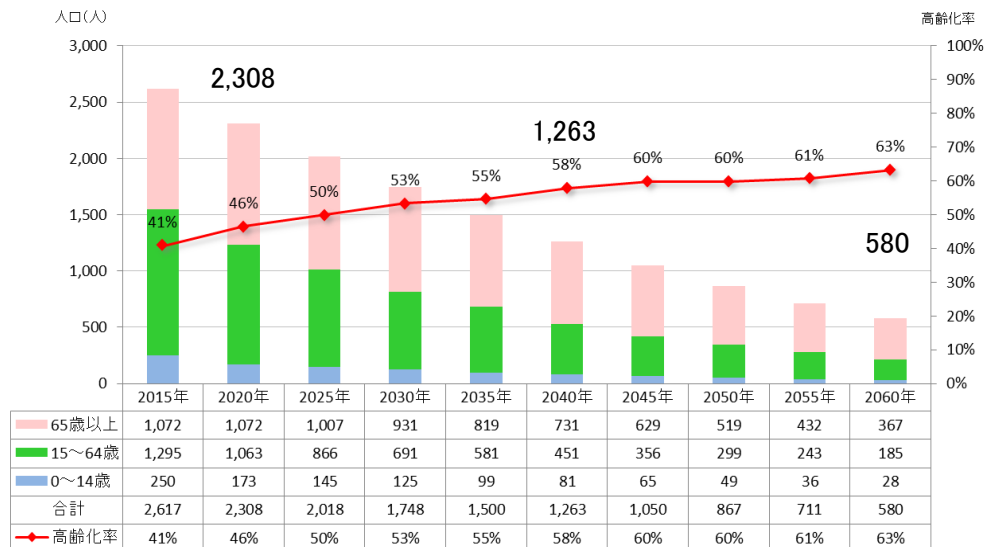
7-2. 大正地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

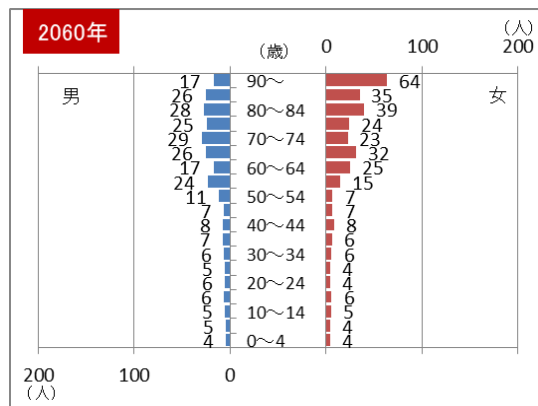
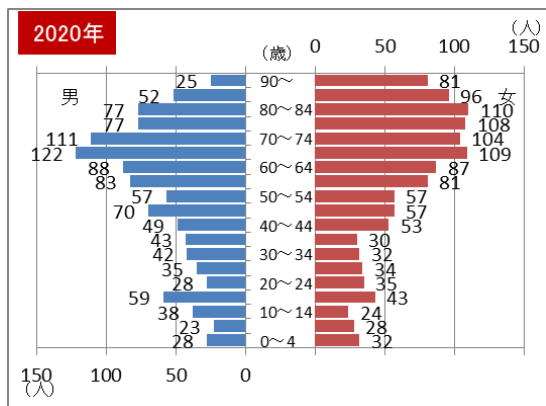
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は▲1,728人減少（増減率▲74.9%）
- ✓ 年少人口は173人→28人（同▲83.8%）、生産年齢人口は1,063人→185人（同▲82.6%）に減少
- ✓ 老年人口は1,072人→367人（同▲65.8%）に減少するものの、高齢化率は63%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に54歳以下世代の男女の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は113人→19人（同▲83.2%）に減少

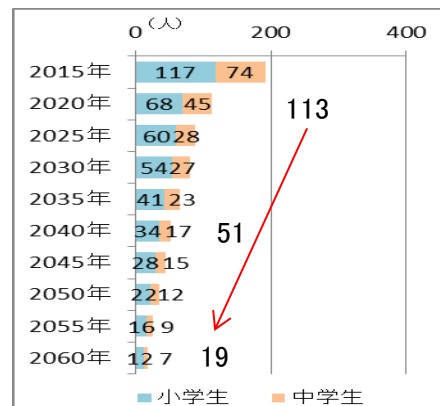
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-2. 大正地域【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率:2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

①:下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年1組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年2組

【合計 毎年6人(地域人口の0.3%)増】(大人6人)

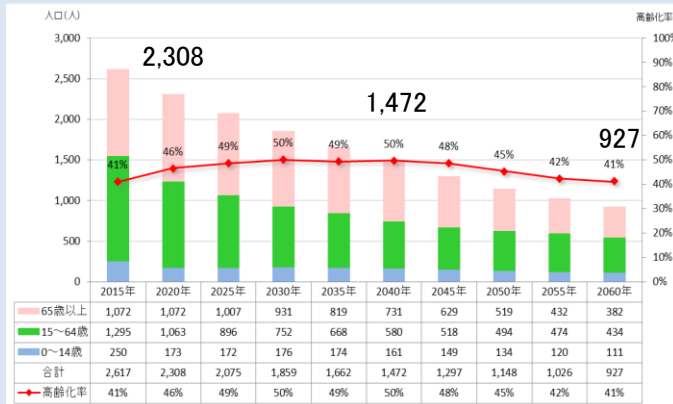
②:下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年2組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年3組

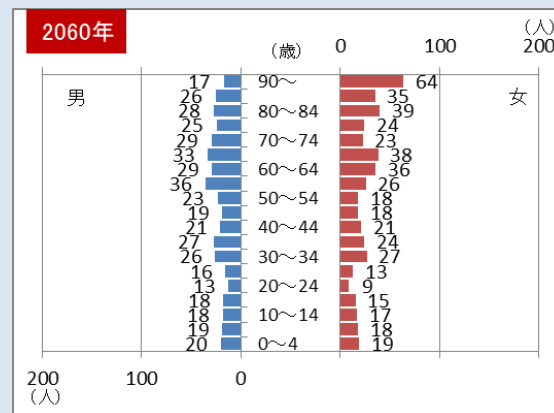
【合計 毎年10人(地域人口の0.4%)増】(大人10人)

◇ 将来推計人口と高齢化比率

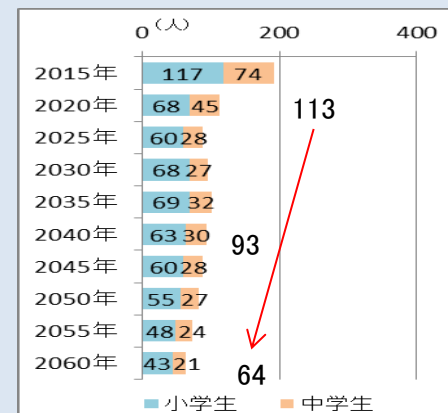
<シミュレーション①>



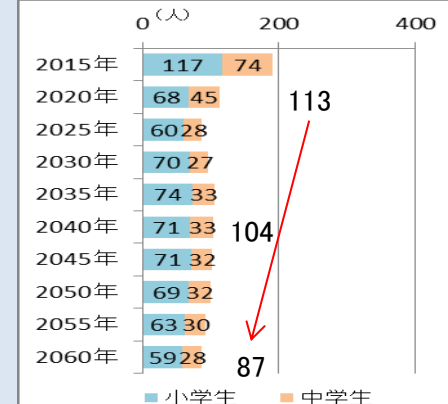
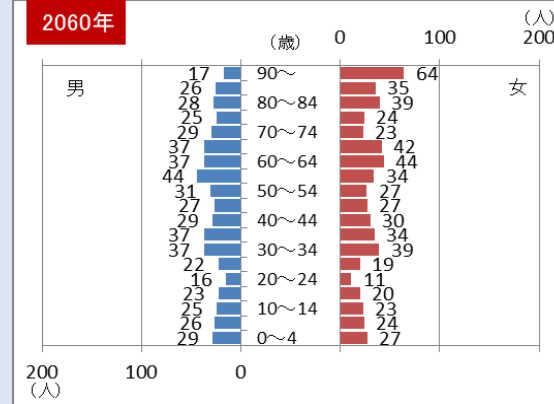
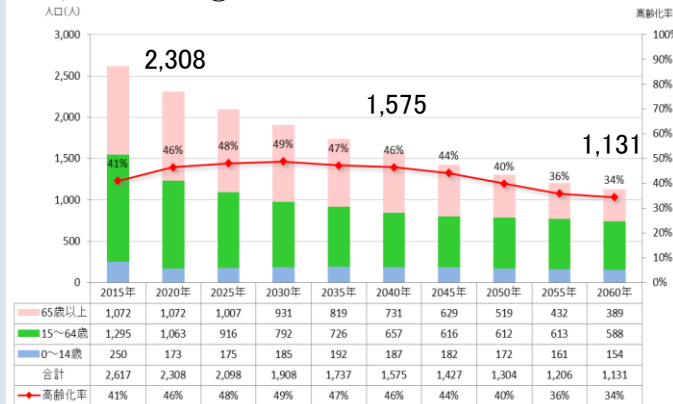
◇ 人口ピラミッド(2060年)



◇ 児童・生徒数(2060年)



<シミュレーション②>



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-2. 大正地域【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年13人（地域人口の0.6%）増】（大人10人・子ども3人）

・20歳代前半のUIターン者が毎年2人、20歳代後半のUIターン者が毎年2人 計4人

・20歳代後半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組、30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年2組 計3組

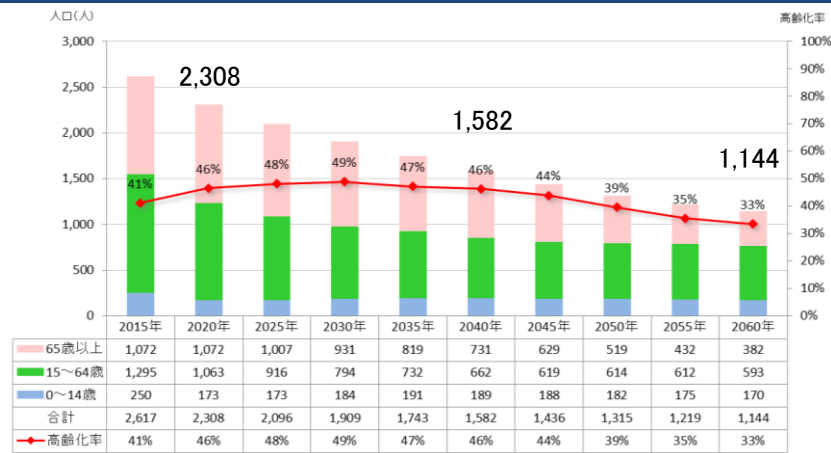
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

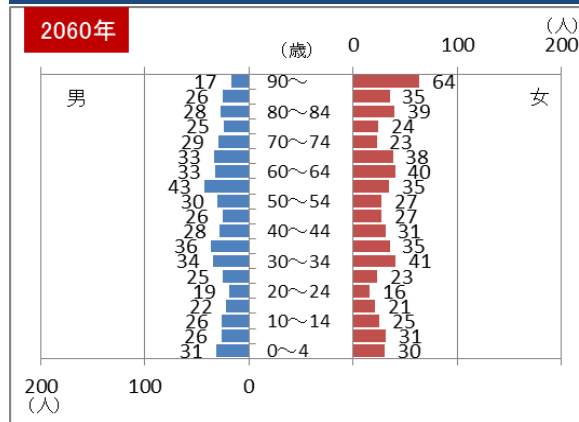
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代前半～20歳代後半のUIターン者4人と、20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦3組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の地域人口は1,144人となり、現状推移の580人を564人（増減率+97.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は170人となり、現状推移の28人を142人（同+507.1%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は593人となり、現状推移の185人を408人（同+220.5%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は30ポイント改善し33%となる。

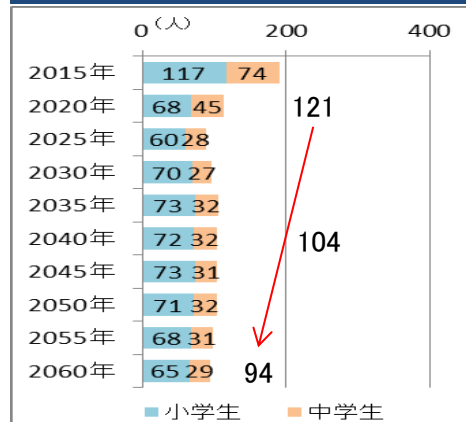
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-3. 十和地域【現状分析】

【十和地域の特徴】

- ・町の西部に位置し、愛媛県北宇和郡鬼北町・松野町と隣接する。
- ・地区の中心部を東西に横断する四万十川やその支流及び国道沿いの平地に住宅地や農地が立地しており、地域面積のほとんどが森林で占められている。

【主な施設等】

四万十町十和地域振興局、十和診療所、こいのぼり公園、JA高知県十和支所、道の駅四万十とおわ（四万十川ジップライン）、四万十清流消防署西分署、四国電力津賀発電所、JR四国予土線十川駅（他1駅）など

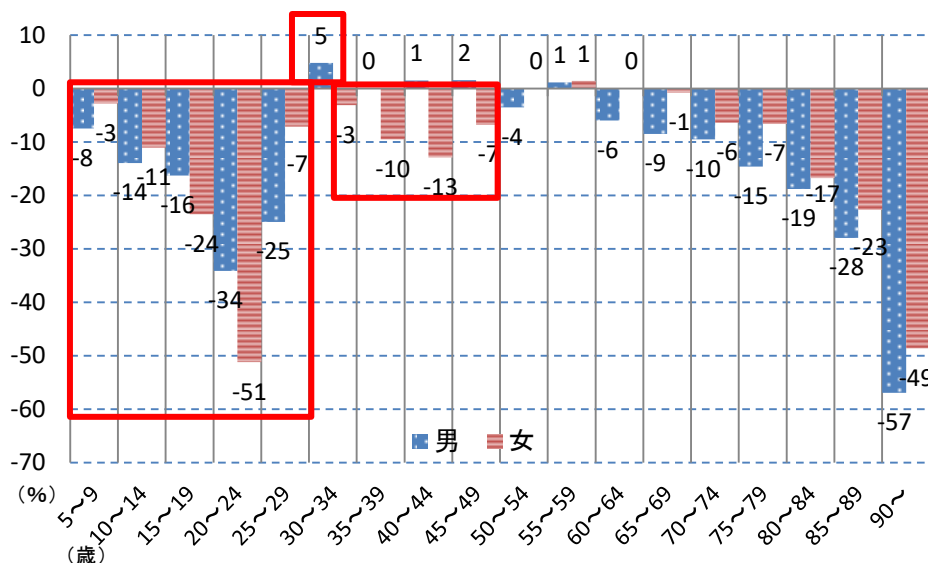
●出生率 1.65

●高齢化率 51%

◇ 人口推移実績（地域、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
十和地域	2,870	⇒	2,523	▲347	▲12.09%
男性	1,425	⇒	1,268	▲157	▲11.02%
女性	1,445	⇒	1,255	▲190	▲13.15%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 十和地域の人口は、5年間で▲347人減、減少率は12.09%となっており、町全体の減少率よりも大きい
- ✓ 「30~34歳」の男性(+2人)で流入超過
- ✓ 一方で、「5~29歳」の男女(男性▲40人・女性▲36人)、「30~49歳」の女性(▲14人)で流出超過。特に、「20~24歳」の男女(男▲14人・女▲21人)での流出が大きい

7. 各地域（旧町村）別の人口推計

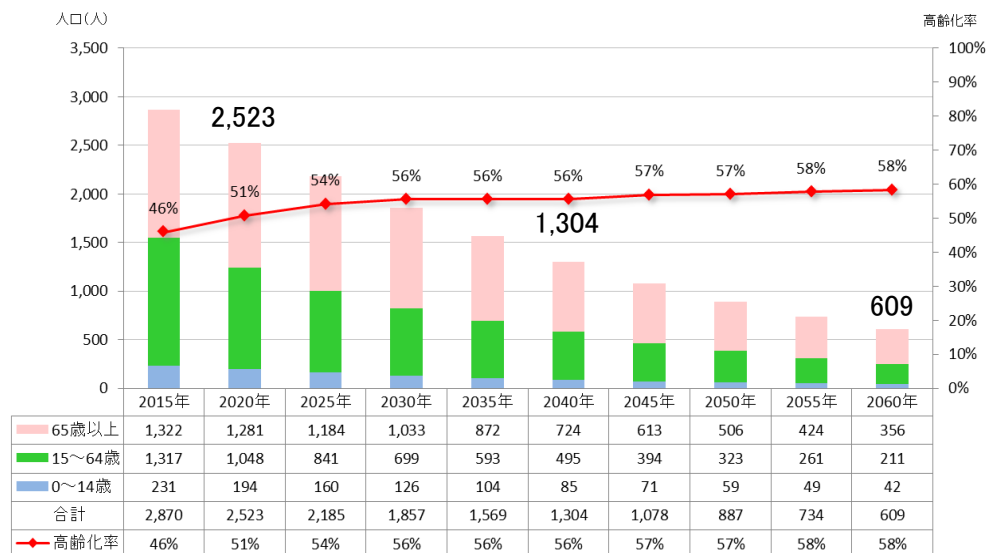
7-3. 十和地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

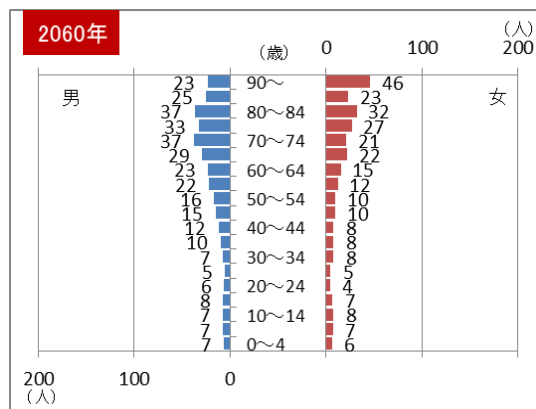
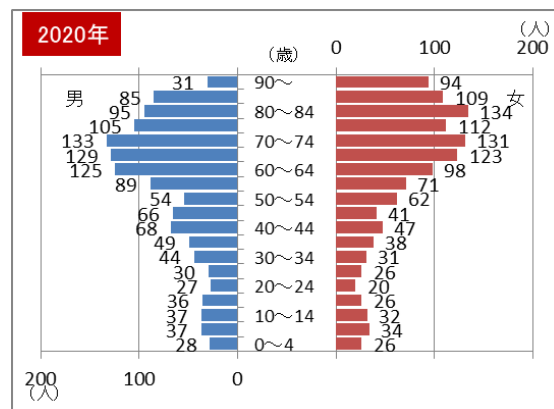
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、校区人口は▲1,914人減少（増減率▲75.9%）
- ✓ 年少人口は194人→42人（同▲78.4%）、生産年齢人口は1,048人→211人（同▲79.9%）に減少
- ✓ 老年人口は1,281人→356人（同▲72.2%）に減少するものの、高齢化率は58%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に59歳以下世代の男女の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は124人→27人（同▲78.2%）に減少

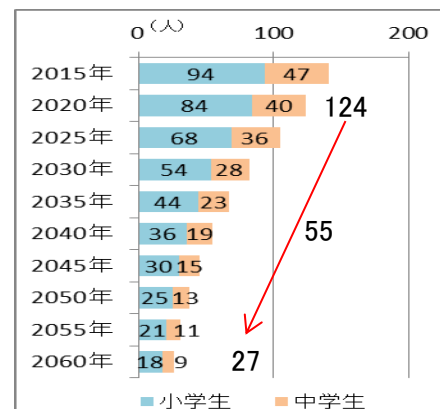
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-3. 十和地域【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】出生率：2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）

①：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年1組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年2組

【合計 毎年6人（地域人口の0.2%）増】（大人6人）

②：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年3組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年2組

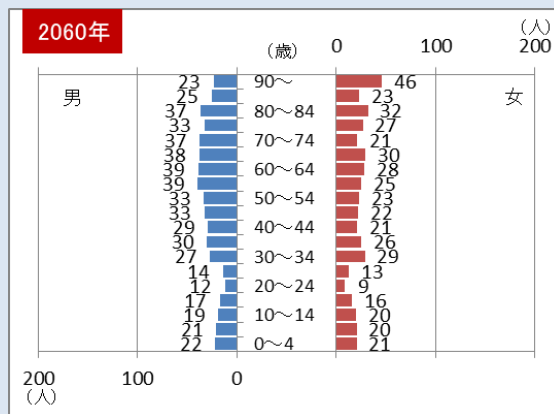
【合計 毎年10人（地域人口の0.4%）増】（大人10人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

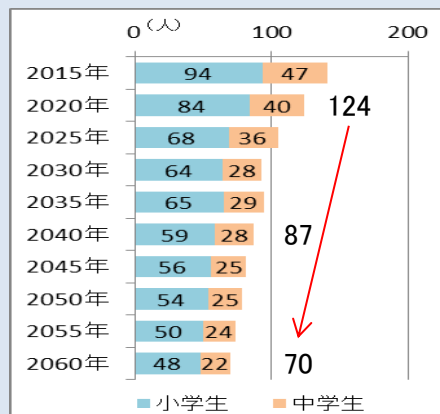
<シミュレーション①>



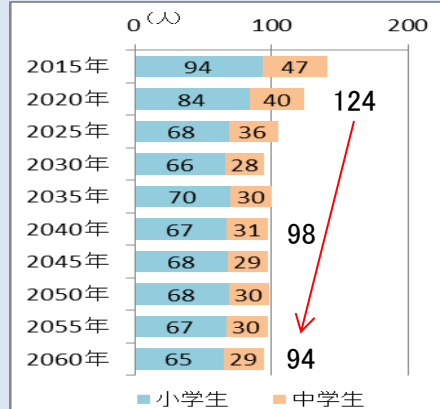
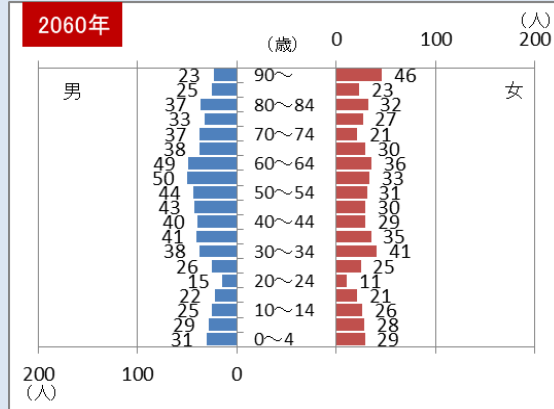
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション②>



7. 各地域（旧町村）別の人口推計

7-3. 十和地域【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年11人（地域人口の0.4%）増】（大人9人・子ども2人）

・20歳代前半のUIJターン者が毎年3人、20歳代後半のUIJターン者が毎年2人 計5人

・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年2組

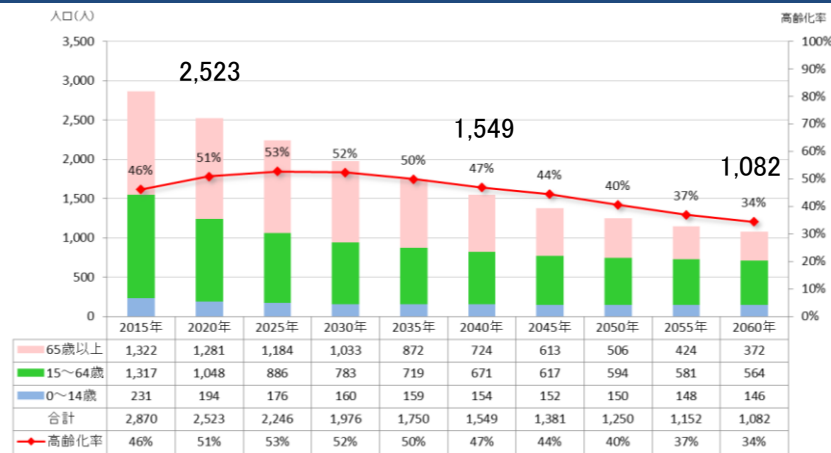
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

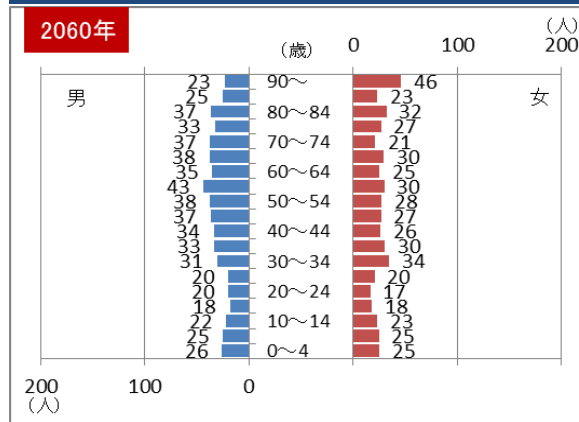
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代前半～20歳代後半のUIJターン者5人と、20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦2組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の地域人口は1,082人となり、現状推移の609人を473人（増減率+77.7%）上回る。
- ✓ 年少人口は146人となり、現状推移の42人を104人（同+247.6%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は564人となり、現状推移の211人を353人（同+167.3%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は24ポイント改善し34%となる。

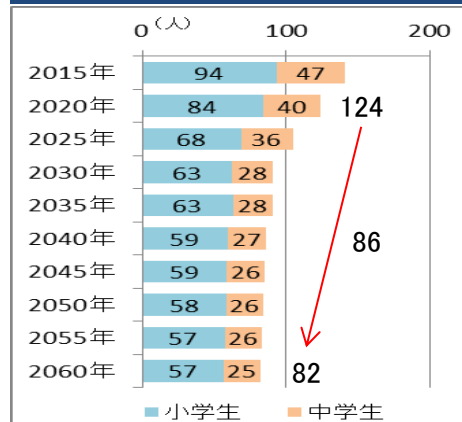
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数

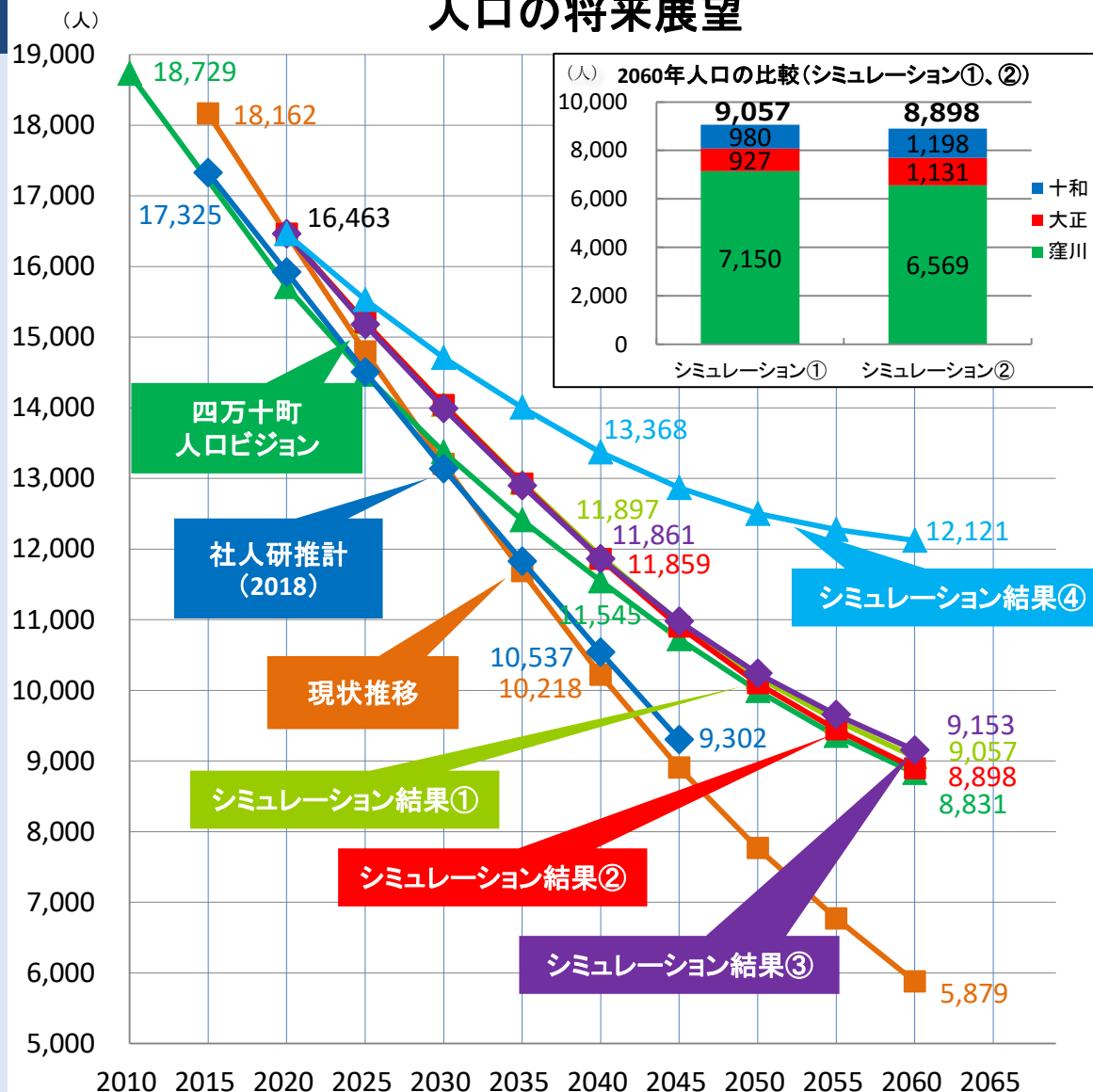


8. 現状推移とシミュレーション結果の比較

◇ 結果の比較（右図参照）

- ✓ 国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）における2018年（平成30年）推計では、四万十町の人口は2040年に10,537人、2045年には9,302人になるとされている（外国人を含む）。
- ✓ 先に述べたとおり、本調査では外国人を除いて推計を行っている。しかし、2020年7月時点の四万十町の人口は16,463人であり、現時点では四万十町の取組が奏功し、「社人研推計」「人口ビジョン」を上回って推移している。しかし2030年頃を境に「現状推移」結果は「社人研推計」「四万十町人口ビジョン」を下回って推移し、減少幅も大きくなっていく推計である。
- ✓ 本シミュレーションでは前述のとおり、各小学校区ごとに20～30歳代のUIJターンの若者、0～4歳の子どもがいる20歳代後半から30歳代前半の夫婦の増加数及び出生率の上昇を想定した。これは、子どもがいる夫婦や、近い将来に結婚し子育て世代となる若者を取り戻す定住増加（あるいは流出阻止）を実現すれば、地域人口の安定化が図れるとされているためである。
- ✓ 各シミュレーションの想定条件を達成することで、シミュレーション結果が「社人研推計」「町人口ビジョン」をそれぞれ上回る。

人口の将来展望



※シミュレーション④の詳細は巻末に参考資料として添付

(年)

(再掲) 人口推計及びシミュレーションについて

各小学校区で行うシミュレーションは下記3パターンとした。

【シミュレーション①】

四万十町全体で

- ・20歳代後半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ・30歳代前半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ※各小学校区毎の流入組数は、現在の人口比で按分した。



合計特殊出生率2.18の達成
(四万十町人口ビジョン目標値)

【シミュレーション②】

四万十町全体で

- ・20歳代後半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ・30歳代前半夫婦の毎年10組の流入促進(流出阻止)
- ※各小学校区毎の流入組数は、窪川小学校区を除いた現在の人口比で按分
- ※窪川小学校区の人口の偏向を避けた場合を想定した。



合計特殊出生率2.18の達成
(四万十町人口ビジョン目標値)

【シミュレーション③】

- ・各小学校区の流出入の特性に応じて、流入（流出阻止）世帯を検討
※流入（流出阻止）世帯の検討に当たっては、各小学校のコーホート変化率の流出年齢や性別の特性、各小学校区の産業構造、町営住宅の有無等を考慮した。
※各小学校区の2020年人口の0.5%程度の人口の流入（流出阻止）を想定した。
※米奥小学校区については農家住宅6戸に対し、R3～7年、13～17年、23～27年、33～37年の間にそれぞれ30代前半夫婦4組、30代後半夫婦2組の流入を想定し、6世帯のうち3世帯は0～4歳の子どもが1人いる世帯とした。
また、10年間居住し農家住宅を退去した世帯はそのまま小学校区に残る想定とした。



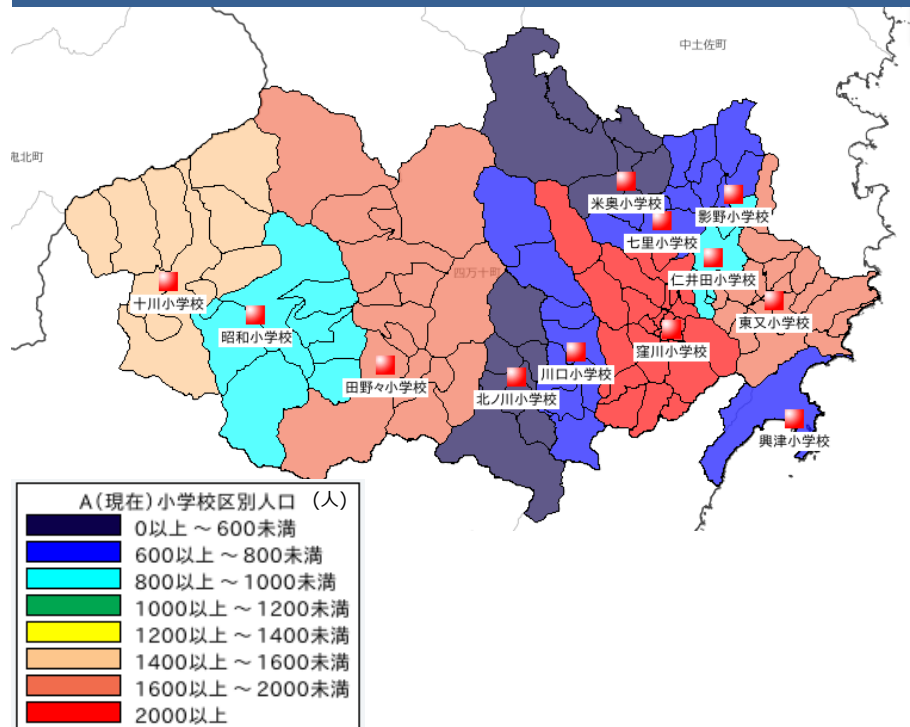
合計特殊出生率1.68
※厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」
四万十町出生率ベイズ推定値

四万十町全体および旧町村の3地域の推計については、各小学校区の推計値を合算した。

9. 各小学校区別の人口推計 人口分布の変移 (1)

TOWN

【再掲】小学校区別の人口分布 (2020年7月)

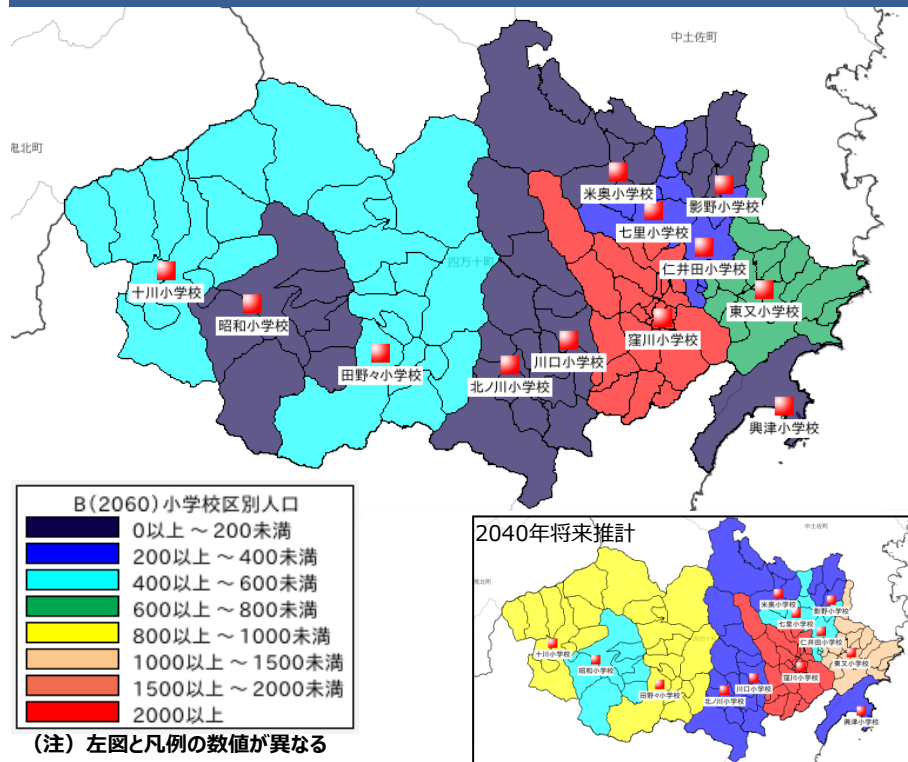


出典：四万十町住民基本台帳人口(2020.5.1時点)

小学校区別の人口をみると、窪川小校区が町全体人口の35.3%を占めており、次点に田野々小校区が10.6%、東又小校区9.8%、十川小校区9.5%の順となっており、これらの小学校区で、全体の65.2%の人口を占めている。

これら4小学校区の周辺に位置する興津小校区やその他山間部の各小学校区では、800人に満たない校区が半数存在する。

現状推移した場合の2060年将来推計人口分布



2020年7月現在の小学校区別人口と比較すると、全小学校区で人口は減少しており、特に人口の多い窪川、東又、田野々、十川の小学校区の減少数が大きい。(オレンジ・肌色→緑・水色へ)。

特に、窪川地域の外縁部の興津、北ノ川、川口、米奥の小学校区は、現在の人口が500～700人程度から著しく人口が減少し、200人を下回ることが予想される。

注) 本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

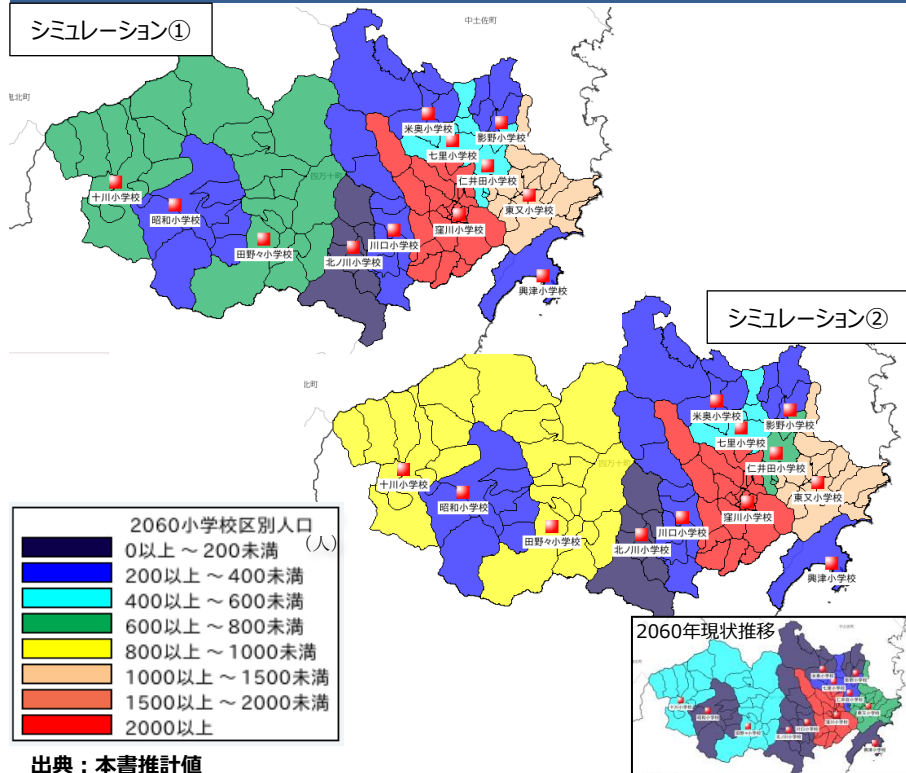
注) 地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小校区へ、「作屋」は七里小校区に含めて表示している。

9. 各小学校学区別の人口推計 人口分布の変移 (2)

TOWN

SIM①②小学校学区別の2060年将来推計人口分布

シミュレーション①



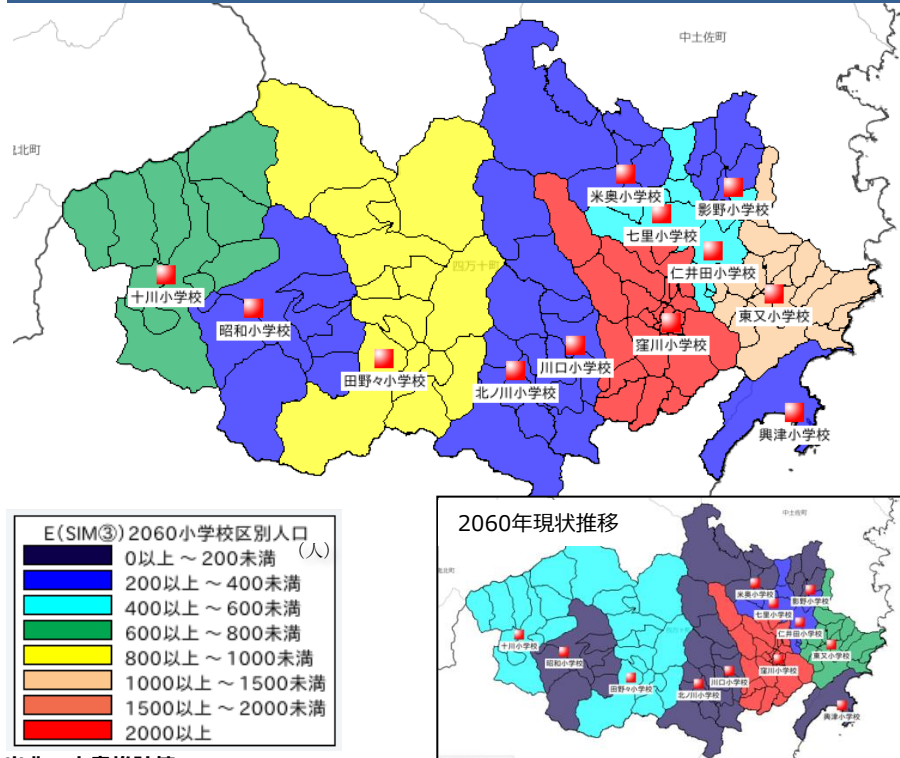
2060年現状推移の小学校学区別人口と比較すると、シミュレーション①②とも、現状推移より小学校区により1.2～2.1倍人口は増加する推計となる。また、町全体の推計人口は①9,057人②8,898人となる。これは、②が町の人口の3割超を占める窪川小学校区への人口流入（流出阻止）を想定しないことにより発生した差である。

①と②の小学校学区別人口を比較すると、①に比べ②では東又、田野々、十川等では人口が増加し、加えて窪川の全体に占める人口比率は、①45.9%→②37.5%と減少する。

注) 本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

注) 地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小校区へ、「作屋」は七里小校区に含めて表示している。

SIM③小学校学区別の2060年将来推計人口分布



シミュレーション③における小学校学区別の人口推計をみると、窪川小学校区が町全体人口の約41.0%を占めることになり、次点に東又が11.3%、次いで田野々8.9%、十川8.1%の順となっており、これらの小学校区で、全体の69.3%の人口を占めることになる。これは2020年現在での同比65.2%から拡大する推計となる。

これら4小学校区の周辺に位置する興津小学校区や川口小学校区、その他山間部の影野、米奥、北ノ川、昭和小学校区では、400人に満たない小中学校人口の推計値となる。

9. 各小学校区別の人口推計

9-1. 仁井田小学校区【現状分析】

【仁井田小学校区の特徴】

- ・町の東部に位置し、影野、東又、窪川、七里小学校区に隣接する。
- ・地区の中央を国道56号線が南北に縦断し、JR四国土讃線六反地駅、仁井田駅付近の平地に住居や農地が立地している。

【主な施設等】

四万十町立仁井田小学校、四万十町立ひかり保育所、JR四国土讃線六反地駅・仁井田駅、仁井田町民会館、道の駅あぐり窪川、四万十町中央IC、仁井田郵便局

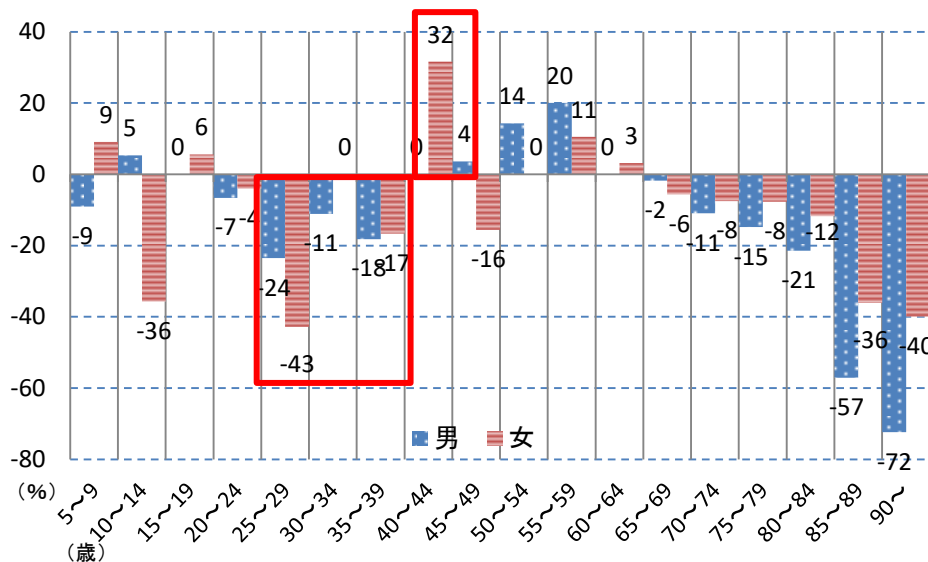
●出生率 1.05

●高齢化率 44%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
仁井田小学校区	982	⇒	881	▲101	▲10.29%
男性	454	⇒	412	▲42	▲9.25%
女性	528	⇒	469	▲59	▲11.17%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



✓ 仁井田小学校区の人口は、5年間で101人減となっており、減少率は10.29%である

✓ 「40~44歳」の女性(+6人)で流入超過

✓ 一方で、「25~29歳」の男女(男▲4人・女▲9人)、「35~34歳」の男女(男▲4人・女▲4人)で流出超過

9. 各小学校学区別の人口推計

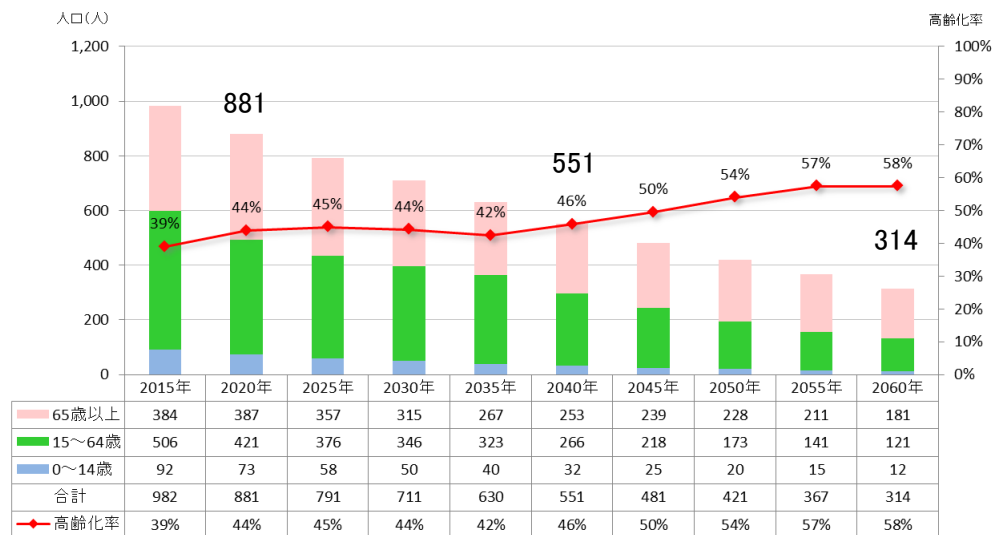
9-1. 仁井田小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

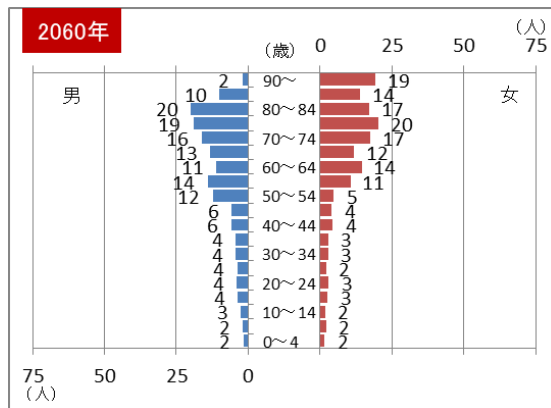
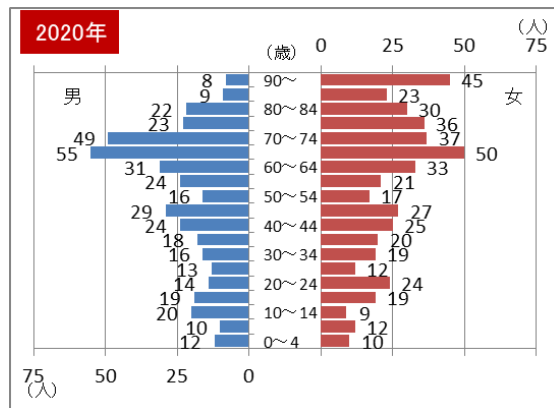
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地区人口は▲567人減少(増減率▲64.4%)
- ✓ 年少人口は73人→12人(同+83.6%)、生産年齢人口は421人→121人(同▲71.3%)減少
- ✓ 老年人口は387人→181人(同▲53.2%)に減少するが、高齢化率は58%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に49歳以下の全世代での減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は50人→8人(同▲84.0%)に減少

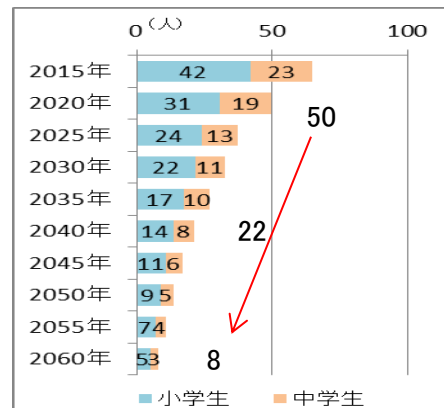
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-1. 仁井田小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率:2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

①:下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

・20歳代後半の夫婦が毎年1組

【合計 毎年2人(地域人口の0.2%)増】(大人2人)

②:下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

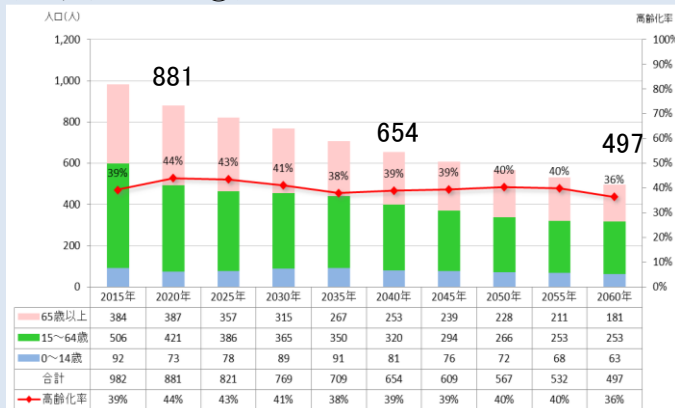
・20歳代後半の夫婦が毎年1組

・30歳代前半の夫婦が毎年1組

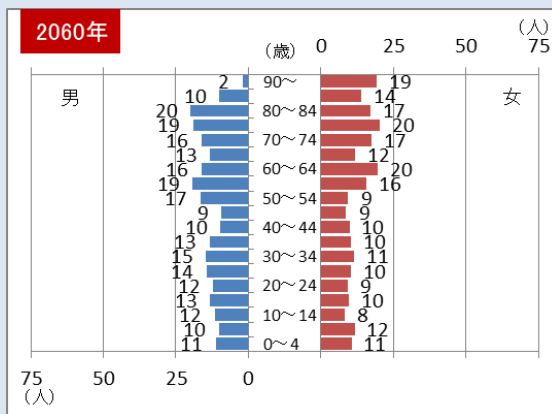
【合計 毎年4人(地域人口の0.5%)増】(大人4人)

◇ 将来推計人口と高齢化比率

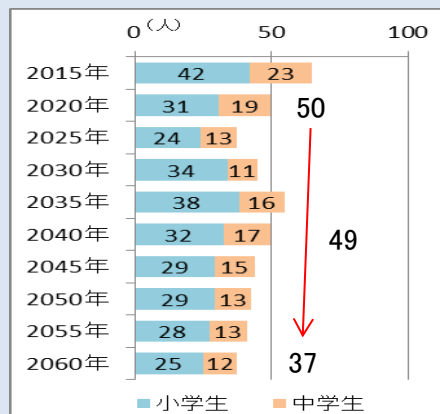
<シミュレーション①>



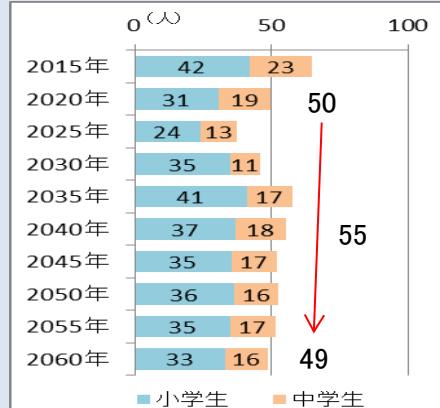
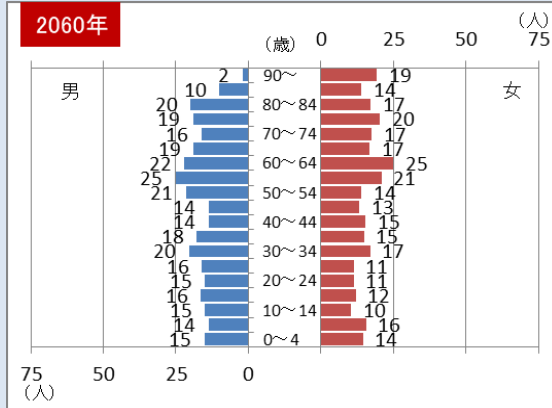
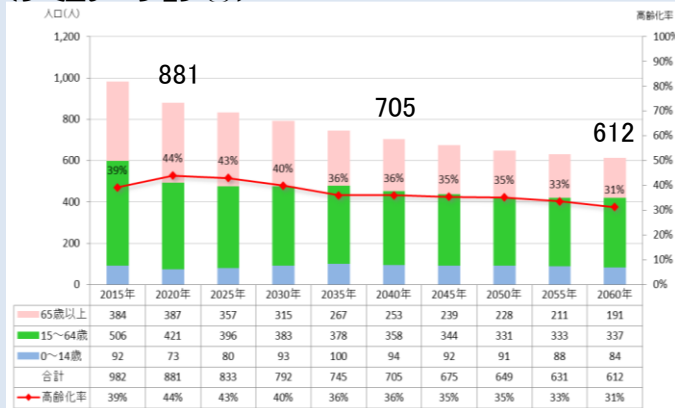
◇ 人口ピラミッド(2060年)



◇ 児童・生徒数(2060年)



<シミュレーション②>



9. 各小学校学区別の人口推計

9-1. 仁井田小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年4人（地域人口の0.5%）増】（大人3人・子ども1人）

- ・20歳代後半のUIターン者が毎年1人

- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組

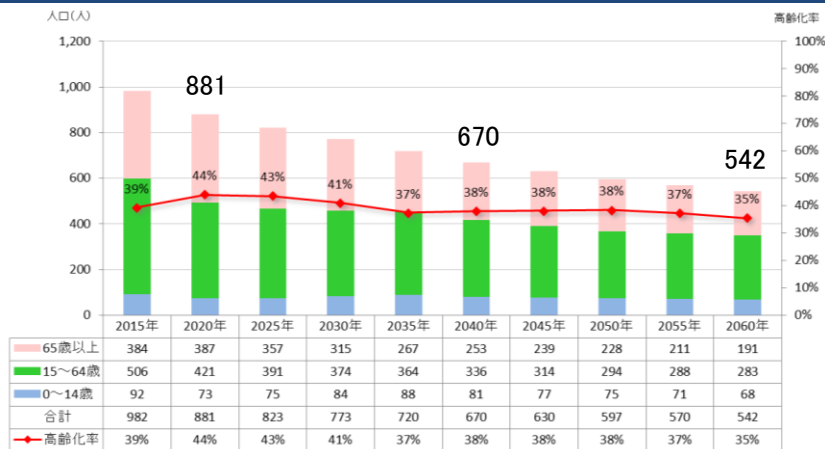
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.41（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

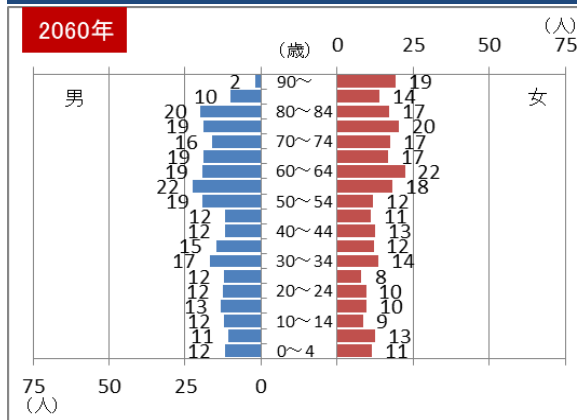
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半のUIターン者1人と、30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は542人となり、現状推移の314人を228人（増減率+72.6%）上回る。
- ✓ 年少人口は68人となり、現状推移の12人を56人（同+466.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は283人となり、現状推移の121人を162人（同+133.9%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は23ポイント改善し35%となる。

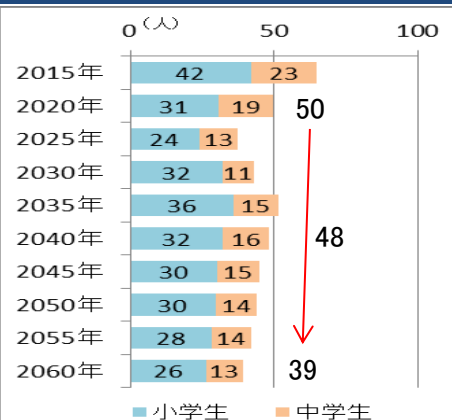
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-2. 影野小学校区【現状分析】

【影野小学校区の特徴】

- ・町の北東部に位置し、東又、仁井田、七里小学校区及び中土佐町に隣接する。
- ・地区の中央を国道56号線が南北に縦断し、JR四国土讃線影野駅付近の平地に住居や農地が立地している。
- ・地区の大半を山林が占める。

【主な施設等】

JR四国土讃線影野駅、七子峠展望台、影野簡易郵便局、高知自動車道四万十町東IC、特別養護老人ホーム窪川荘、水辺の公園(下呉地休憩所)

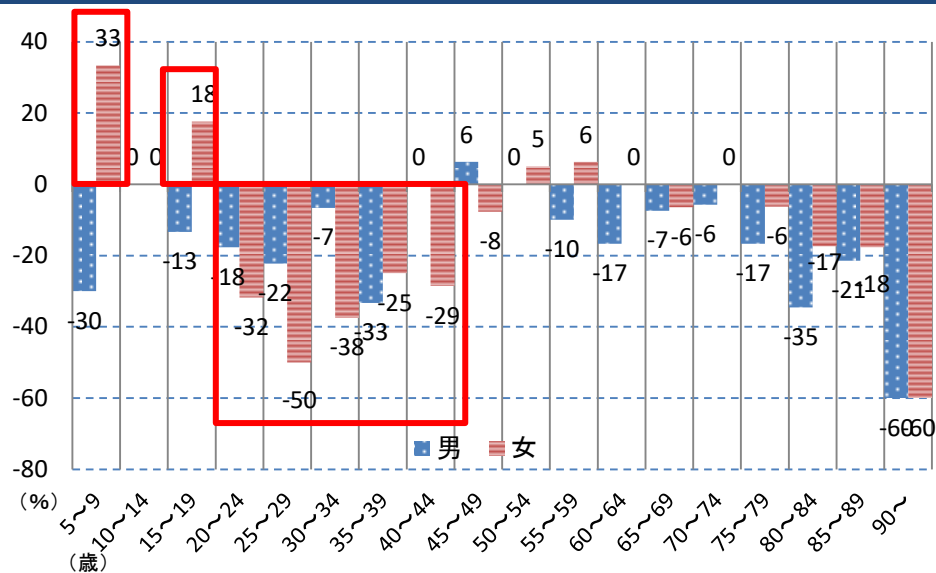
●出生率 1.24

●高齢化率 45%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
影野小学校区	707	⇒	609	▲98	▲13.86%
男性	317	⇒	278	▲39	▲12.30%
女性	390	⇒	331	▲59	▲15.13%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 影野小学校区の人口は、5年間で98人減となっており、減少率は▲13.86%である
- ✓ 「5~9歳」の女性(+2人)、「15~19歳」の女性(+3人)で流入超過
- ✓ 一方で、「20~44歳」の男女で大きく流出しており、特に「20~24歳」の男女(男▲3人、女▲7人)、「25~29歳」の女性(▲4人)が流出超過

9. 各小学校学区別の人口推計

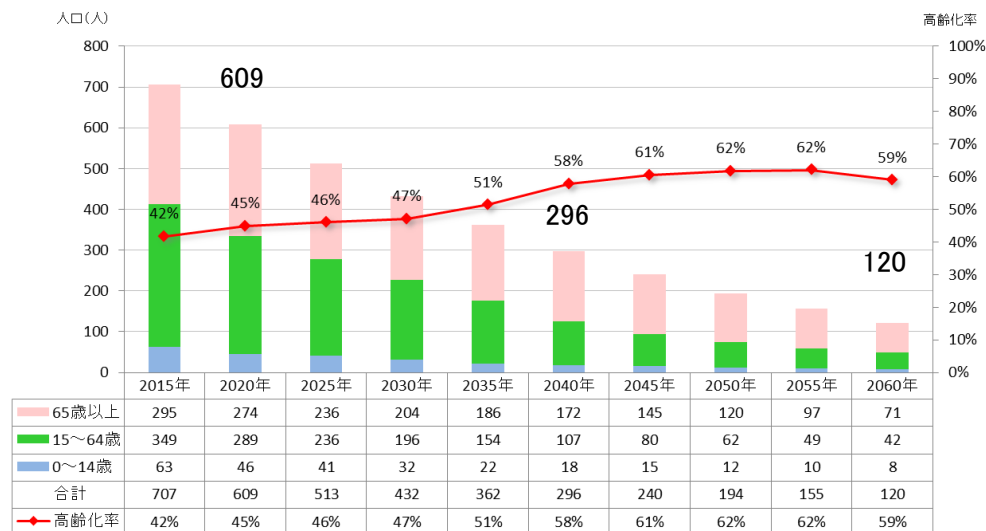
9-2. 影野小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

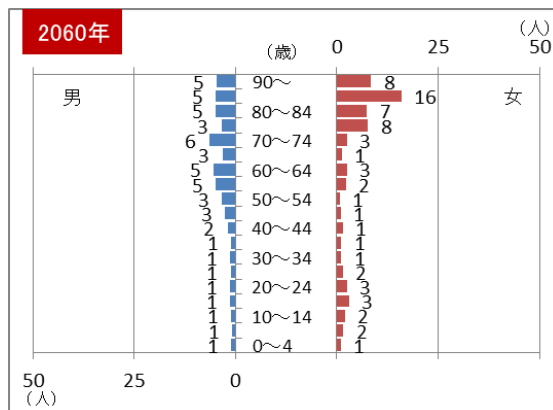
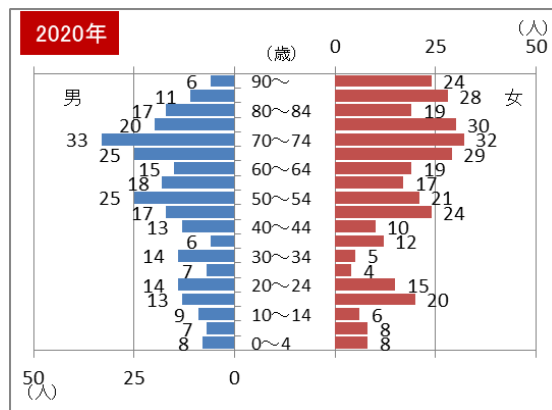
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は489人減少（増減率▲80.3%）
- ✓ 年少人口は46人→8人（同▲82.6%）、生産年齢人口は289人→42人（同▲85.5%）に減少
- ✓ 老年人口は274人→71人（同▲74.1%）に減少するも、高齢化率は59%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は31人→5人（同▲83.9%）に減少

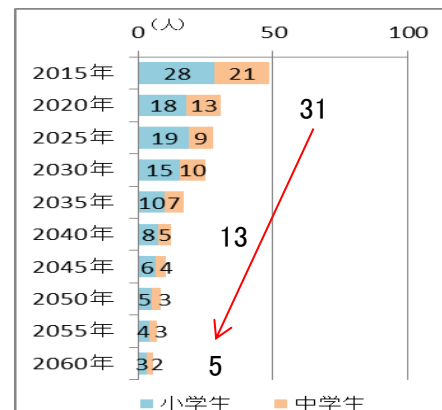
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2049年）



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-2. 影野小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年2人(地域人口の0.3%)増】(大人2人)

・20歳代後半の夫婦が毎年1組

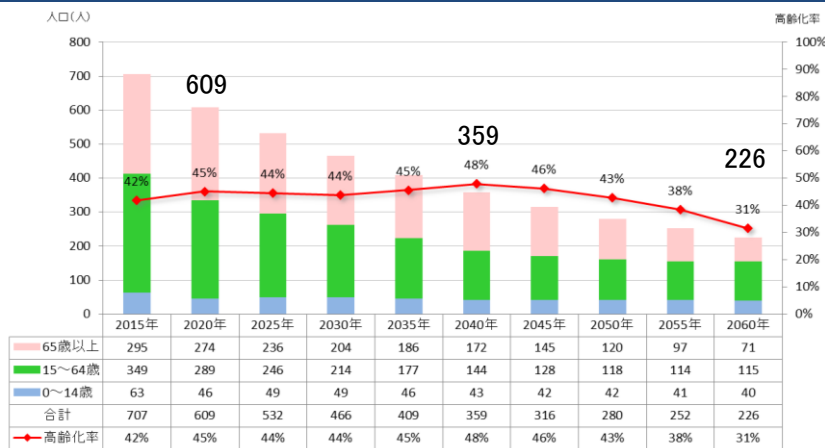
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.24(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

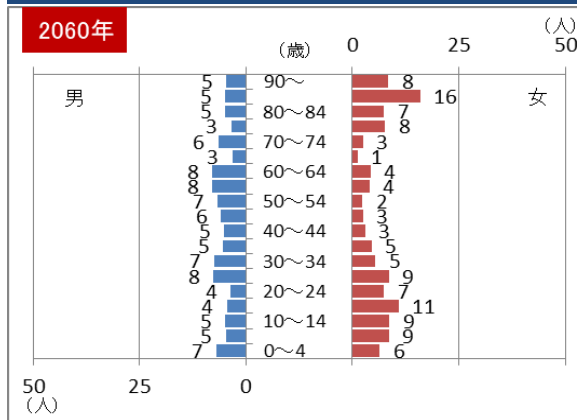
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半の夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、年少人口の増加を図るため、出生率2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)まで上昇させることを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は226人となり、現状推移の120人を106人(増減率+88.3%)上回る。
- ✓ 年少人口は40人となり、現状推移の8人を32人(同+400%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は115人となり、現状推移の42人を73人(同+173.8%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は28ポイント改善し31%となる。

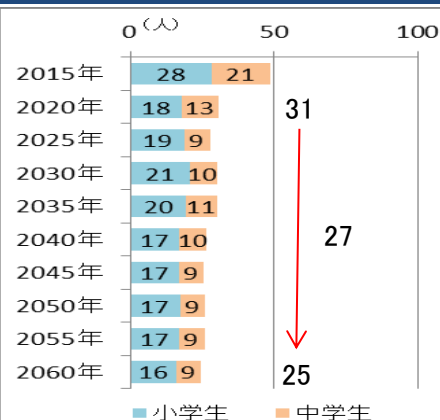
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-2. 影野小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年3人(地域人口の0.5%)増】(大人2人・子ども1人)

・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組

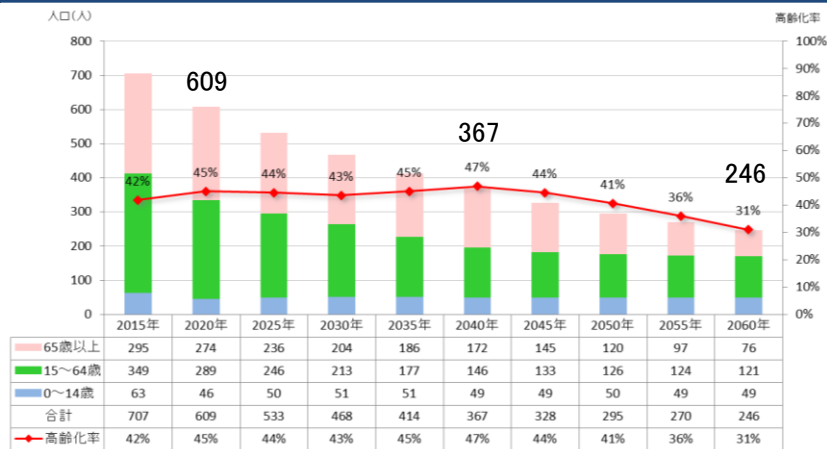
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.41(2020年) → 1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)

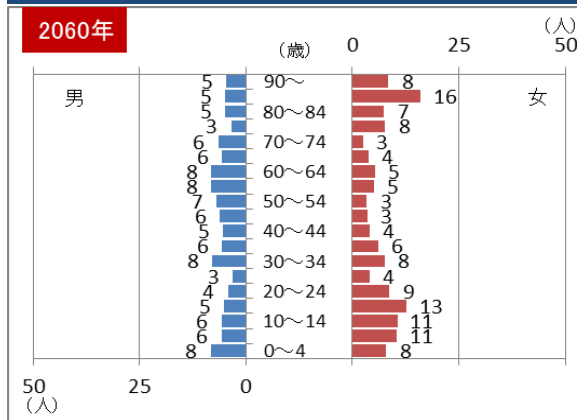
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は246人となり、現状推移の120人を126人(増減率+105%)上回る。
- ✓ 年少人口は49人となり、現状推移の8人を41人(同+512.5%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は121人となり、現状推移の42人を79人(同+188.1%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は28ポイント改善し31%となる。

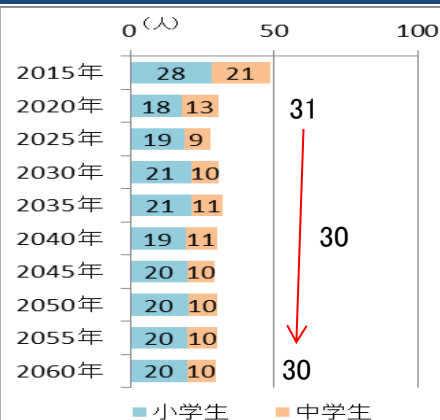
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-3. 七里小学校区【現状分析】

【七里小学校区地区の特徴】

- ・町の東部に位置し、影野、仁井田、窪川、米奥小学校区及び中土佐町に隣接する。
- ・地区の中心を県道19号線、323号線及び四万十川が南北に縦断し、県道および川沿いの平地に住居や農地が立地している。

【主な施設等】

松葉川保育所、窪川警察署松葉川駐在所、松葉川郵便局

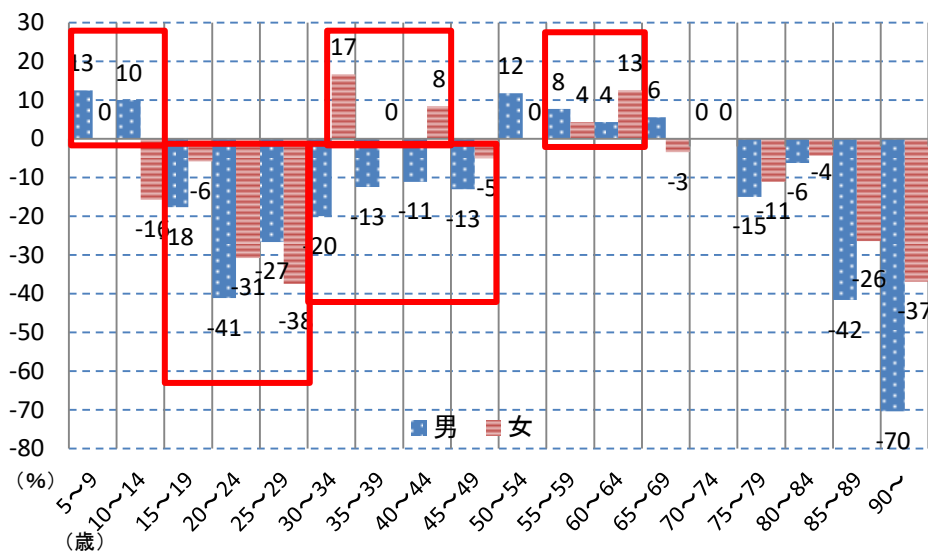
●出生率 1.92

●高齢化率 40%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
七里小学校区	785	⇒	732	▲53	▲6.75%
男性	392	⇒	361	▲31	▲7.91%
女性	393	⇒	371	▲22	▲5.60%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 七里小学校区の人口は、5年間で▲53人となっており、減少率は6.75%である
- ✓ 「5～14歳」の男性（+5人）、「30～34歳」の女性（+2人）、「55～64歳」の男女（男+2人、女+4人）で流入超過
- ✓ 一方で、「15～29歳」の男女（男▲14人女▲8人）、「30～49歳」の男性（▲11人）で流出超過

9. 各小学校学区別の人口推計

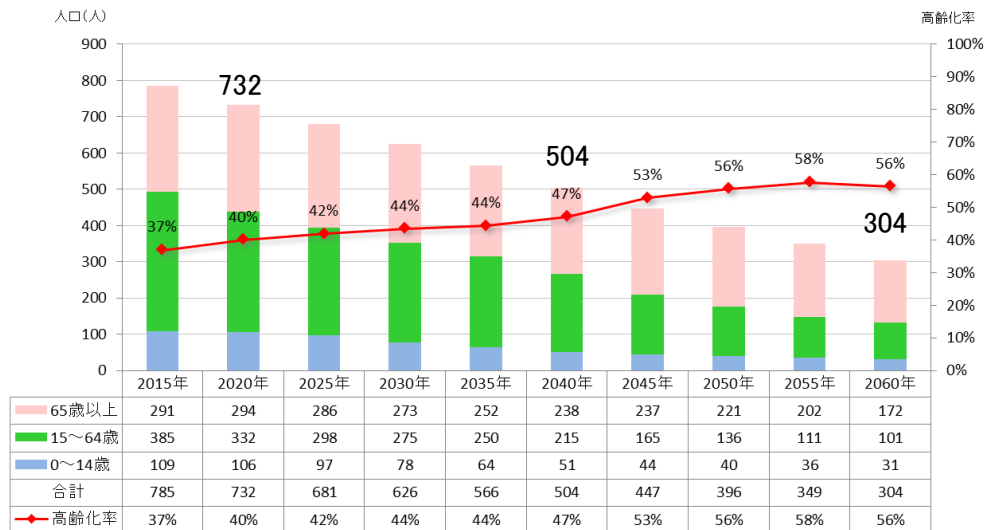
9-3. 七里小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

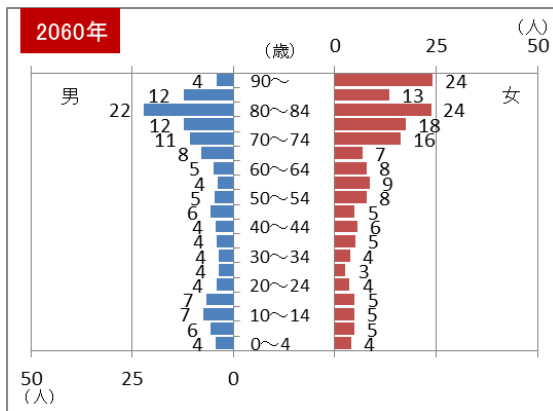
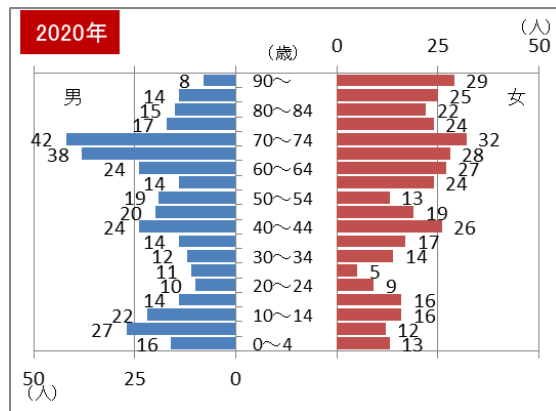
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は428人減少(増減率▲58.5%)
- ✓ 年少人口は106人→31人(同▲70.8%)、生産年齢人口は332人→101(同▲69.6%)に減少
- ✓ 老年人口は294人→172人(同▲41.5%)に減少するも、高齢化率は56%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に69歳以下の全世代での減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は67人→21人(同▲68.7%)に減少

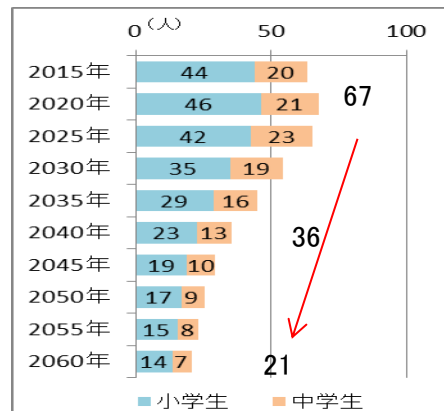
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-3. 七里小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年2人(地域人口の0.3%)増】(大人2人)

・30歳代前半の夫婦が毎年1組

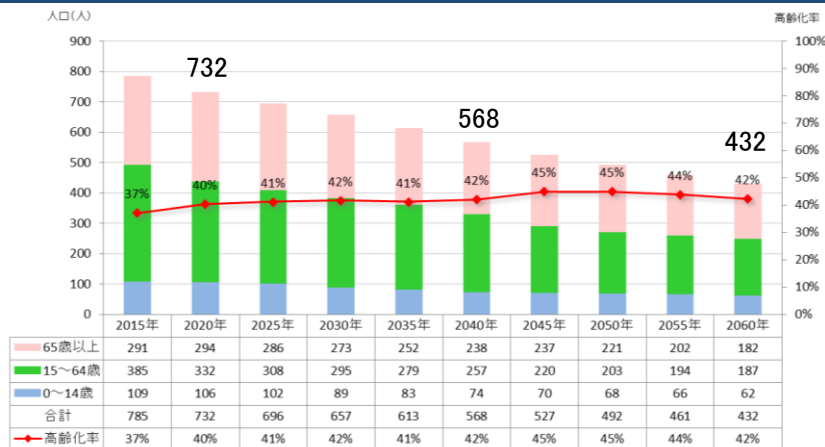
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.41(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

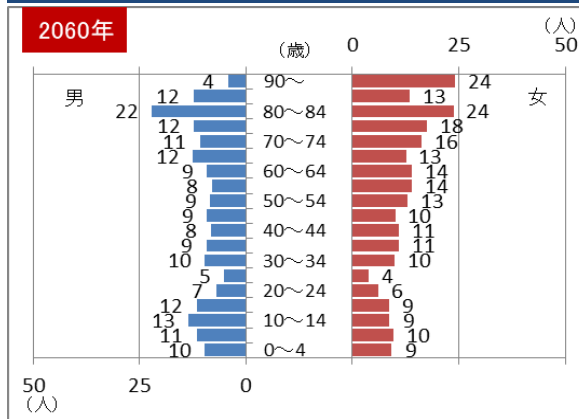
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、30歳代前半の夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、年少人口の増加を図るため、出生率2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)まで上昇させることを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は432人となり、現状推移の304人を128人(増減率+42.1%)上回る。
- ✓ 年少人口は62人となり、現状推移の31人を31人(同+100%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は187人となり、現状推移の101人を86人(同+85.1%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は14ポイント改善し42%となる。

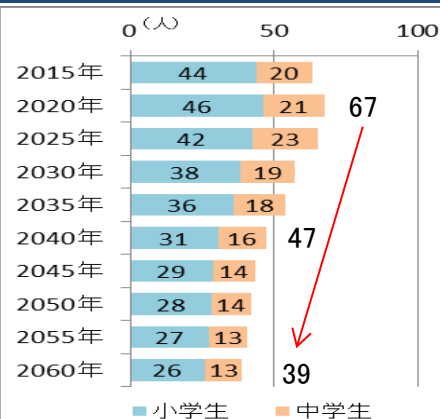
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-3. 七里小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年2人(地域人口の0.3%)増】(大人2人)

・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人

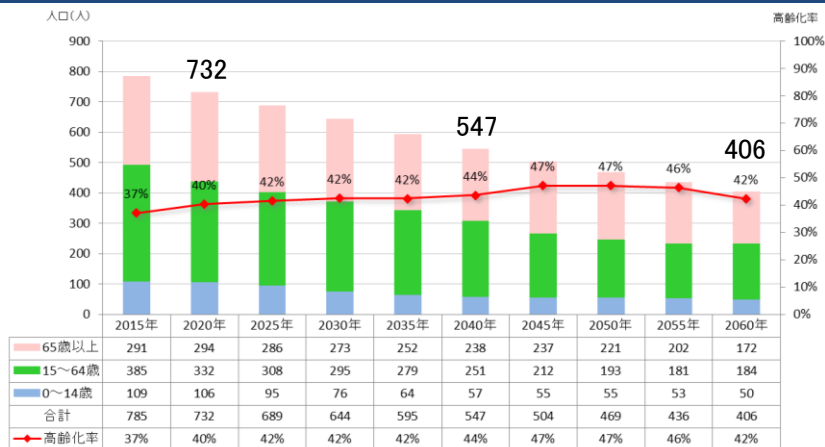
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.41(2020年) → 1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)

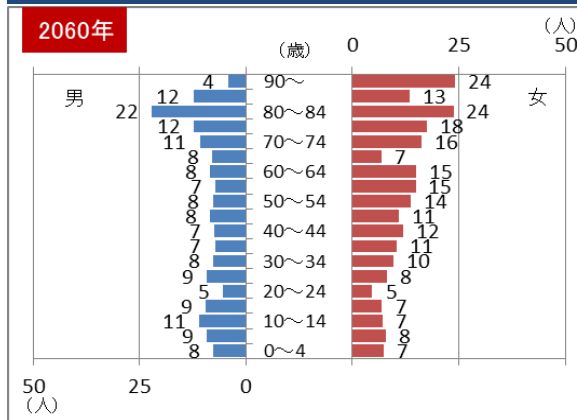
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半のUIJターン者2人を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は406人となり、現状推移の304人を102人(増減率+33.6%)上回る。
- ✓ 年少人口は50人となり、現状推移の31人を19人(同+61.3%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は184人となり、現状推移の101人を83人(同+82.2%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は14ポイント改善し42%となる。

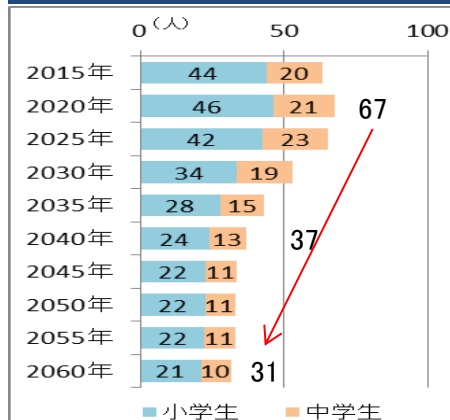
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校区別の人口推計

9-4. 米奥小学校区【現状分析】

【米奥小学校区の特徴】

- ・町の北部に位置し、七里、窪川、川口小学校区及び中土佐町、津野町、梶原町に隣接する。
- ・地区の中心を県道19号線と四万十川が南北に縦断し、川沿いの平地に住居や農地が立地している。
- ・町内唯一の町営住宅未整備の小学校区であり、農家住宅推進モデル地区事業により、農家住宅を6戸程度建設予定。

【主な施設等】

一斗俵沈下橋、森ヶ内桜公園、松葉川林間キャンプ場、三堰キャンプ場、ホテル松葉川温泉、中津川簡易郵便局

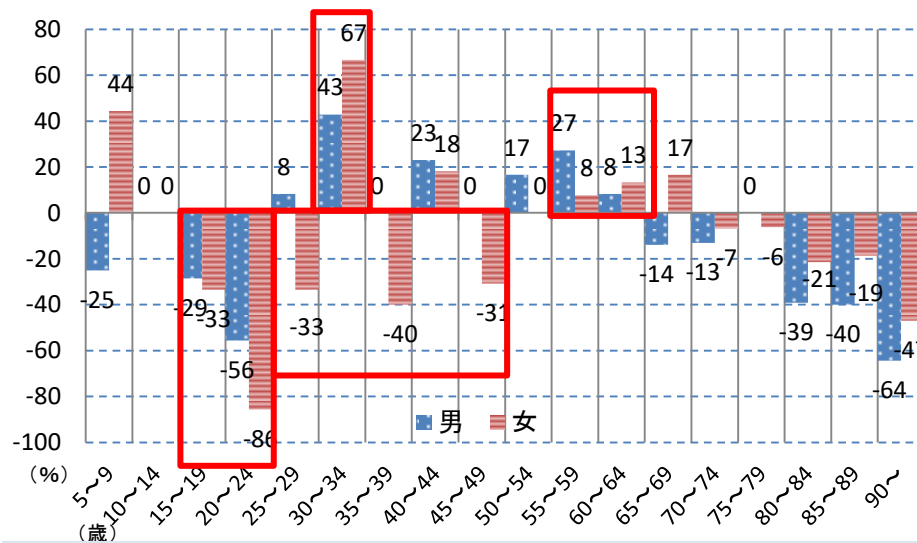
● 出生率 2.25

● 高齢化率 50%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
米奥小学校区	589	⇒	525	▲64	▲10.87%
男性	274	⇒	243	▲31	▲11.31%
女性	315	⇒	282	▲33	▲10.48%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 米奥小学校区の人口は5年間で▲64人となっており、減少率は10.87%である
- ✓ 「30~34歳」の男女（男+3人、女+6人）、「40~44歳」の男女（男+3人、女+2人）、「55~64歳」の男女（男+5人、女+3人）等で流入超過
- ✓ 一方で、「15~24歳」の男女（男▲7人、女▲9人）、「25~49歳」の女性（▲9人）等で流出超過

9. 各小学校学区別の人口推計

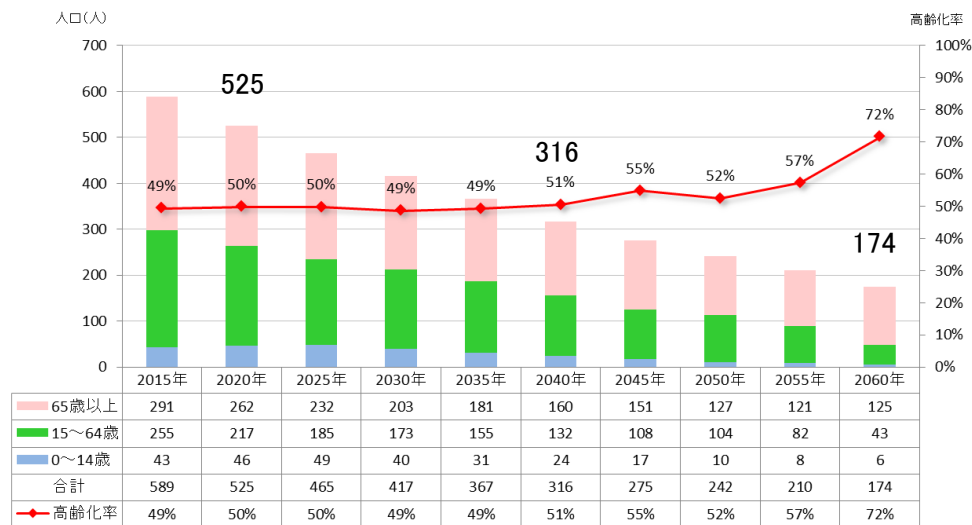
9-4. 米奥小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

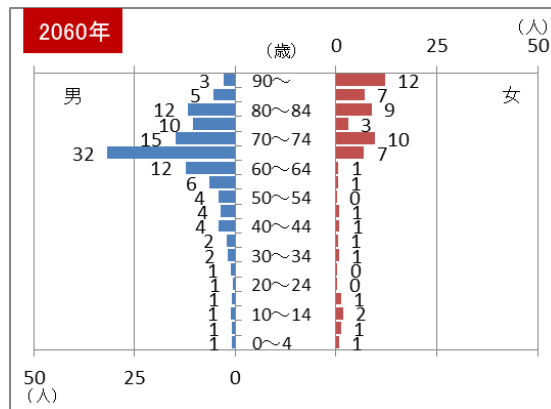
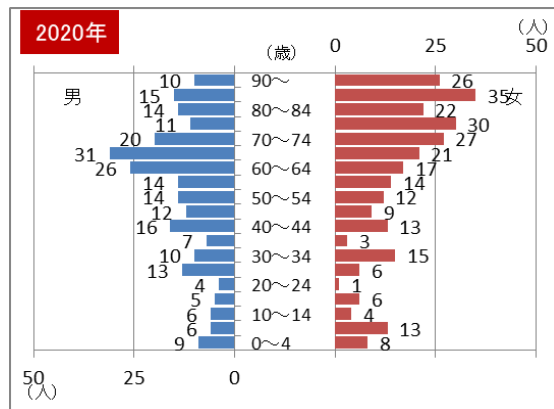
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は351人減少(増減率▲66.9%)
- ✓ 年少人口は46人→6人(同▲87.0%)、生産年齢人口は217人→43人(同▲80.2%)に減少
- ✓ 老年人口は262人→125人(同▲52.3%)に減少するも、高齢化率は72%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に64歳以下の全世代での減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は23人→5人(同▲78.3%)に減少

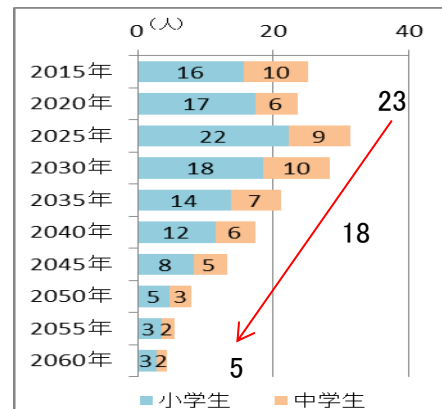
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-4. 米奥小学校学区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年2人(地域人口の0.4%)増】(大人2人)

・30歳代前半の夫婦が毎年1組

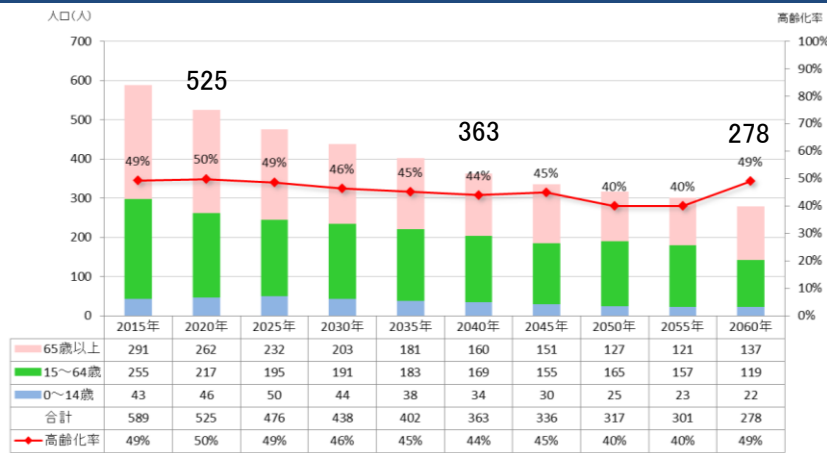
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

2.25(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

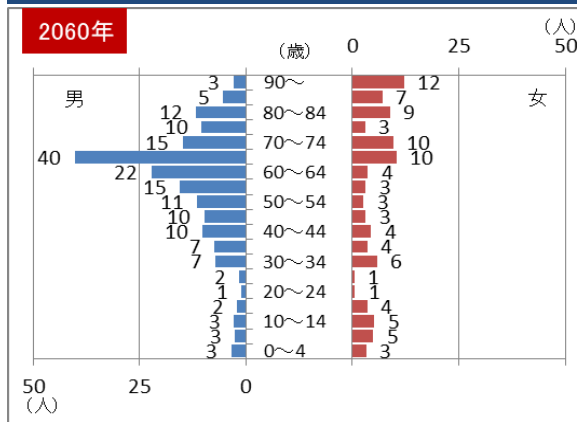
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、30歳代前半の夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、年少人口の増加を図るため、出生率2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)まで上昇させることを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は278人となり、現状推移の174人を104人(増減率+59.8%)上回る。
- ✓ 年少人口は22人となり、現状推移の6人を16人(同+266.7%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は119人となり、現状推移の43人を76人(同+76.7%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は23ポイント改善し49%となる。

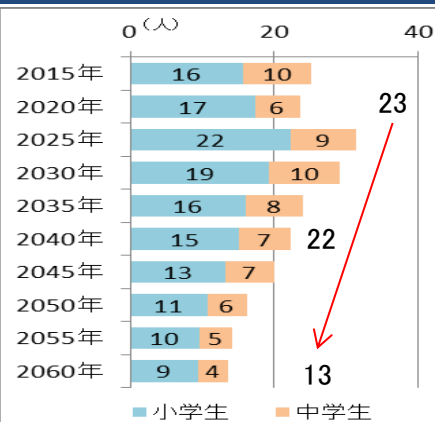
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-4. 米奥小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年2人（地域人口の0.4%）増】（大人2人）

・20歳代後半のUIターン者が毎年2人

条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

2.25（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

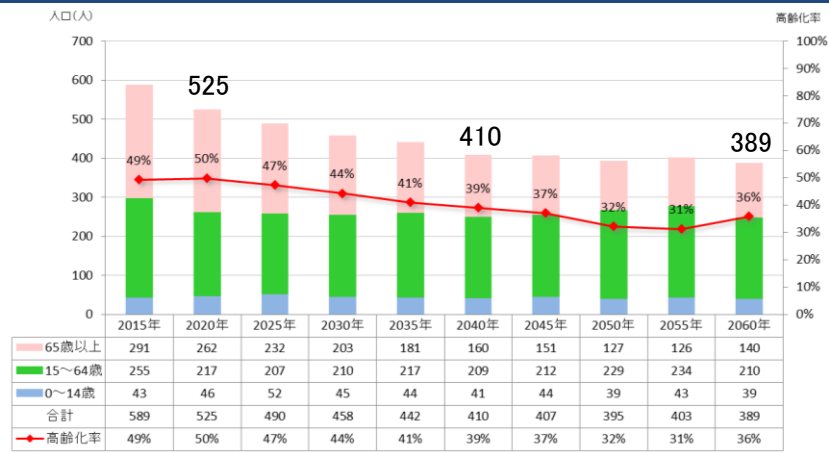
※前提条件：農家住宅にR3～7年、13～17年、23～27年、33～37年の間にそれぞれ30代前半夫婦4組、30代後半夫婦2組の流入。うち3世帯は0～4歳の子ども1人世帯。

また、10年後農家住宅を退去する世帯はそのまま地区に残る想定。

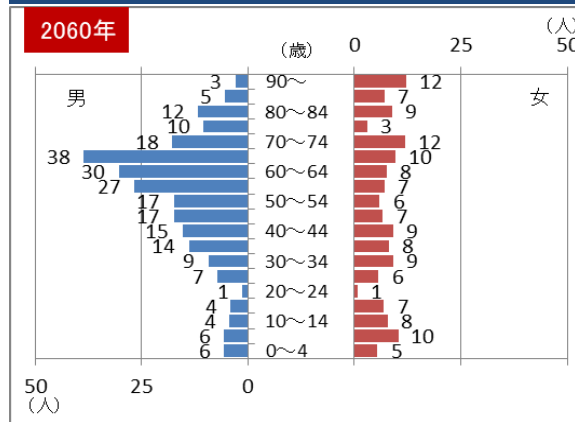
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半のUIターン者2人の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は389人となり、現状推移の174人を215人（増減率+123.6%）上回る。
- ✓ 年少人口は39人となり、現状推移の6人を33人（同+550%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は210人となり、現状推移の43人を167人（同+388.4%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は36ポイント改善し36%となる。

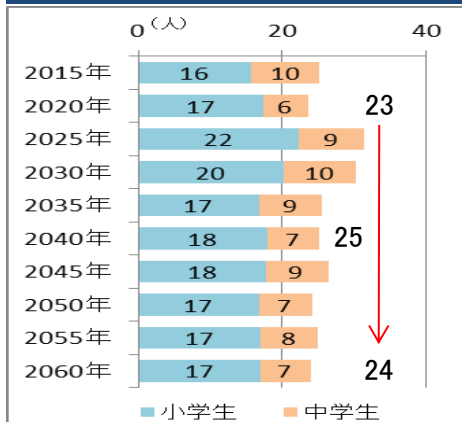
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-5. 窪川小学校区【現状分析】

【窪川小学校区の特徴】

- ・四万十町の中心市街地を有す地区であり、窪川駅をはじめとした交通の要衝である。
- ・町の東部に位置し、七里、仁井田、東又、米奥、川口小学校区及び黒潮町に隣接する。
- ・町内では比較的平地がまとまってあり、基盤整備された広い農地がある。東川角地区に高知県の基準田がある。

【主な施設等】

四万十町役場(本庁舎)、四万十町立図書館・美術館、窪川運動場、四万十緑林公園、高幡消防組合四万十清流消防署、くぼかわ病院、四万十町立窪川中学校、しまんと町社会福祉協議会、JA高知県四万十支所、県立窪川高等学校、四万十公社(四万十CATV)、JR四国土讃線窪川駅、予土線若井駅 など

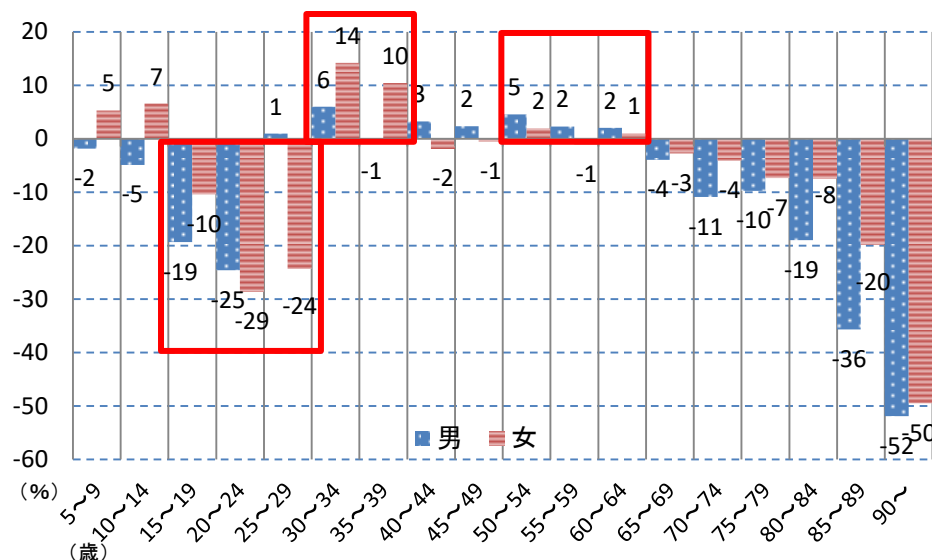
● 出生率 1.35

● 高齢化率 38%

◇ 人口推移実績 (小学校区、四万十町)

	2015年		2020年	増減	増減率
窪川小学校区	6,180	⇒	5,812	▲368	▲5.95%
男性	2,872	⇒	2,722	▲150	▲5.22%
女性	3,308	⇒	3,090	▲218	▲6.59%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率 (2015年 → 2020年)



- ✓ 窪川小学校区の人口は、5年間で▲368人となっており、減少率は▲5.95%である
- ✓ 「30~39歳」の男女(男+8人・女+31人)、「50~64歳」男女(男+15人・女+5人)で流入超過
- ✓ 一方で、「15~24歳」の男女(男▲58人、女▲53人)、「25~29歳」の女性(▲29人)等で流出超過

9. 各小学校学区別の人口推計

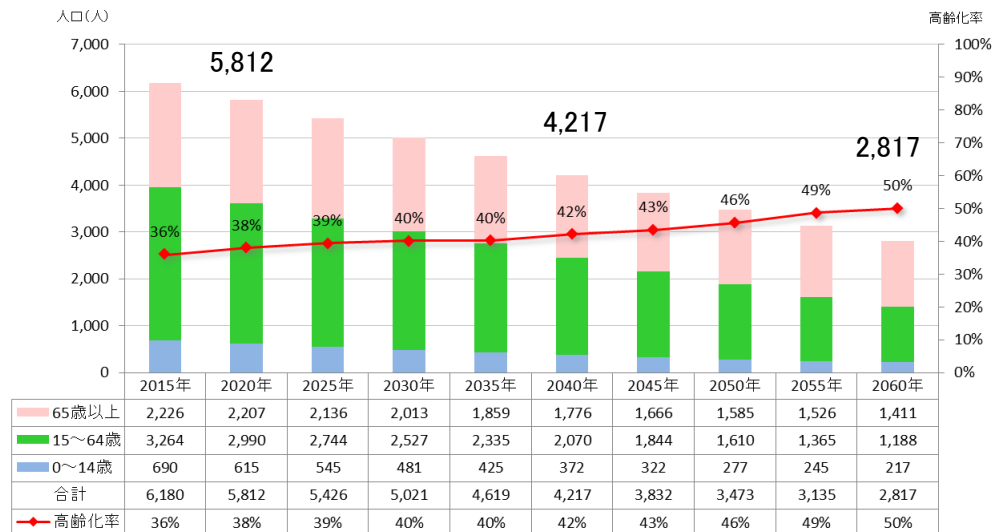
9-5. 窪川小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

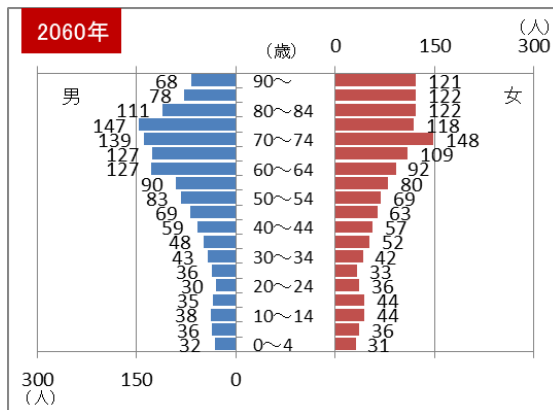
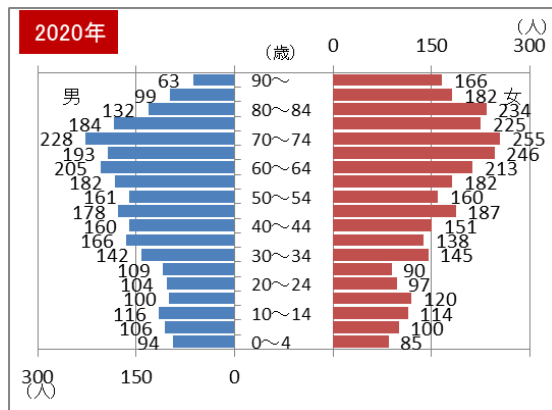
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は2,995人減少(増減率▲51.5%)
- ✓ 年少人口は615人→217人(同▲64.7%)、生産年齢人口は2,990人→1,188人(同▲60.3%)に減少
- ✓ 老年人口は2,207人→1,411人(同▲36.1%)に減少するものの、高齢化率は50%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に60歳以下の全世代での減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は398人→141人(同▲64.6%)に減少

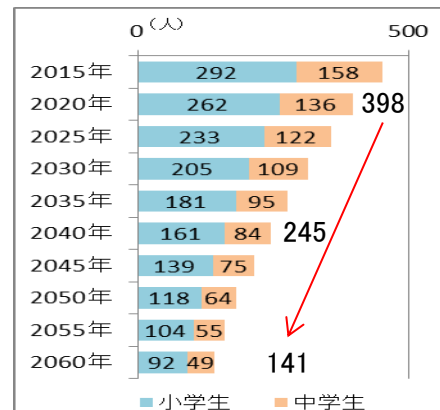
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-5. 窪川小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.35（2020年）→ 2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）

①：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

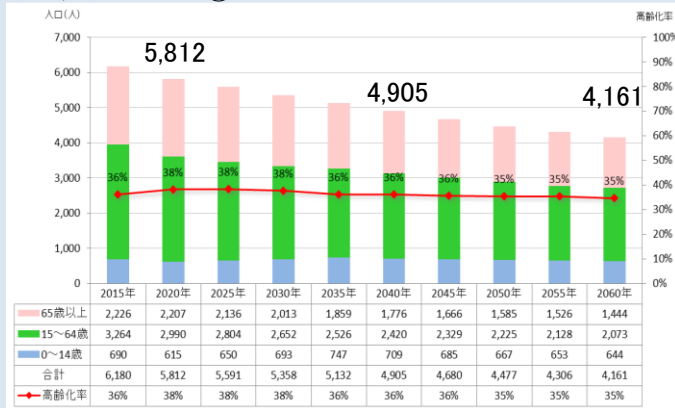
- ・20歳代後半の夫婦が毎年3組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年3組

【合計 毎年12人（地域人口の0.2%）増】（大人12人）

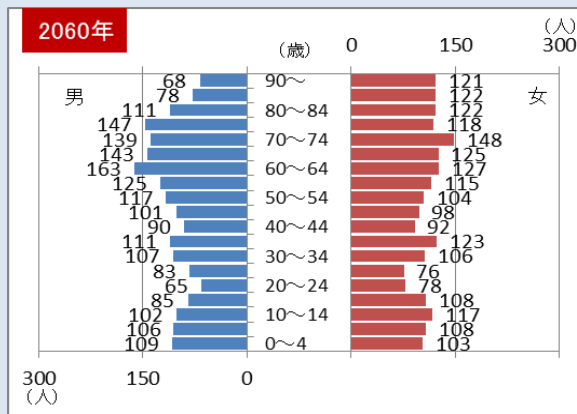
②：流入（あるいは流出阻止）は無し

◇ 将来推計人口と高齢化比率

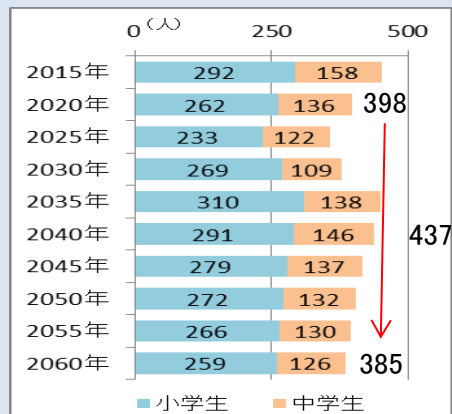
<シミュレーション①>



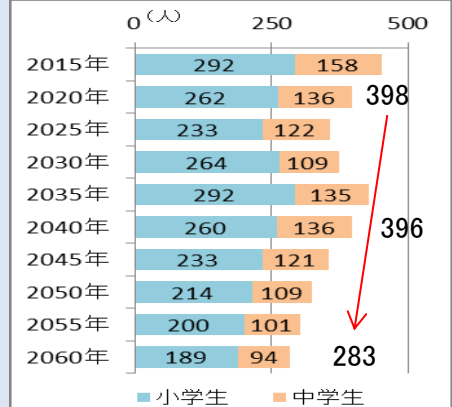
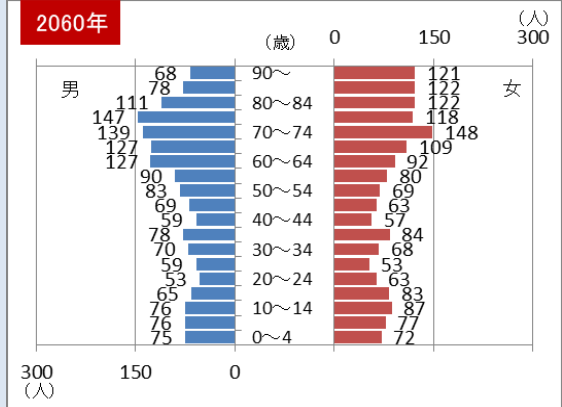
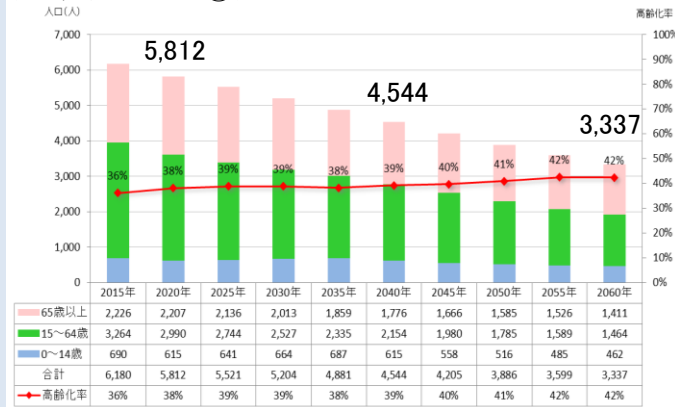
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション②>



9. 各小学校学区別の人口推計

9-5. 窪川小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年10人（地域人口の0.2%）増】（大人10人）

- ・20歳代後半の男性UIJターン者が毎年3人
- ・20歳代後半の女性UIJターン者が毎年7人

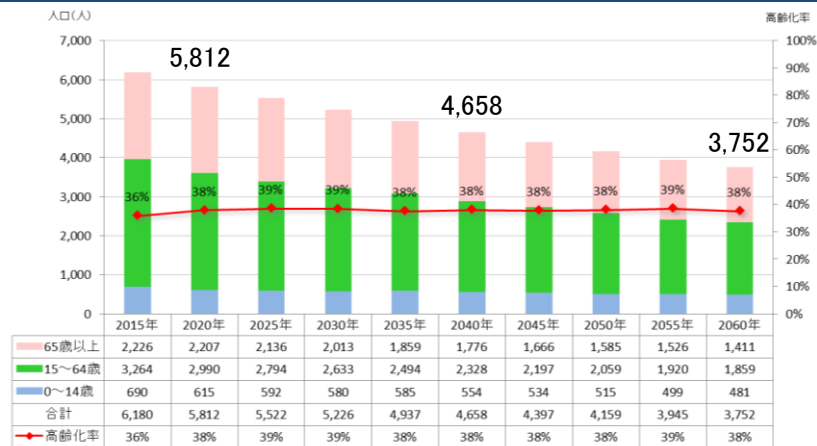
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.35（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

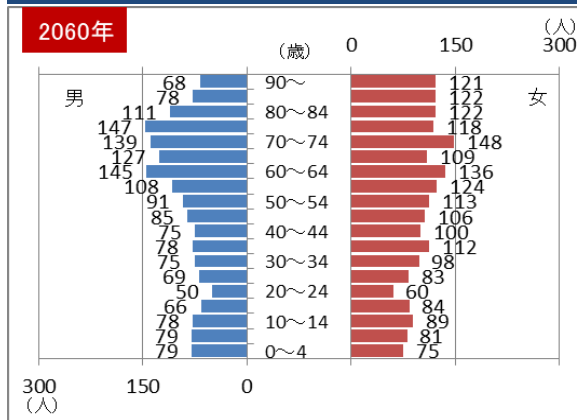
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半の男性UIJターン者3人と、20歳代後半の女性UIJターン者7人の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は3,752人となり、現状推移の2,817人を935人（増減率+33.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は481人となり、現状推移の217人を264人（同+121.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は1,859人となり、現状推移の1,188人を671人（同+56.5%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は12ポイント改善し38%となる。

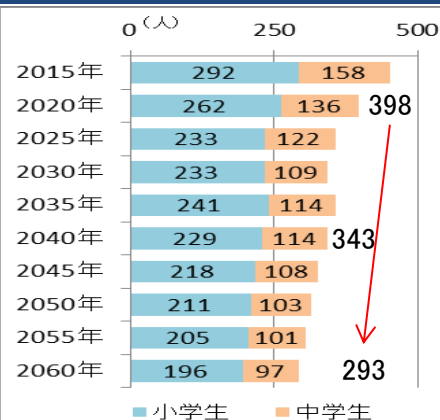
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-6. 川口小学校区【現状分析】

【川口小学校区の特徴】

- ・町の中央部に位置し、米奥、窪川、北ノ川、田野々小学校区及び黒潮町に隣接する。
- ・地区の南部をJR四国予土線と四万十川が東西に横断し、国道沿いの平地を中心に住居や農地が立地している。
- ・旧家地川小学校校舎を家地川地域活性化拠点施設として整備し、町営の簡易宿泊施設や集落活動センターとして活用予定。

【主な施設等】

四万十町環境管理事務所クリーンセンター銀河、JR四国予土線家地川駅、四国電力佐賀取水堰、四万十町斎場、社会福祉法人窪川児童福祉協会立川口保育所

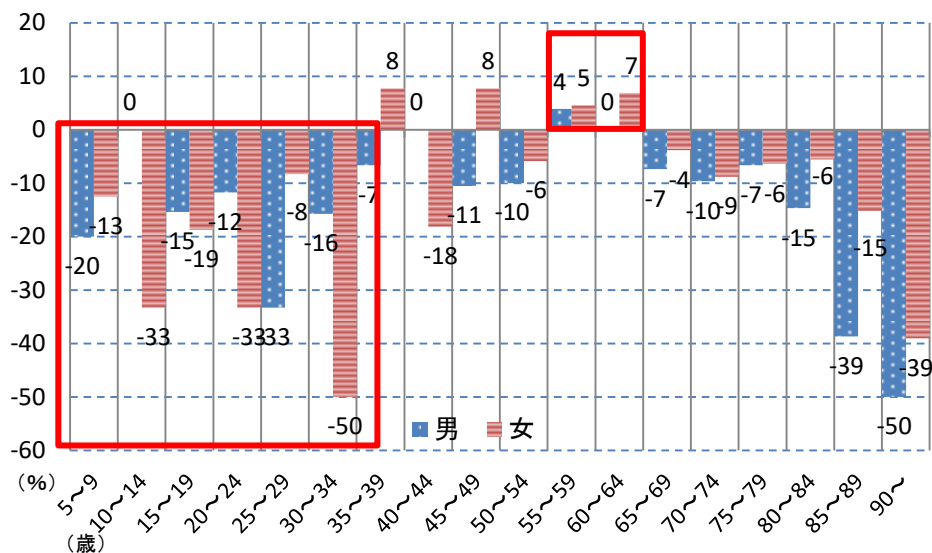
●出生率 1.51

●高齢化率 44%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
川口小学校区	782	⇒	697	▲85	▲10.87%
男性	384	⇒	345	▲39	▲10.16%
女性	398	⇒	352	▲46	▲11.56%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 川口小学校区の人口は、5年間で▲85人となっており、減少率は10.87%である
- ✓ 「55～64歳」の男女（男+1人・女+3人）で流入超過
- ✓ 一方で、「5～34歳」の男女（男性▲14人・女性▲20人）で流出超過。特に「30～34歳」の女性（▲7人）の流出が多い。

9. 各小学校学区別の人口推計

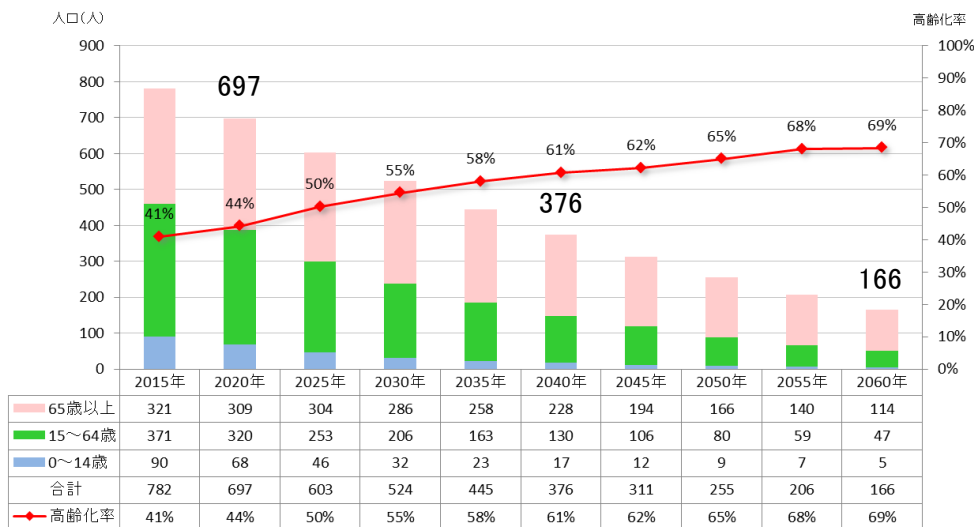
9-6. 川口小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

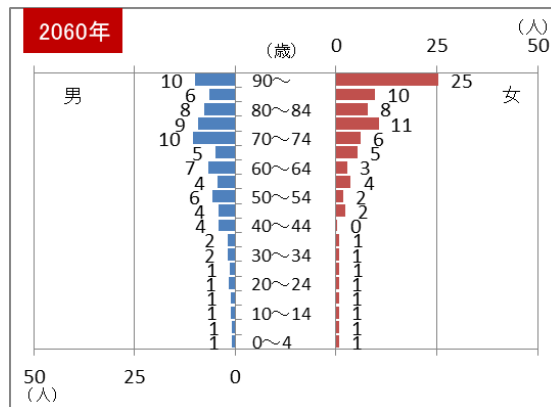
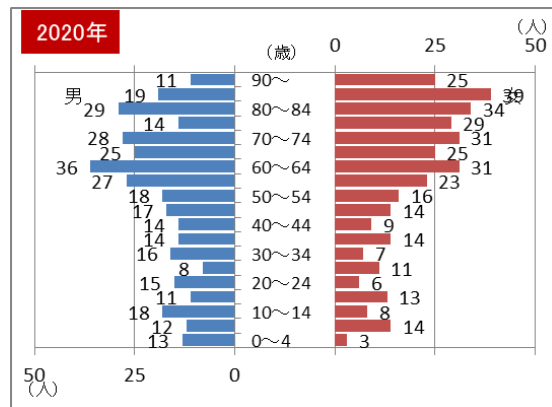
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は
▲531人減少(増減率▲76.2%)
- ✓ 年少人口は68人→5人(同▲92.6%)、生産年齢人口
は320人→47人(同▲85.3%)に大幅減少
- ✓ 老年人口は309人→114人(同▲63.1%)に減少するもの
の、高齢化率は69%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は46人→3人(同▲93.5%)に大幅に減少

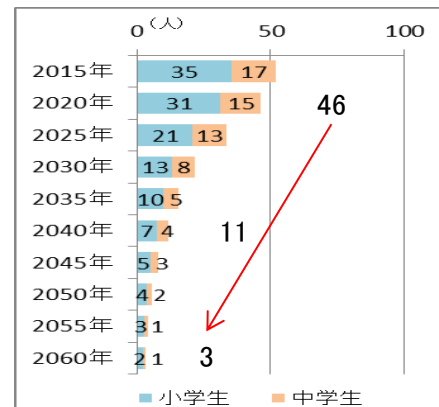
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-6. 川口小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年2人(地域人口の0.3%)増】(大人2人)

・20歳代後半の夫婦が毎年1組

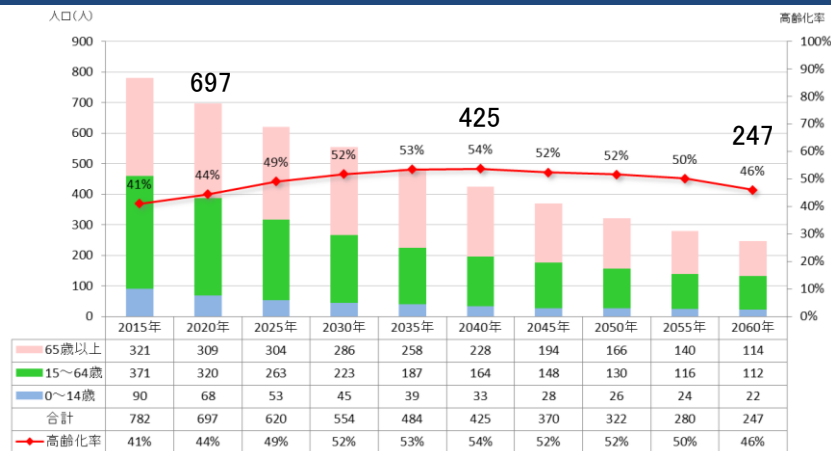
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.51(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

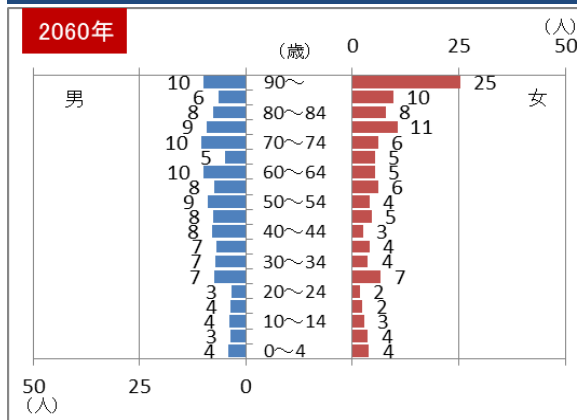
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半の夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、年少人口の増加を図るため、出生率2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)まで上昇させることを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は247人となり、現状推移の166人を81人(増減率+48.8%)上回る。
- ✓ 年少人口は22人となり、現状推移の5人を17人(同+340%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は112人となり、現状推移の47人を65人(同+138.3%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は23ポイント改善し46%となる。

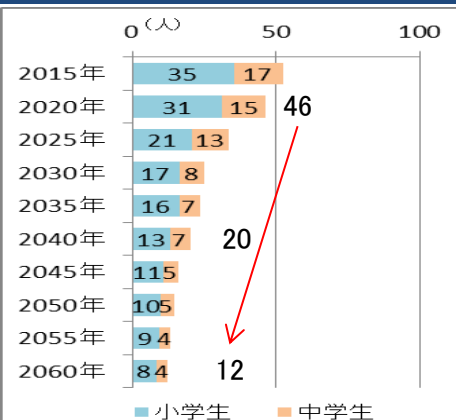
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-6. 川口小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年3人(地域人口の0.4%)増】(大人2人・子ども1人)

・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組

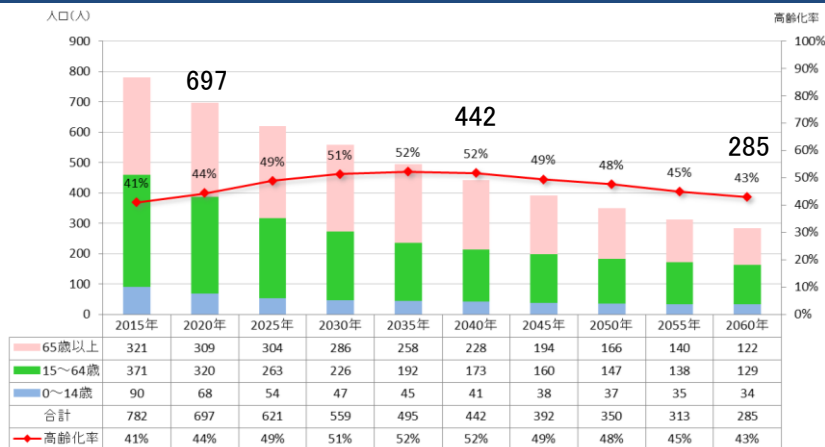
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.51(2020年) → 1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)

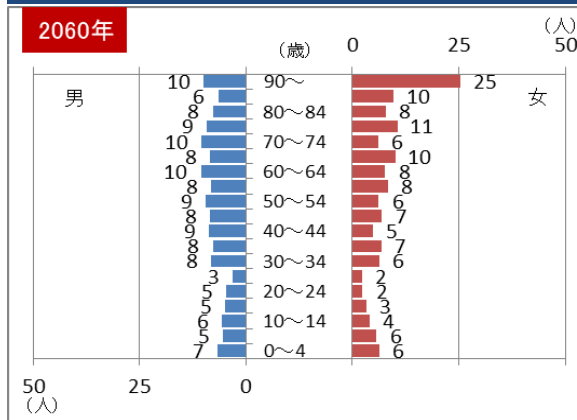
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は285人となり、現状推移の166人を119人(増減率+71.7%)上回る。
- ✓ 年少人口は34人となり、現状推移の5人を29人(同+580%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は129人となり、現状推移の47人を82人(同+174.5%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は26ポイント改善し43%となる。

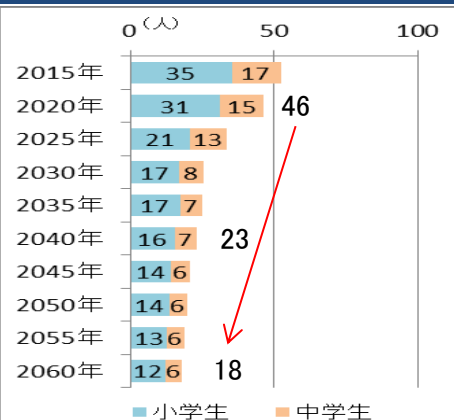
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-7. 東又小学校区【現状分析】

【東又小学校区の特徴】

- ・町の東部に位置し、影野、仁井田、窪川、興津小学校区及び中土佐町、黒潮町に隣接する。
- ・地区の中心を流れる四万十川支流の東又川や大井川、与津地川の周辺を中心に平地があり、その部分に住宅と農地が立地している。まとまった農地があることから、県の農業施設やトマトの大規模生産工場が立地する。

【主な施設等】

東又保育所、クラインガルテン四万十、四万十B&G海洋センター、県立農業担い手育成センター
東又郵便局、志和郵便局、次世代施設園芸団地高知県拠点(四万十町)

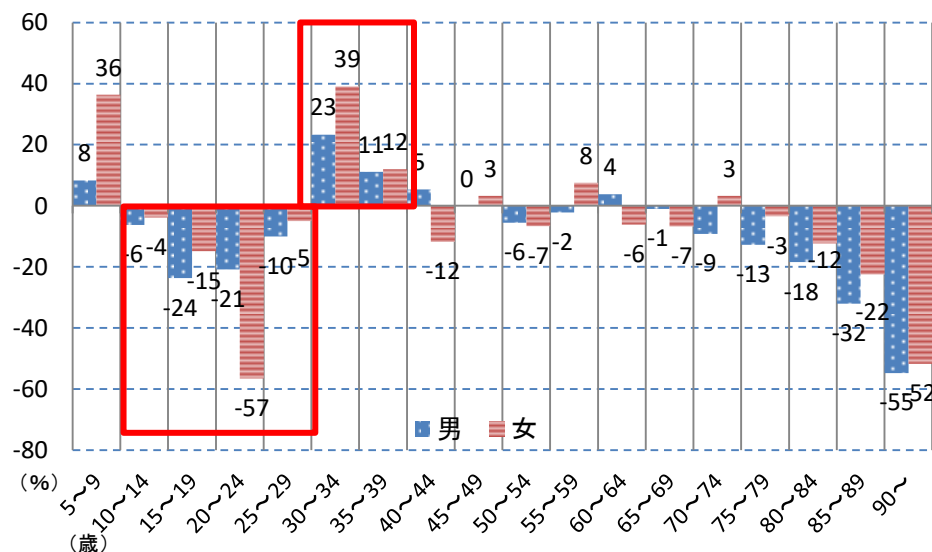
●出生率 1.78

●高齢化率 47%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
東又小学校区	1,758	⇒	1,614	▲144	▲8.19%
男性	815	⇒	761	▲54	▲6.63%
女性	943	⇒	853	▲90	▲9.54%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 東又小学校区の人口は、5年間で▲144人となっており、減少率は8.19%である
- ✓ 「5～9歳」の男女（男+2人・女+8人）、「30～39歳」の男女（男+11人・女+12人）等で流入超過
- ✓ 一方で、「10～29歳」の男女（男▲18人、女▲19人）で流出超過。特に「20～24歳」の女性（▲13人）の流出が多い。

9. 各小学校学区別の人口推計

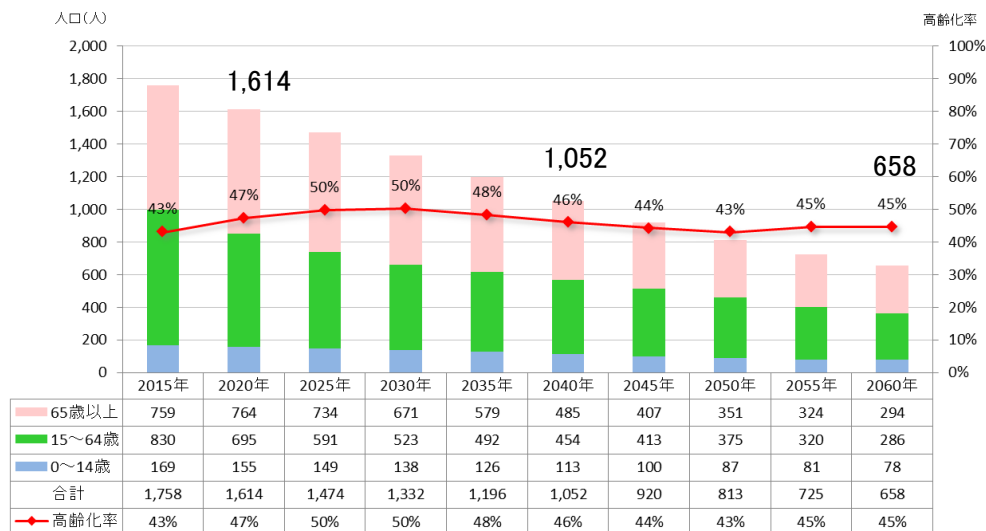
9-7. 東又小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

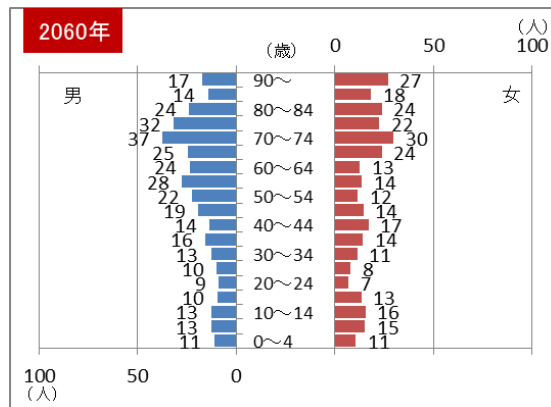
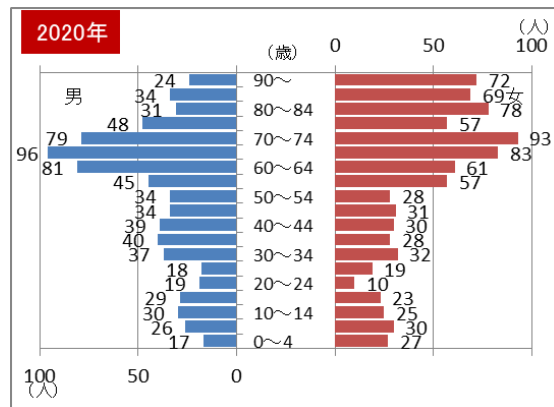
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は ▲956人減少（増減率▲59.2%）
- ✓ 年少人口は155人→78人（同▲49.7%）、生産年齢人口は695人→286人（同▲58.8%）に減少
- ✓ 老年人口は764人→294人（同▲61.5%）に減少し、高齢化率は45%で維持される
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は99人→50人（同▲49.5%）に減少

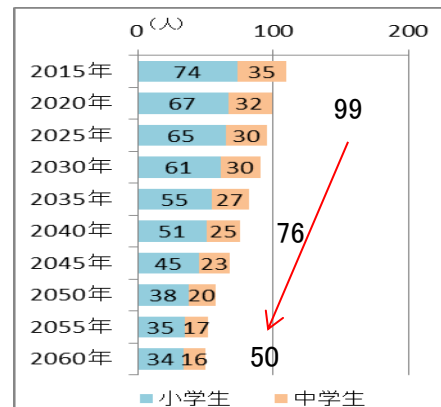
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-7. 東又小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.78（2020年）→ 2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）

①：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年1組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年1組

【合計 毎年4人（地域人口の0.2%）増】（大人4人）

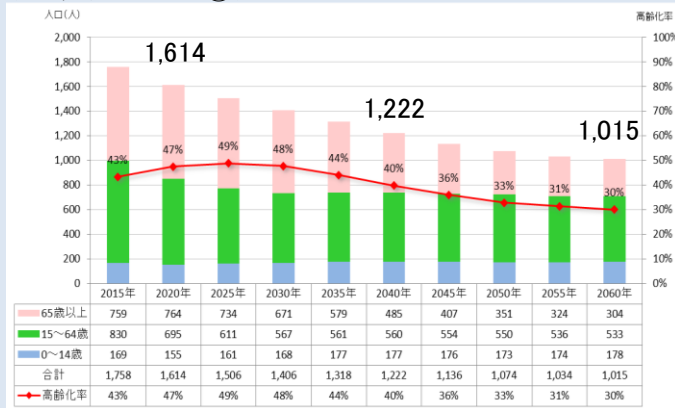
②：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年1組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年2組

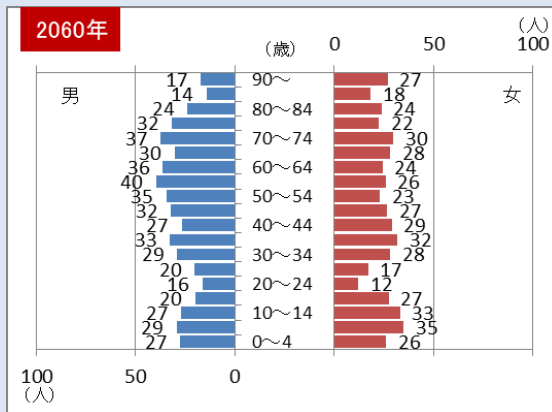
【合計 毎年6人（地域人口の0.4%）増】（大人6人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

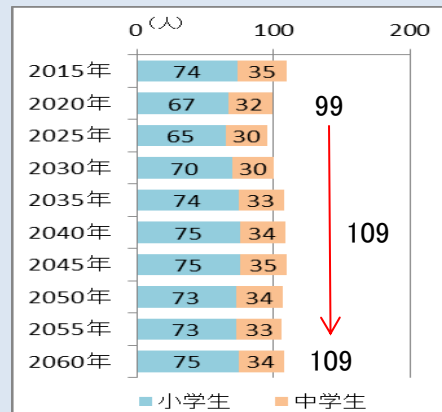
<シミュレーション①>



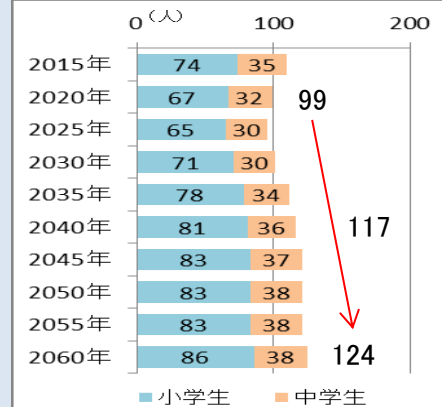
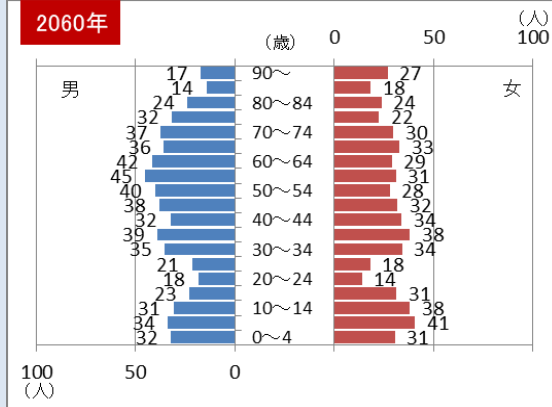
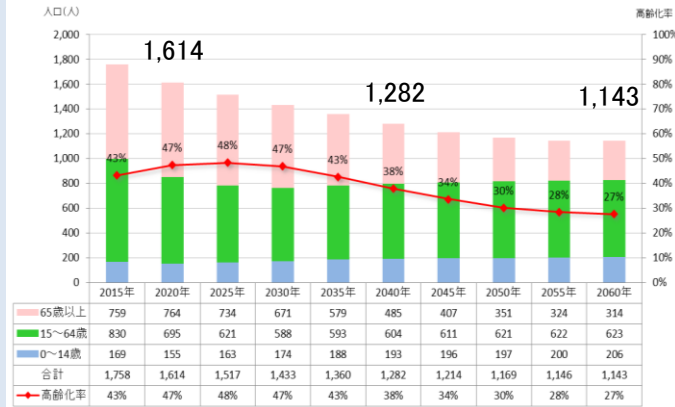
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション②>



9. 各小学校学区別の人口推計

9-7. 東又小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年6人（地域人口の0.4%）増】（大人5人・子ども1人）

・20歳代後半のUIJターン者が毎年3人

・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組

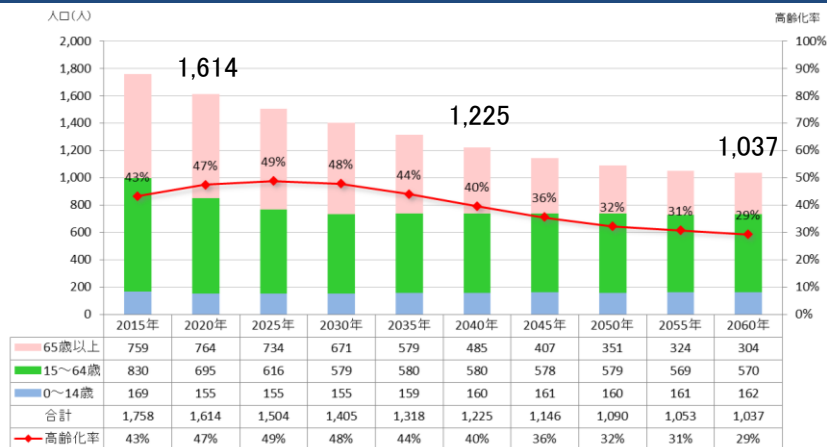
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.78（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

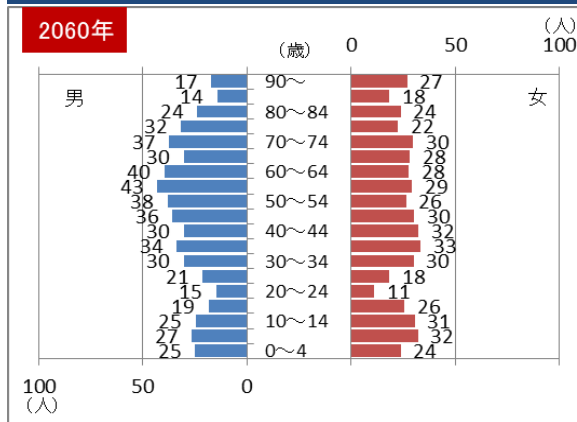
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半のUIJターン者3人と、30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は1,037人となり、現状推移の658人を379人（増減率+57.6%）上回る。
- ✓ 年少人口は162人となり、現状推移の78人を84人（同+107.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は570人となり、現状推移の286人を284人（同+99.3%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は16ポイント改善し29%となる。

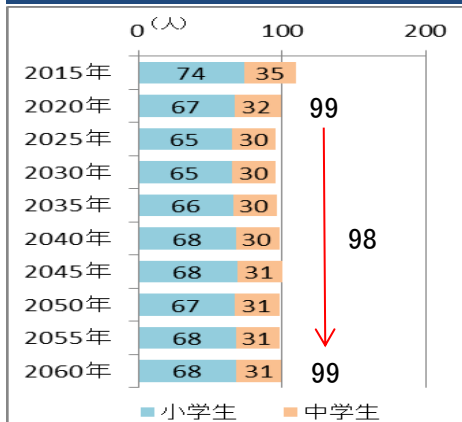
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校区別の人口推計

9-8. 興津小学校区【現状分析】

【興津小学校区の特徴】

- ・町の東部に位置する臨海地域であり、東又小学校区及び黒潮町に隣接する。
- ・沿岸部を中心に住宅地や農地が立地している。窪川地域とは険しい山道で区切られており、地域で一定の生活圏が形成されている。農業ではハウス利用によるみょうが生産が盛んで、漁業ではシイラ漁が盛んな地域である。

【主な施設等】

四万十町役場興津出張所、興津保育所、興津郵便局、四万十興津町民館、土佐興津坂展望台、JA高知県興津支所、高知県漁業協同組合興津事務所、興津海水浴場、興津岬

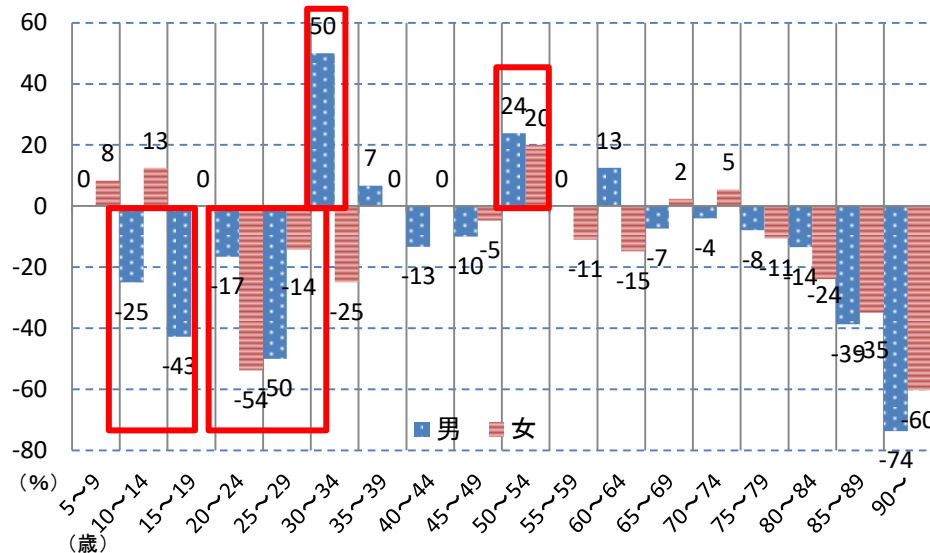
● 出生率 0.86

● 高齢化率 59%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
興津小学校区	892	⇒	762	▲130	▲14.57%
男性	411	⇒	364	▲47	▲11.44%
女性	481	⇒	398	▲83	▲17.26%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 興津小学校区の人口は、5年間で▲130人となっており、減少率は14.57%である
- ✓ 「30～34歳」の男性（+2人）、「50～54歳」の男女（男+5人・女+2人）等で流入超過
- ✓ 一方で、「10～19歳」の男性（▲6人）、「20～29歳」の男女（男▲6人・女▲8人）等で流出超過

9. 各小学校学区別の人口推計

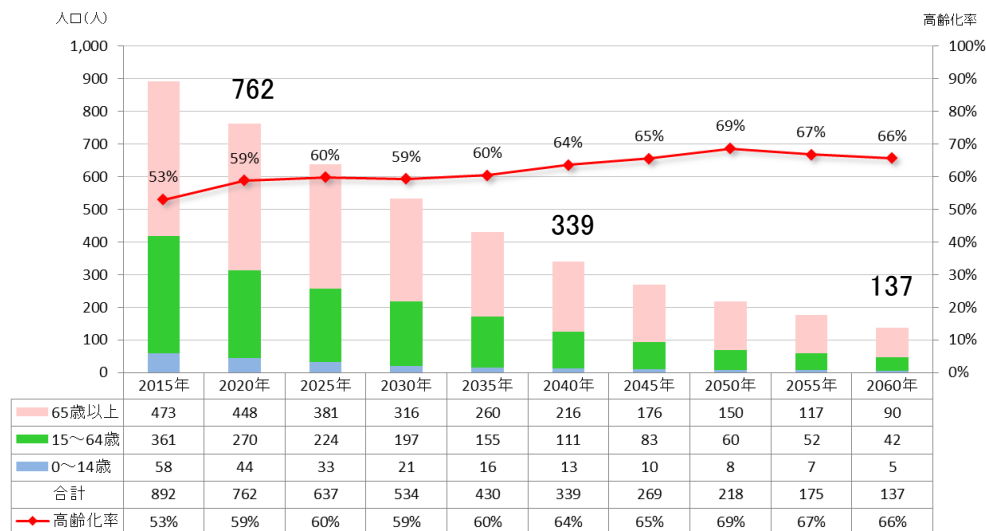
9-8. 興津小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

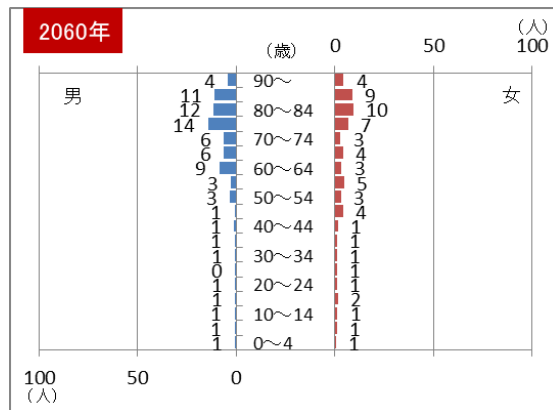
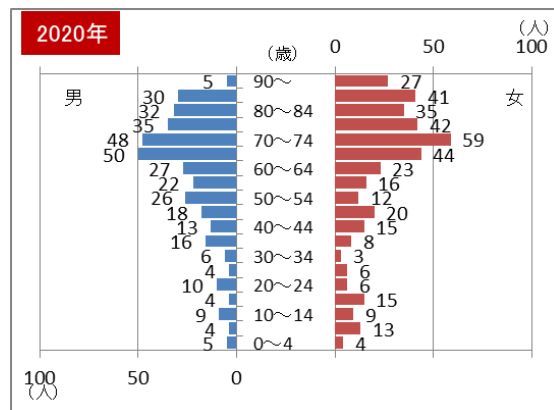
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は
▲625人減少（増減率▲82.0%）
- ✓ 年少人口は44人→5人（同▲88.6%）、生産年齢人口は
270人→42人（同▲84.4%）に大幅に減少
- ✓ 老年人口は448人→90人（同▲79.9%）に減少するもの、高齢化率は66%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は32人→3人（同▲90.6%）に大幅に減少

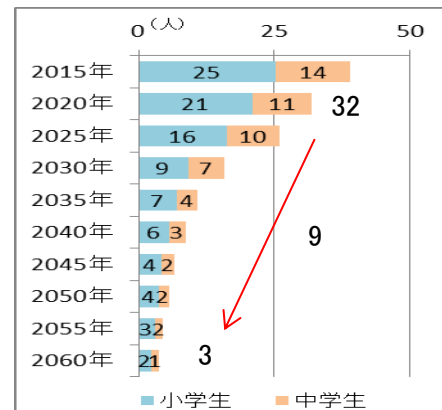
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-8. 興津小学校学区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年2人(地域人口の0.3%)増】(大人2人)

・20歳代後半の夫婦が毎年1組

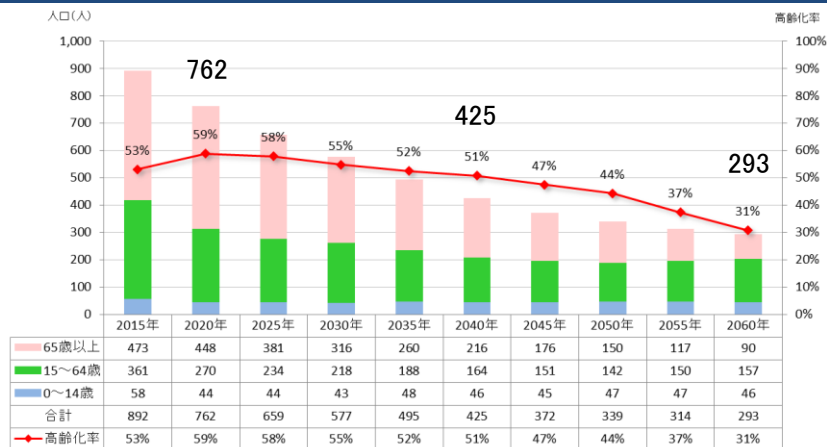
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

0.86(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

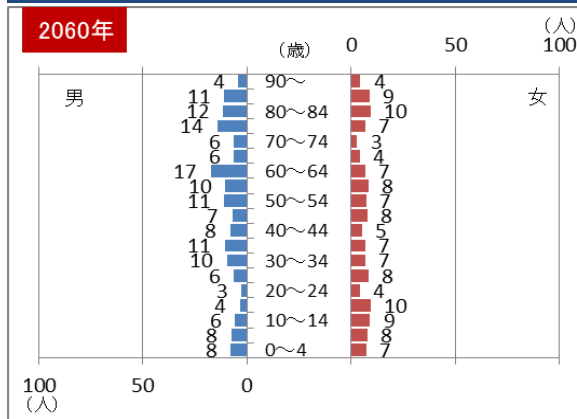
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半の夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、年少人口の増加を図るため、出生率2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)まで上昇させることを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は293人となり、現状推移の137人を156人(増減率+113.9%)上回る。
- ✓ 年少人口は46人となり、現状推移の5人を41人(同+820.0%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は157人となり、現状推移の42人を115人(同+273.8%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は35ポイント改善し31%となる。

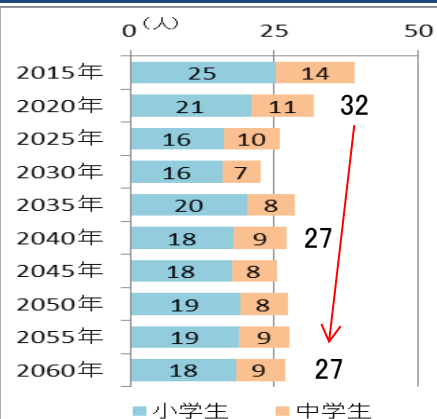
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-8. 興津小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年2人（地域人口の0.3%）増】（大人2人）

・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人

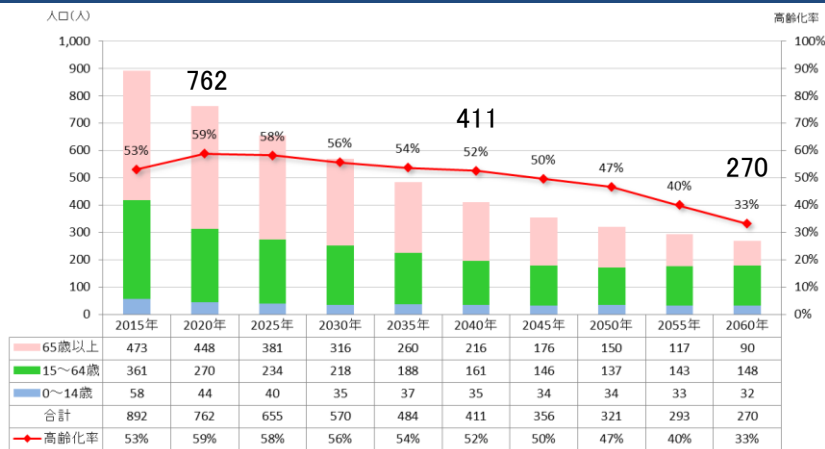
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

0.86（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

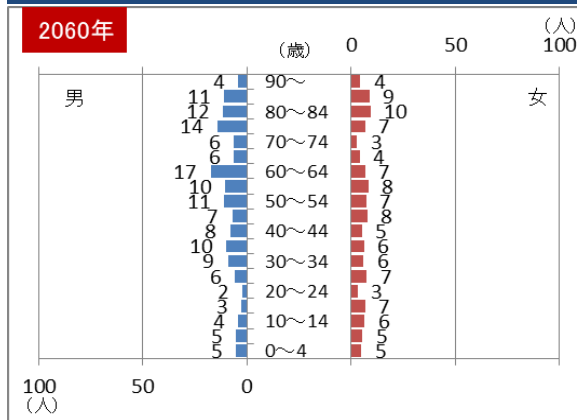
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半のUIJターン者2人の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は270人となり、現状推移の137人を133人（増減率+97.1%）上回る。
- ✓ 年少人口は32人となり、現状推移の5人を27人（同+540.0%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は148人となり、現状推移の42人を106人（同+252.4%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は33ポイント改善し33%となる。

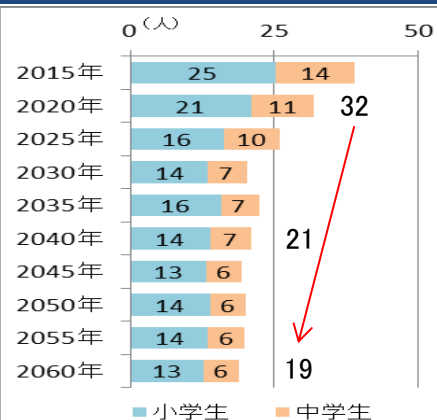
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-9. 田野々小学校区【現状分析】

【田野々小学校区の特徴】

- ・旧大正町の中心部に位置し、川口、北ノ川、昭和、十川小学校区及び精原町、四万十市に隣接する。
- ・町内で一番面積の大きい校区で、校区の南部をJR四国予土線と四万十川が東西に横断している。主に四万十川と支流沿いの平地に住宅地や農地が立地している。

【主な施設等】

四万十町大正地域振興局、四万十町立大正中学校、県立四万十高等学校、大正診療所、道の駅四万十大正、JR四国予土線土佐大正駅、四万十オートキャンプ場ウエル花夢、きらら大正、特別養護老人ホーム四万十荘

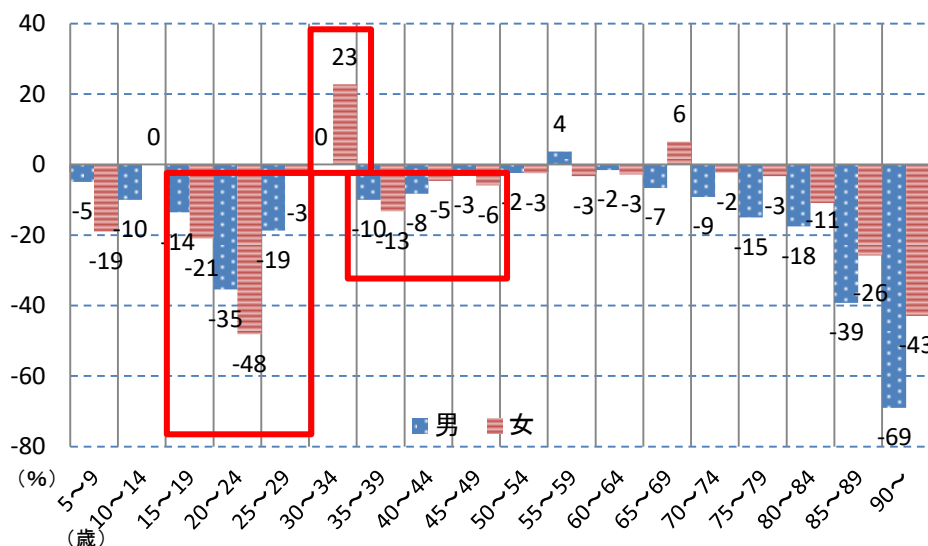
● 出生率 1.38

● 高齢化率 47%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
田野々小学校区	1,975	⇒	1,752	▲223	▲11.29%
男性	948	⇒	832	▲116	▲12.24%
女性	1,027	⇒	920	▲107	▲10.42%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 田野々小学校区の人口は、5年間で▲223人となっており、減少率は11.29%である
- ✓ 「30~34歳」の女性（+5人）で流入超過
- ✓ 「15~29歳」の男女（男▲25人・女▲35人）、「35~49歳」の男女（男▲9人・女▲9人）で流出超過。特に「20~24歳」の男女（男▲11人・女▲26人）での流出が多い。

9. 各小学校学区別の人口推計

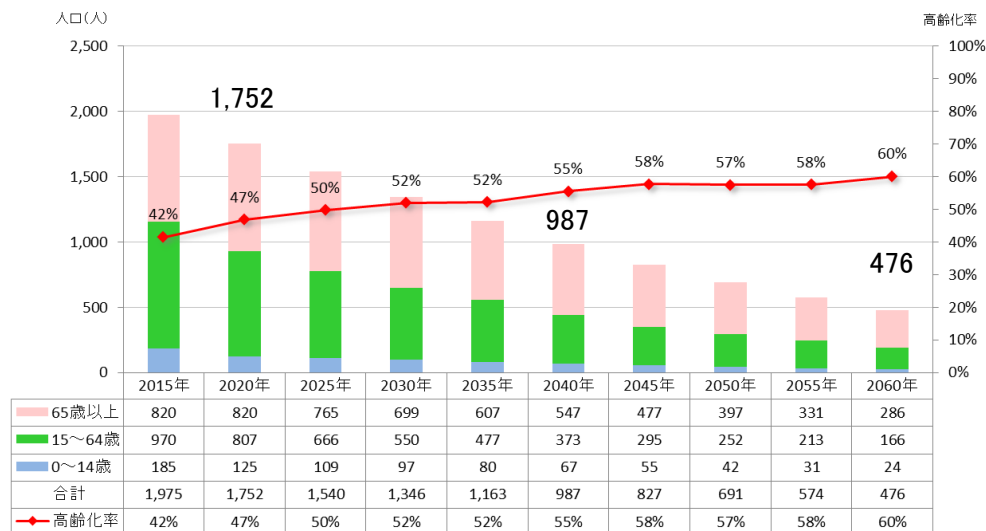
9-9. 田野々小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

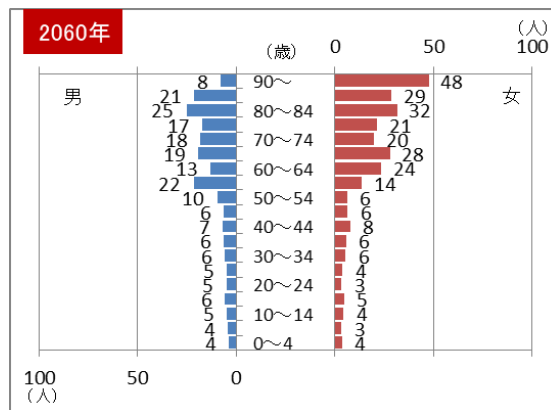
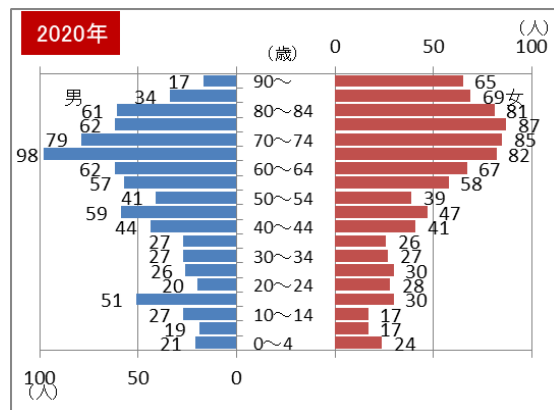
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は
▲1,276人減少(増減率▲72.8%)
- ✓ 年少人口は125人→24人(同▲80.8%)、生産年齢人口は807人→166人(同▲79.4%)に大幅に減少
- ✓ 老年人口は820人→286人(同▲65.1%)に減少するものの、高齢化率は60%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口が減少し、特に60歳以下の全世代での減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は82人→16人(同▲80.5%)に減少

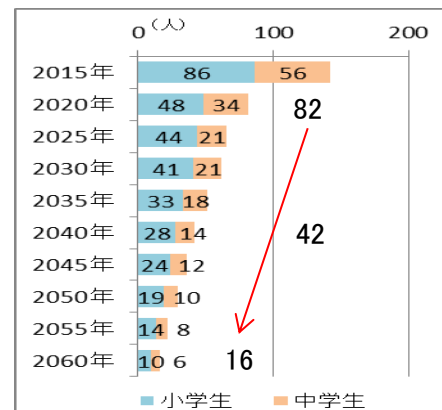
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-9. 田野々小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.38(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

①：下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年1組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年1組

【合計 毎年4人(地域人口の0.2%)増】(大人4人)

②：下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年2組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年2組

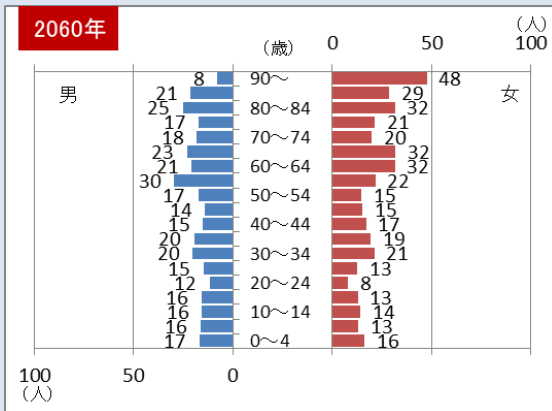
【合計 毎年8人(地域人口の0.5%)増】(大人4人)

◇ 将来推計人口と高齢化比率

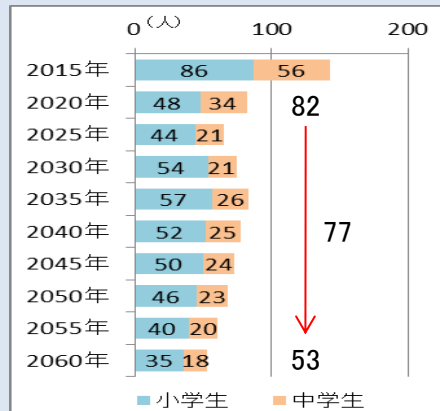
<シミュレーション①>



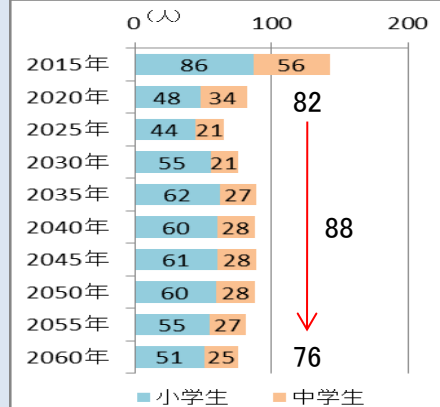
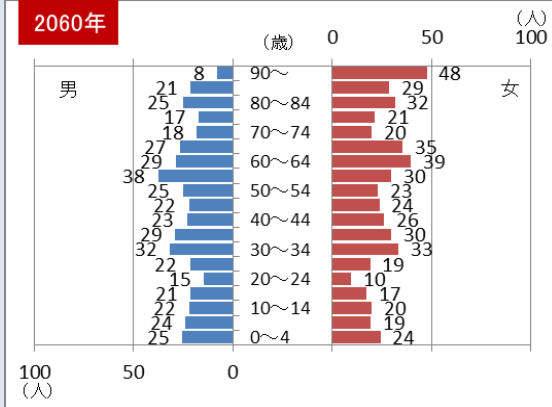
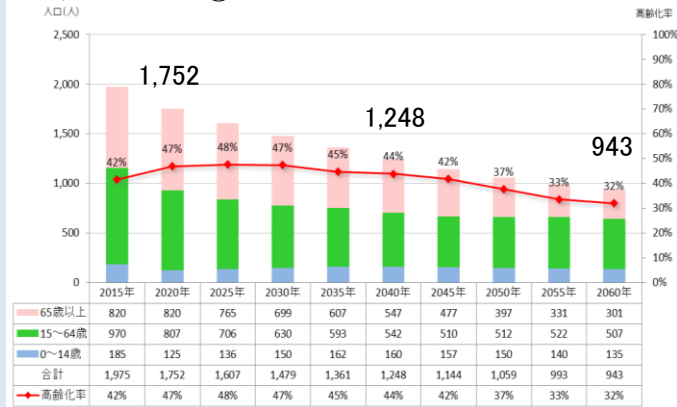
◇ 人口ピラミッド(2060年)



◇ 児童・生徒数(2060年)



<シミュレーション②>



9. 各小学校学区別の人口推計

9-9. 田野々小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年7人（地域人口の0.4%）増】（大人6人・子ども1人）

・20歳代前半のUIJターン者が毎年2人、20歳代後半のUIJターン者が毎年2人 計4人

・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組

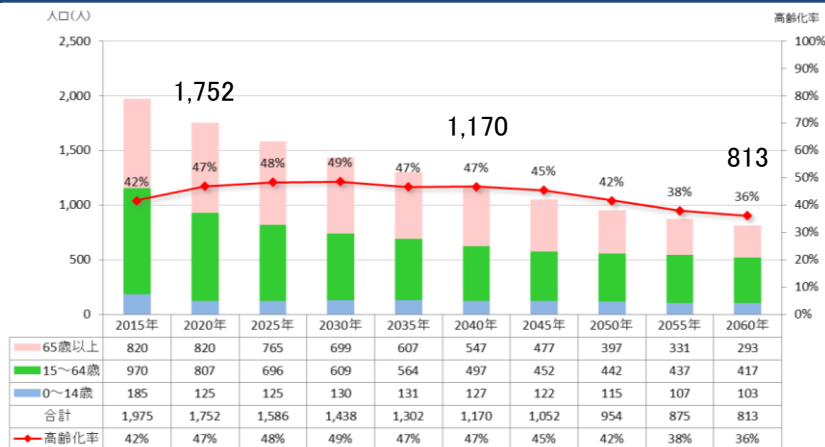
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.38（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

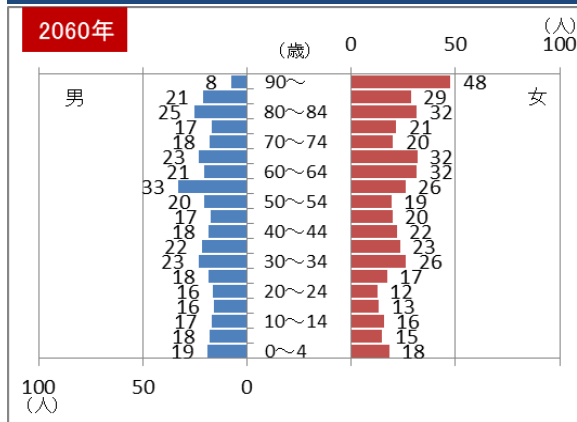
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代のUIJターン者4人と、30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は813人となり、現状推移の476人を337人（増減率+70.8%）上回る。
- ✓ 年少人口は103人となり、現状推移の24人を79人（同+329.2%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は417人となり、現状推移の166人を251人（同+151.2%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は24ポイント改善し36%となる。

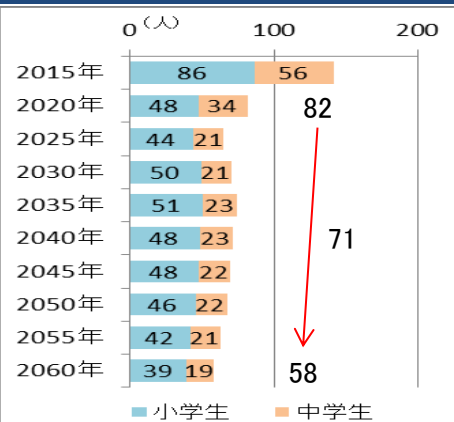
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-10. 北ノ川小学校区【現状分析】

【北ノ川小学校区地区の特徴】

- ・旧大正町の東部に位置し、川口、田野々小学校区及び黒潮町、四万十市に隣接する。
- ・校区の中心をJR四国予土線と四万十川が東西に横断しており、主に川沿いの平地に住宅地や農地が立地している。

【主な施設等】

四万十町立北ノ川中学校、北ノ川保育所、北ノ川郵便局、JA高知県大正支所、海洋堂ホビー館四万十／かつば館
JR四国予土線打井川駅

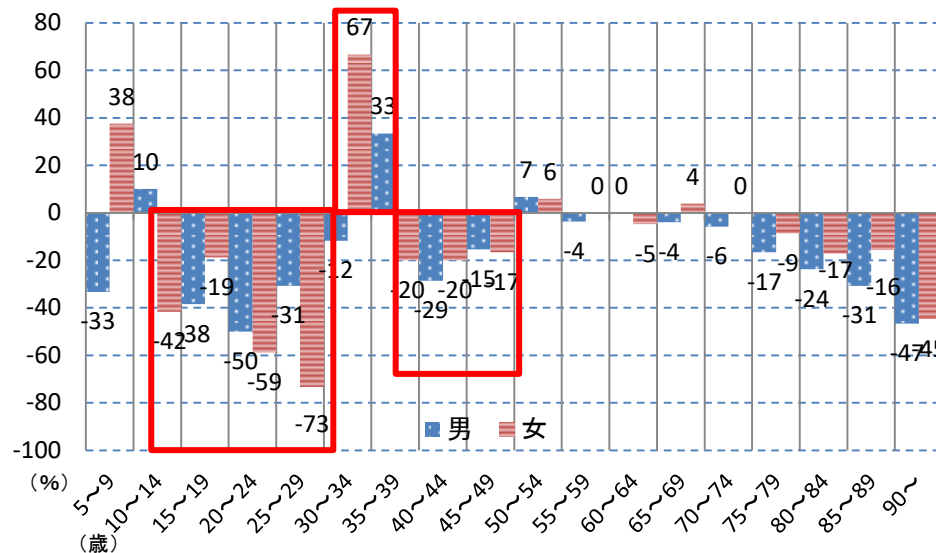
●出生率 1.91

●高齢化率 45%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
北ノ川小学校区	642	⇒	556	▲86	▲13.40%
男性	314	⇒	275	▲39	▲12.42%
女性	328	⇒	281	▲47	▲14.33%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 北ノ川小学校区の人口は、5年間で▲86人減となっており、減少率は13.40%である
- ✓ 「30~34歳」の女性（+2人）「35~39歳」の男性（+4人）で流入超過。
- ✓ 「10~29歳」の女性（▲29人）、「15~29歳」の男性（▲17人）、「35~49歳」の女性（▲6人）、「40~49歳」の男性（▲4人）で流出超過。特に、「20~24歳」の女性（▲10人）、「25~29歳」の女性（▲11人）での流出が多い。

9. 各小学校学区別の人口推計

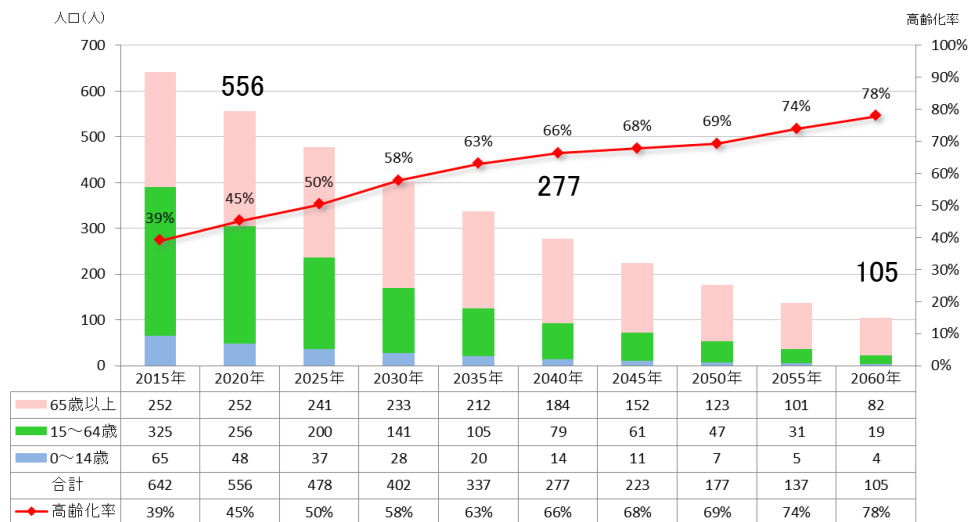
9-10. 北ノ川小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

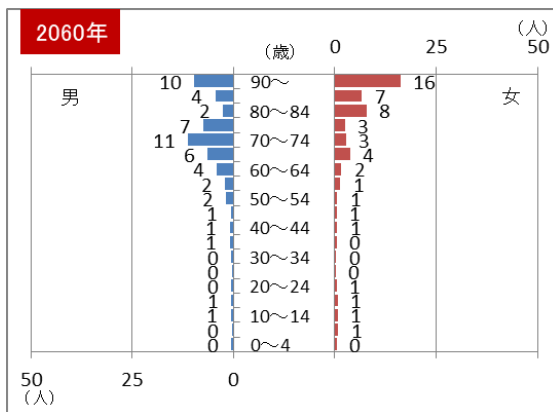
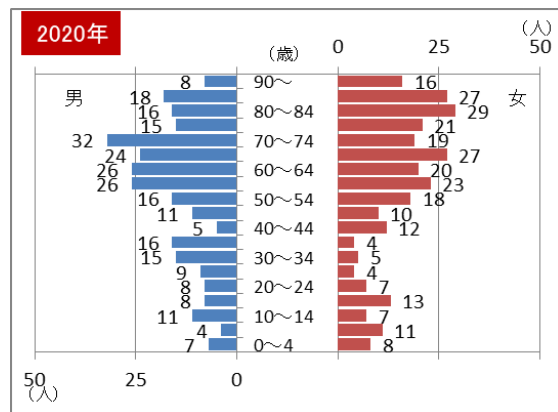
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は
▲451人減少（増減率▲81.1%）
- ✓ 年少人口は48人→4人（同▲91.7%）、生産年齢人口は
256人→19人（同▲92.6%）に減少
- ✓ 老年人口は252人→82人（同▲67.5%）に減少するもの
の、高齢化率は78%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は31人→3人（同▲90.3%）に減少

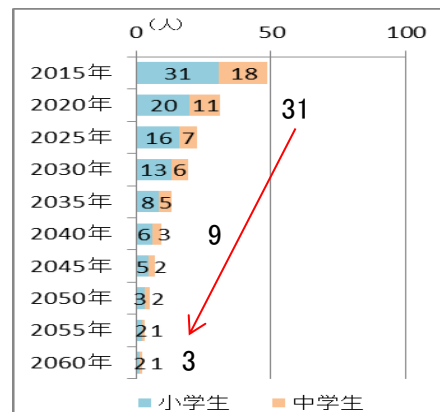
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド（2020年 → 2060年）



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-10. 北ノ川小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年2人（地域人口の0.4%）増】（大人2人）

・30歳代前半の夫婦が毎年1組

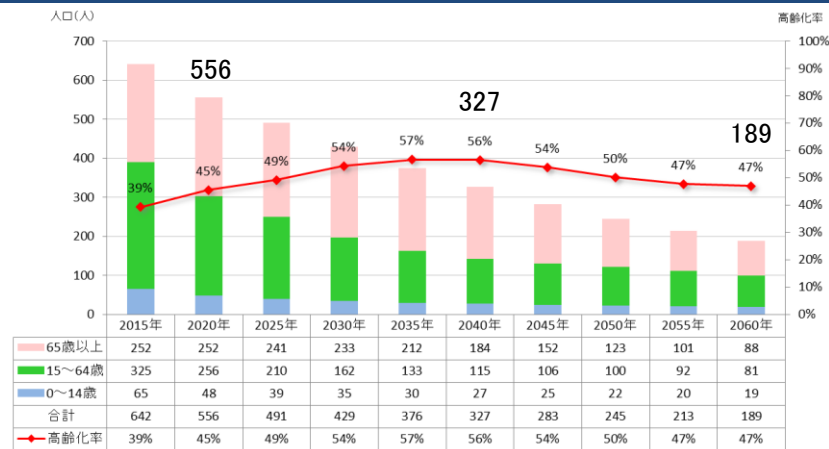
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.91（2020年）→ 2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）

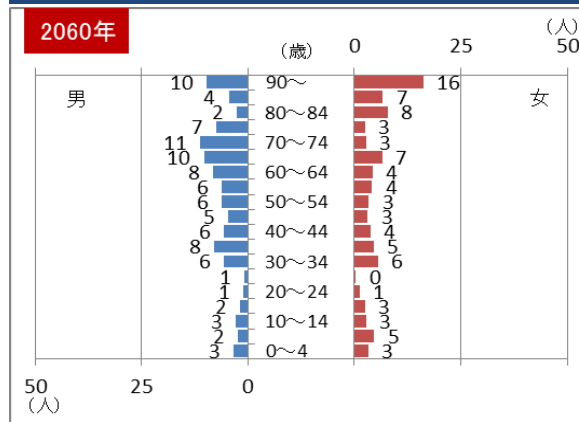
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、30歳代前半の夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、年少人口の増加を図るため、出生率2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）まで上昇させることを想定した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は189人となり、現状推移の105人を84人（増減率+80.0%）上回る。
- ✓ 年少人口は19人となり、現状推移の4人を15人（同+375.0%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は81人となり、現状推移の19人を62人（同+326.3%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は31ポイント改善し47%となる。

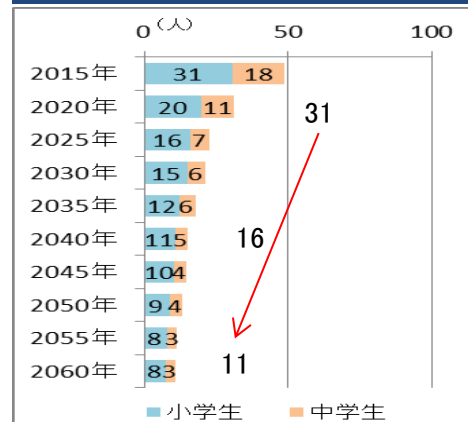
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-10. 北ノ川小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年6人（地域人口の1.1%）増】（大人4人・子ども2人）

・20歳代後半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組

・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組

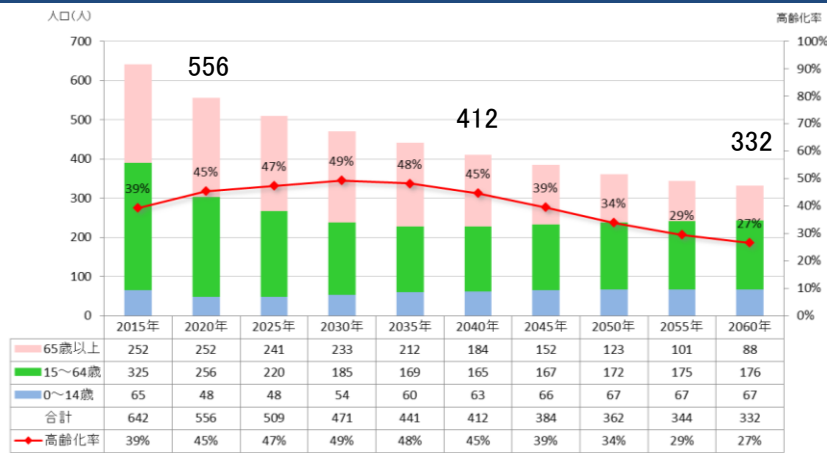
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.91（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

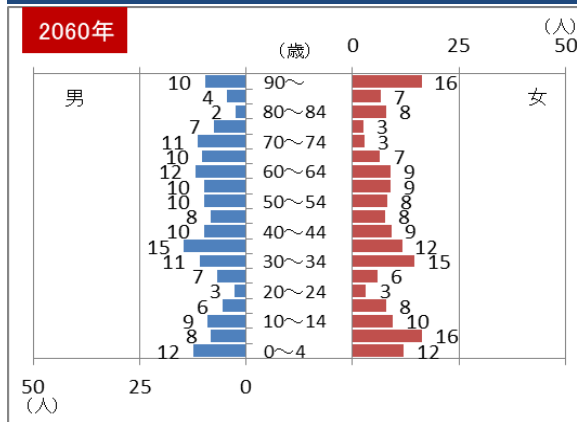
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦1組と30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は332人となり、現状推移の105人を227人（増減率+216.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は67人となり、現状推移の4人を63人（同+1575.0%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は176人となり、現状推移の19人を157人（同+826.3%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は51ポイント改善し27%となる。

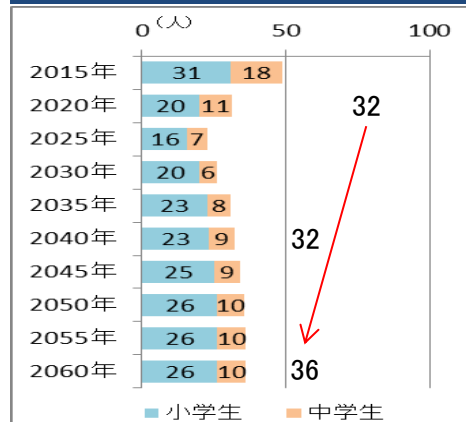
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-11. 十川小学校区【現状分析】

【十川小学校区の特徴】

- ・旧十和村の東部に位置し、昭和小学校区、四万十市および愛媛県北宇和郡鬼北町、松野町に隣接する。
- ・校区の中心をJR四国予土線と国道381号線、四万十川が東西に横断しており、主に国道沿いの平地に住宅地や農地が立地しているが、校区の大半を山林が占める。

【主な施設等】

四万十町十和地域振興局、四万十町立十川中学校、四万十町十和体育館、道の駅四万十とおわ、(四万十川ジップライン)、こいのぼり公園、十川郵便局、JA高知県十和支所、しまんと町社会福祉協議会 十和の里小嶋保育所、シェアオフィス161(旧広井小)、JR四国予土線十川駅、

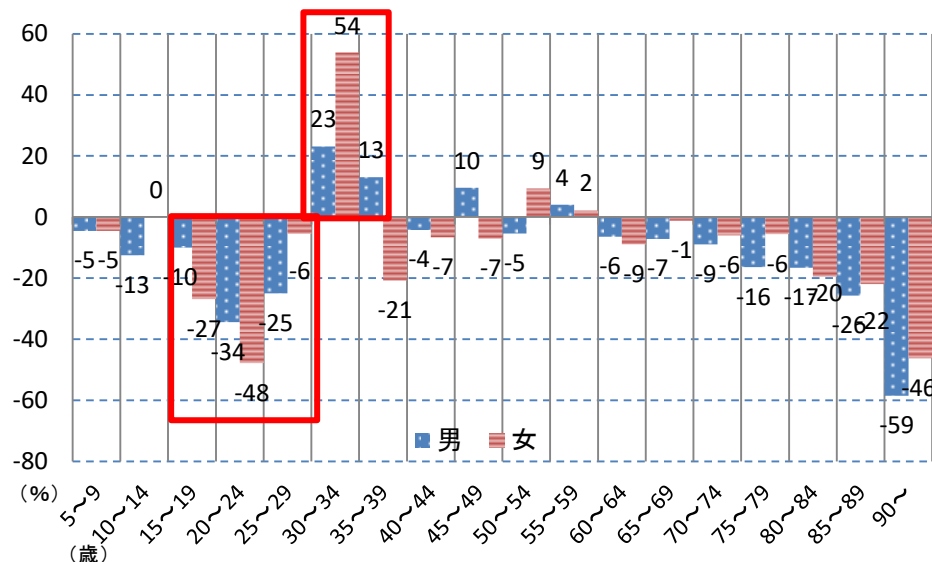
● 出生率 1.94

● 高齢化率 51%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
十川小学校区	1,755	⇒	1,568	▲187	▲10.66%
男性	879	⇒	802	▲77	▲8.76%
女性	876	⇒	766	▲110	▲12.56%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 十川小学校区の人口は、5年間で▲187人減となっており、減少率は10.66%である
- ✓ 「30～34歳」の男女（男+6人・女+7人）、「35～39歳」の男性（+3人）で流入超過
- ✓ 一方で、「15～29歳」の男女（男▲19人・女▲19人）の流出超過。特に、「20～24歳」の男女（男▲10人・女▲11人）での流出が多い。

9. 各小学校学区別の人口推計

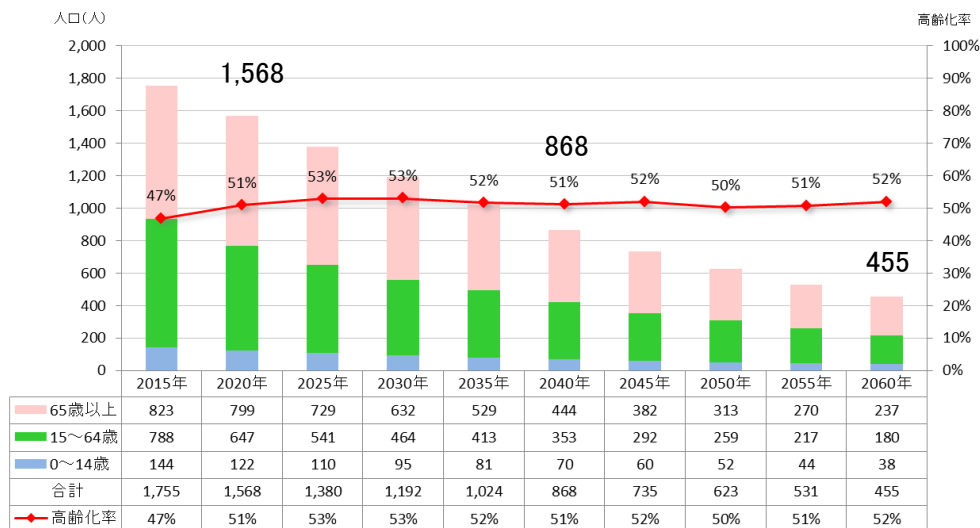
9-11. 十川小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

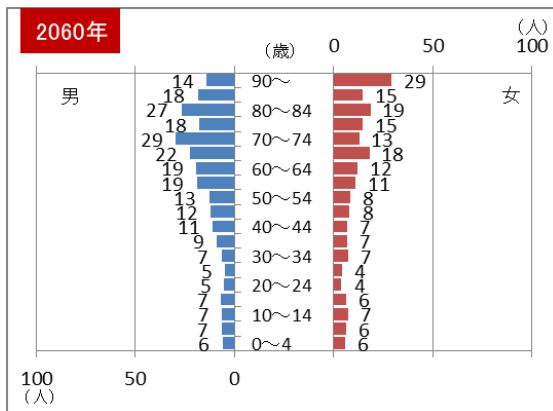
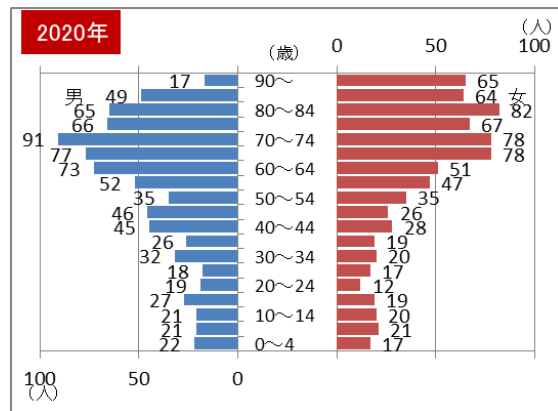
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地区人口は▲1,113人減少(増減率▲71.0%)
- ✓ 年少人口は122人→38人(同▲68.9%)、生産年齢人口は647人→180人(同▲72.2%)に減少
- ✓ 老年人口は799人→237人(同▲70.3%)に減少し、高齢化率はほぼ横ばいの52%で推移
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は76人→24人(同▲68.4%)に減少

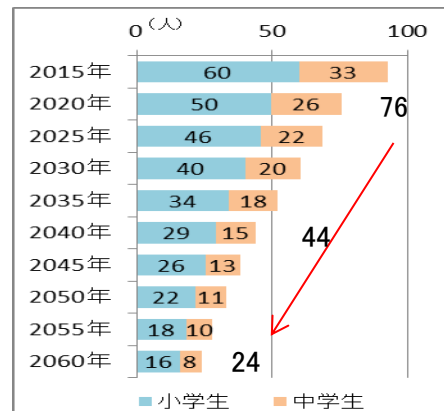
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-11. 十川小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.94（2020年）→ 2.18（四万十町人口ビジョンにおける目標値）

①：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年1組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年1組

【合計 毎年4人（地域人口の0.3%）増】（大人4人）

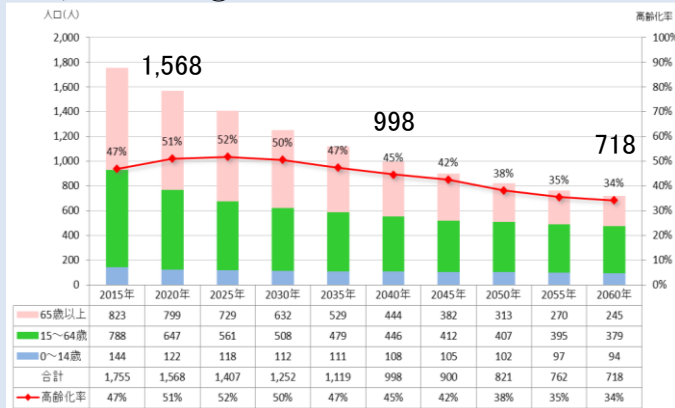
②：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

- ・20歳代後半の夫婦が毎年2組
- ・30歳代前半の夫婦が毎年1組

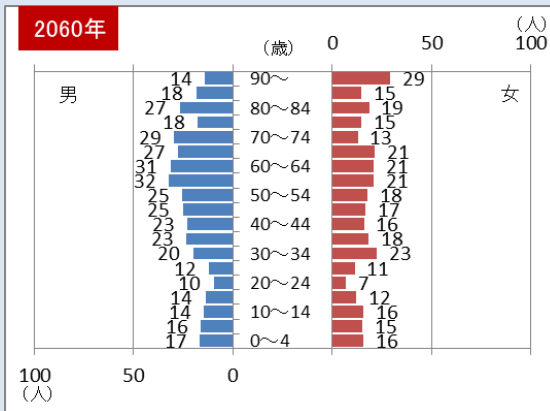
【合計 毎年6人（地域人口の0.4%）増】（大人6人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

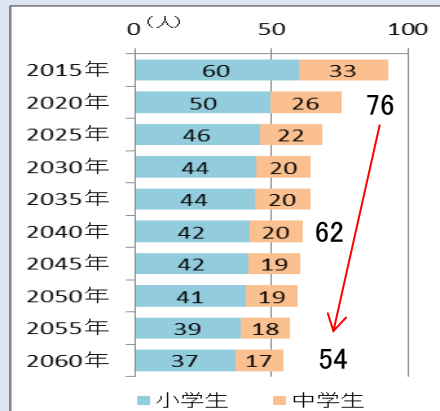
<シミュレーション①>



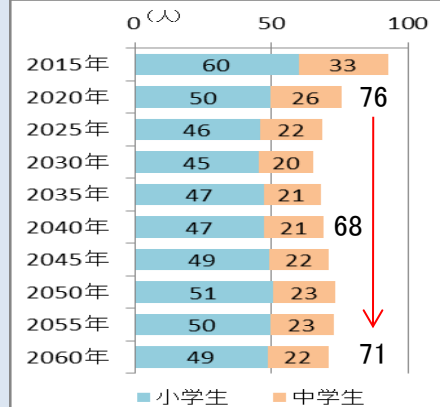
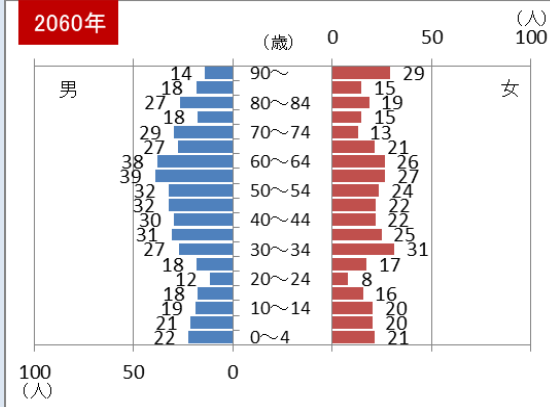
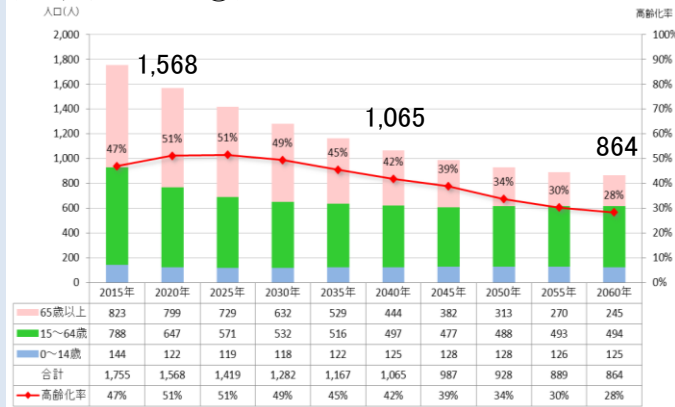
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション②>



9. 各小学校学区別の人口推計

9-11. 十川小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現【合計 毎年6人（地域人口の0.4%）増】（大人5人・子ども1人）

・20歳代前半のUIJターン者が毎年3人

・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組

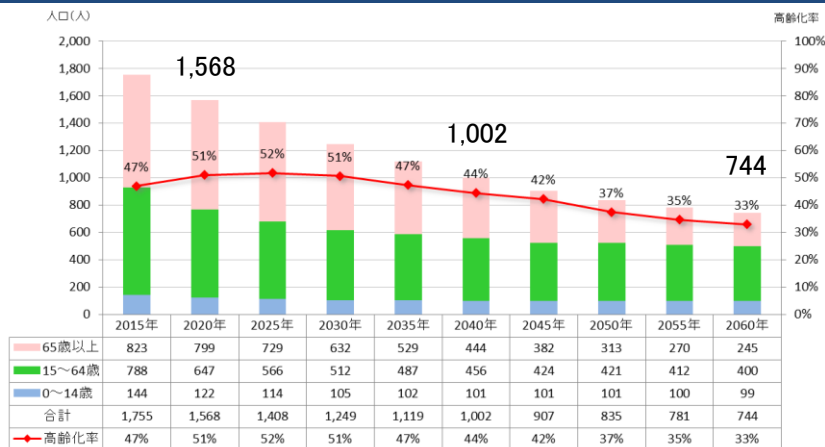
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.94（2020年）→ 1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

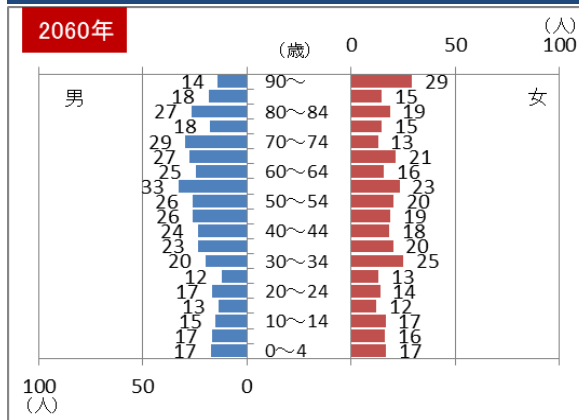
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代のUIJターン者3人と、30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は744人となり、現状推移の455人を289人（増減率+63.5%）上回る。
- ✓ 年少人口は99人となり、現状推移の38人を61人（同+160.5%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は400人となり、現状推移の180人を220人（同+122.2%）上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は19ポイント改善し33%となる。

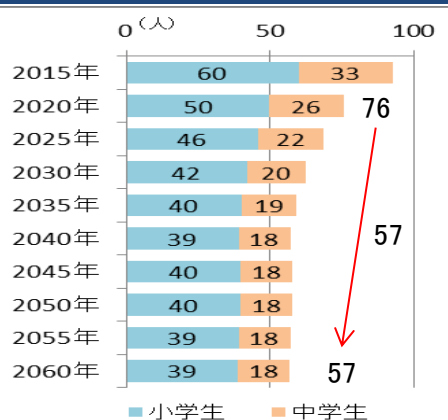
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計

9-12. 昭和小学校区【現状分析】

【昭和小学校区の特徴】

- ・町の南西部に位置し、田野々、十川小学校区及び四万十市に隣接する。
- ・校区の中心をJR四国予土線と国道381号線、四万十川が東西に横断しており、主に国道沿いの平地に住宅地や農地が立地しているが、校区の大半を山林が占める。

【主な施設等】

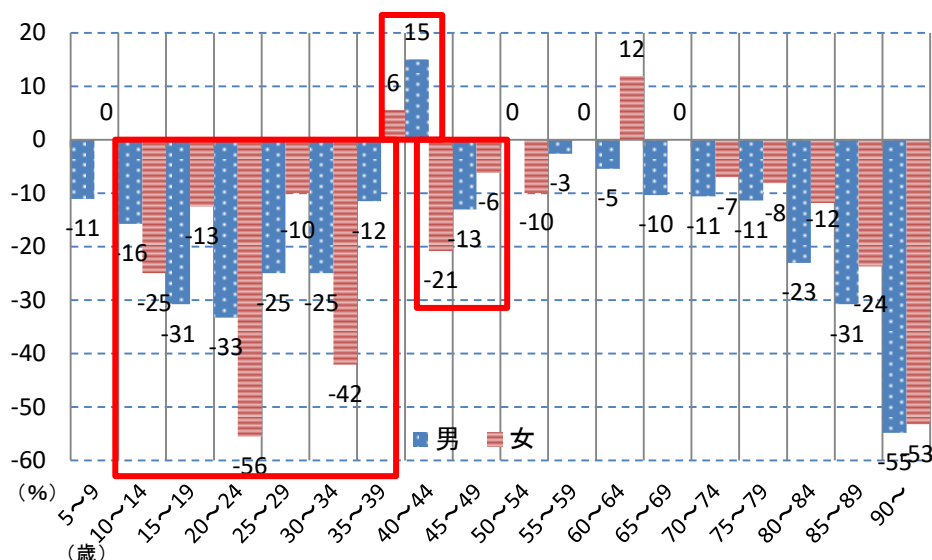
十和診療所、十和隣保館・児童館、昭和保育所、ふるさと交流センター、三島キャンプ場、土佐昭和郵便局
四国電力津賀発電所、高幡消防組合四万十清流消防署西分署、JR四国予土線土佐昭和駅

● 出生率 1.19
● 高齢化率 50%

◇ 人口推移実績（小学校区、四万十町）

	2015年		2020年	増減	増減率
昭和 小学校区	1,115	⇒	955	▲160	▲14.35%
男性	546	⇒	466	▲80	▲14.65%
女性	569	⇒	489	▲80	▲14.06%
四万十町	18,162	⇒	16,463	▲1,699	▲9.35%
男性	8,606	⇒	7,861	▲745	▲8.66%
女性	9,556	⇒	8,602	▲954	▲9.98%

◇ コーホート変化率（2015年 → 2020年）



- ✓ 昭和小学校区の人口は、5年間で▲160人減となっており、減少率は14.35%である
- ✓ 「35~39歳」の女性（+1人）「40~44歳」の男性（+3人）で流入超過
- ✓ 一方で、「10~39歳」の男性（▲22人）、「10~34歳」の女性（▲24人）、「40~49歳」の女性（▲6人）「45~49歳」の男性（▲3人）で流出超過。特に「20~24歳」の女性（▲10人）と「30~34歳」の女性（▲8人）での流出が多い。

9. 各小学校学区別の人口推計

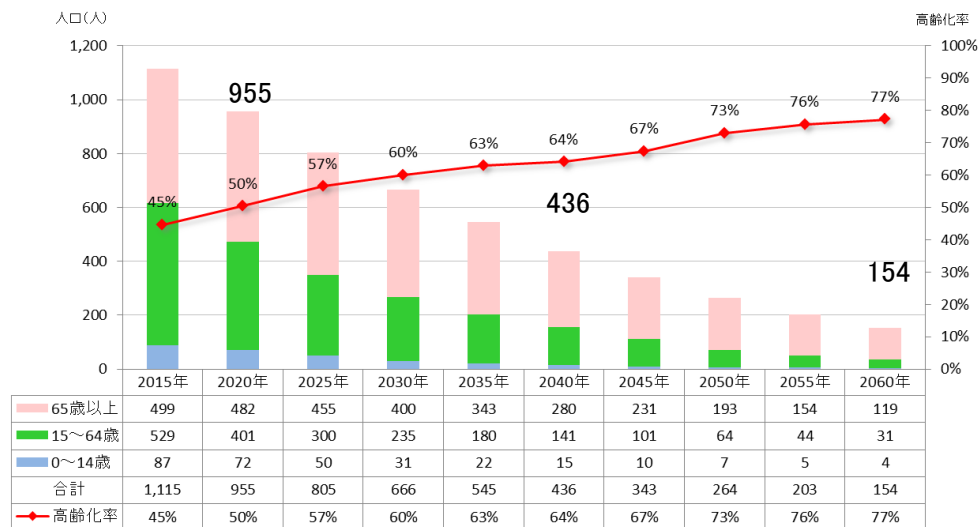
9-12. 昭和小学校区【現状推移】

◇ 人口推移の解説

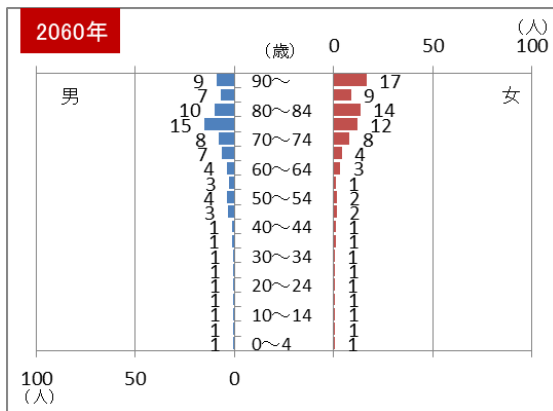
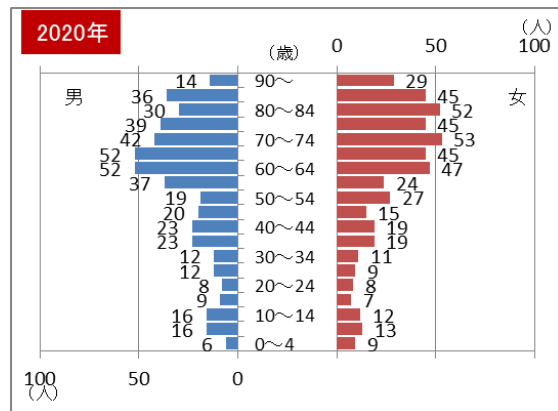
【2020年と2060年の比較】

- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、小学校区人口は801人減少(増減率▲83.9%)
- ✓ 年少人口は72人→4人(同▲94.4%)、生産年齢人口は401人→31人(同▲92.3%)に大幅に減少
- ✓ 老年人口は482人→119人(同▲75.3%)に減少するものの、高齢化率は77%まで上昇
- ✓ 年代別では全世代で男女ともに人口の減少が著しい
- ✓ 児童・生徒数は48人→3人(同▲93.8%)に減少

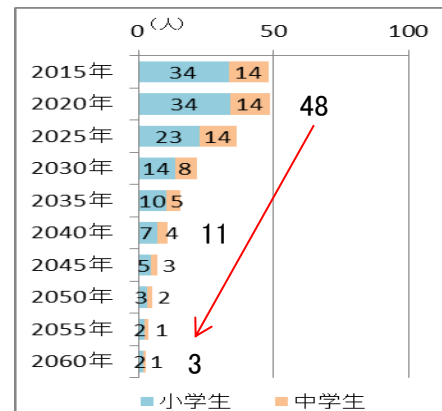
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



◇ 人口ピラミッド (2020年 → 2060年)



◇ 児童・生徒数の推移



9. 各小学校学区別の人口推計

9-12. 昭和小学校区【シミュレーション①②】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.19(2020年) → 2.18(四万十町人口ビジョンにおける目標値)

①：下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

・30歳代前半の夫婦が毎年1組

【合計 毎年2人(地域人口の0.2%)増】(大人2人)

②：下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現

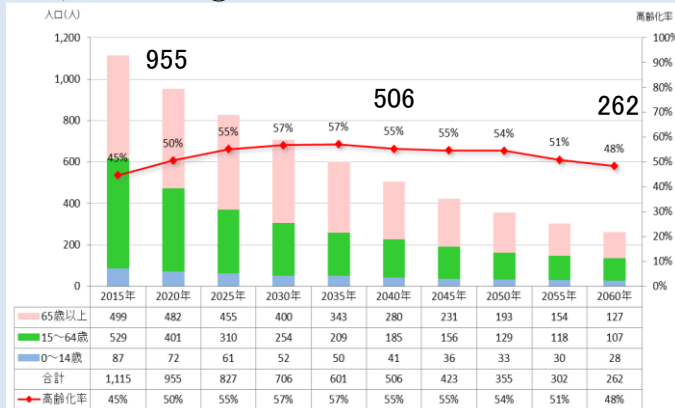
・20歳代後半の夫婦が毎年1組

・30歳代前半の夫婦が毎年1組

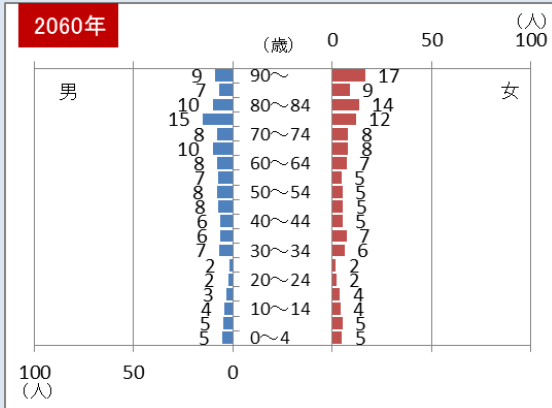
【合計 毎年4人(地域人口の0.4%)増】(大人4人)

◇ 将来推計人口と高齢化比率

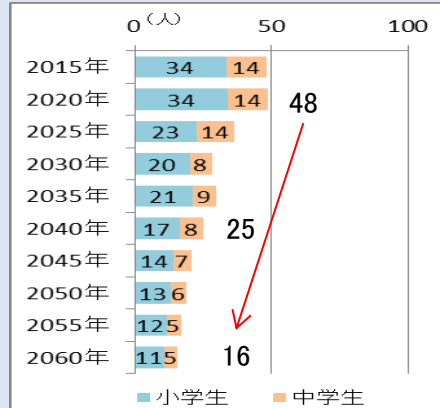
<シミュレーション①>



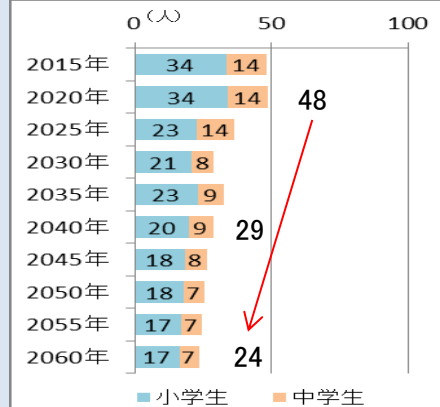
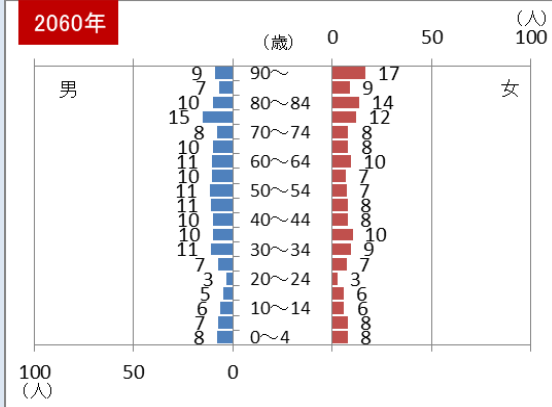
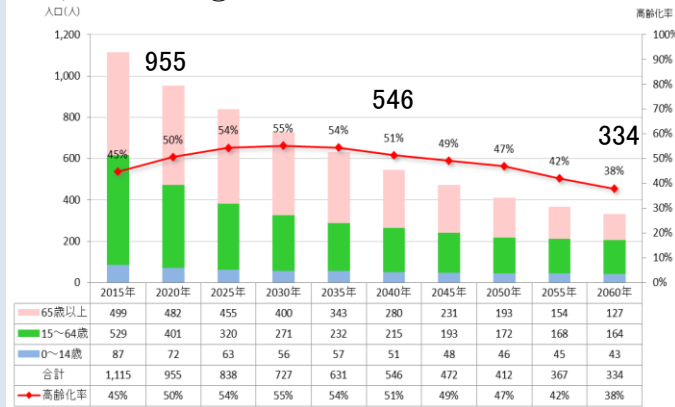
◇ 人口ピラミッド (2060年)



◇ 児童・生徒数 (2060年)



<シミュレーション②>



9. 各小学校学区別の人口推計

9-12. 昭和小学校区【シミュレーション③】

【シミュレーション想定条件】

条件1: 下記の世代の流入(あるいは流出阻止)が毎年実現【合計 毎年5人(地域人口の0.5%)増】(大人4人・子ども1人)

・20歳代後半のUIターン者が毎年2人

・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組

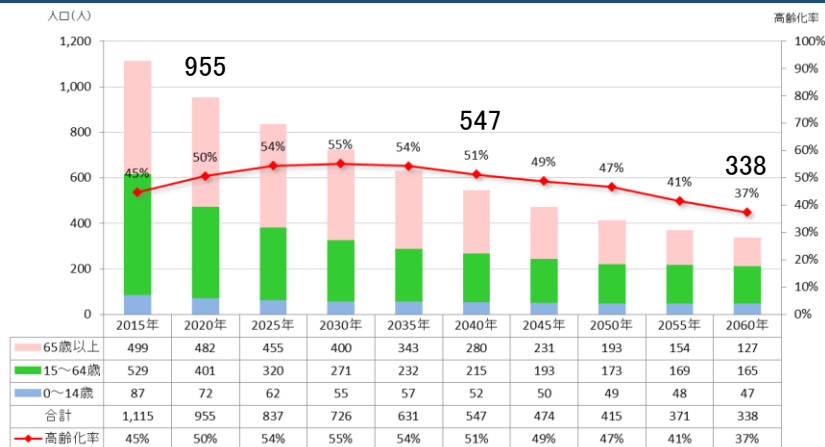
条件2: 下記の合計特殊出生率が実現

1.19(2020年) → 1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)

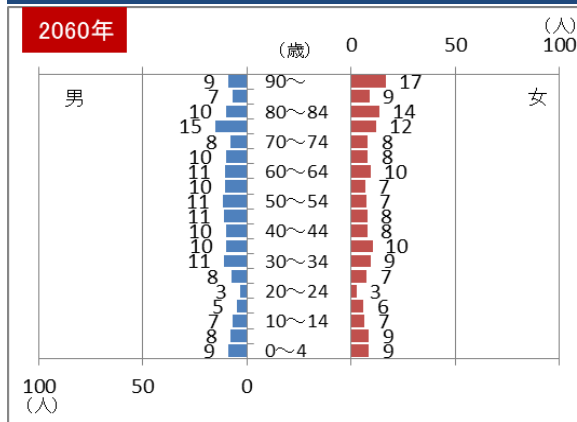
◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 条件1として、20歳代後半のUIターン者2人と、30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦1組の流入を想定した。
- ✓ 条件2として、現在の町全体の合計特殊出生率1.68(厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値)を採用した。
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2060年の校区人口は338人となり、現状推移の154人を184人(増減率+119.5%)上回る。
- ✓ 年少人口は47人となり、現状推移の4人を43人(同+1075.0%)上回る。
- ✓ 生産年齢人口は165人となり、現状推移の31人を134人(同+432.3%)上回る。
- ✓ 2060年の高齢化率は40ポイント改善し37%となる。

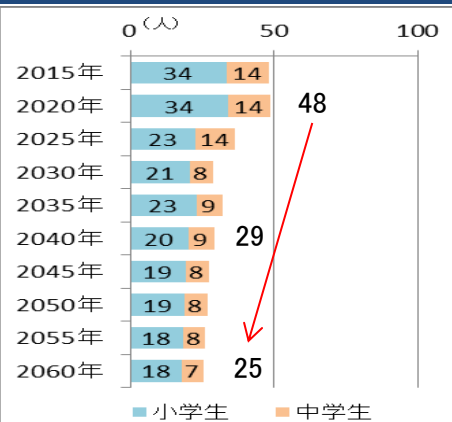
◇ 将来推計人口と高齢化比率



◇ 人口ピラミッド



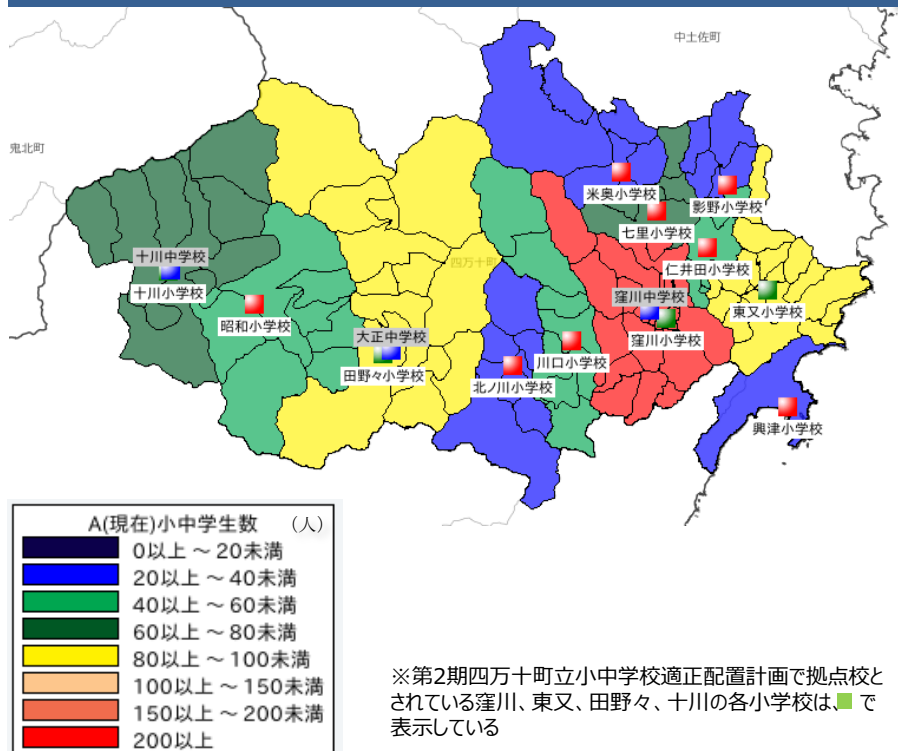
◇ 児童・生徒数



9. 各小学校学区別の人口推計 児童生徒数の変移 (1)

TOWN

【現在】小中学生 2060年推計人口分布



出典：本書推計値

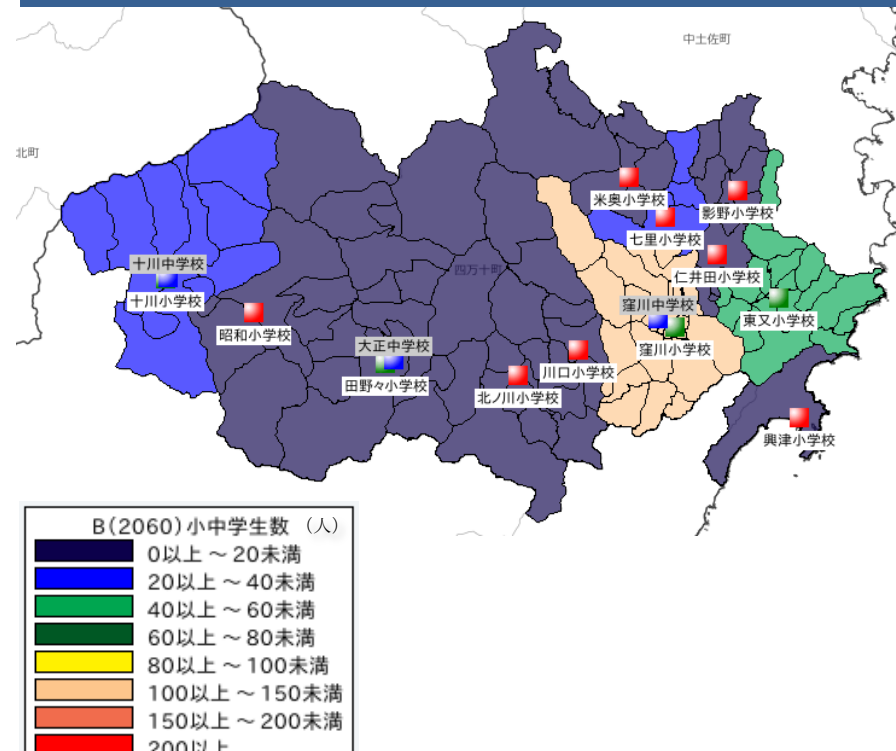
児童生徒数の小学校学区別分布をみると、窪川小学校区が町全体児童生徒数の40.5%を占めており、次点に東又小校区が10.1%、田野々小校区8.3%、十川小校区7.7%の順となっており、これらの小学校区で、全体の66.6%の人口を占めており、地区別人口の占有率とほぼ同じ傾向となっている。

一方で40人に満たない小学校区も4つ存在（青部分）し、いずれも町境の辺境部に位置する小学校区となっている。

注）本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

注）地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小校区へ、「作屋」は七里小校区に含めて表示している。

【現状推移】小中学生 2060年推計人口分布



出典：本書推計値

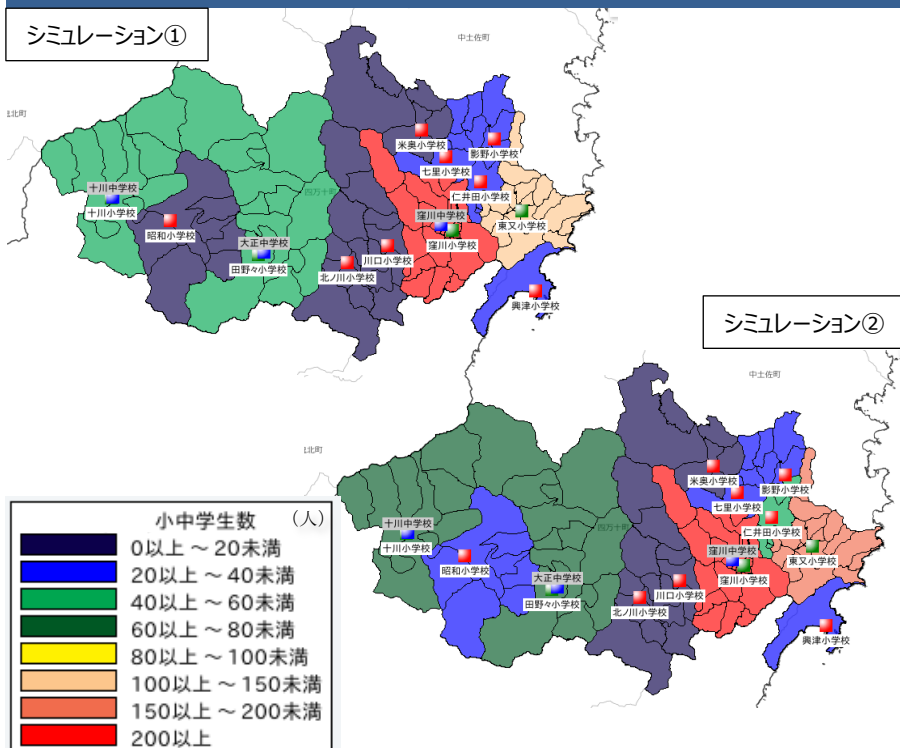
2020年7月現在の小学校学区別児童生徒数と比較すると、全小学校区で児童生徒数は大幅に減少しており、特に窪川（赤→肌色）、田野々（黄→紺）、十川（濃緑→青）の小学校区の減少数が大きいものの、窪川小学校区の占有率は50.0%に上昇する。これは他小学校区の児童生徒数の減少が大きいためで、特に、現在も50人未満の小学校区である仁井田、影野、米奥、興津、川口、北ノ川、昭和では、児童生徒数が一桁となることが見込まれる。

9. 各小学校学区別の人口推計 児童生徒数の変移 (2)

TOWN

【SIM①②】小中学生 2060年推計人口分布

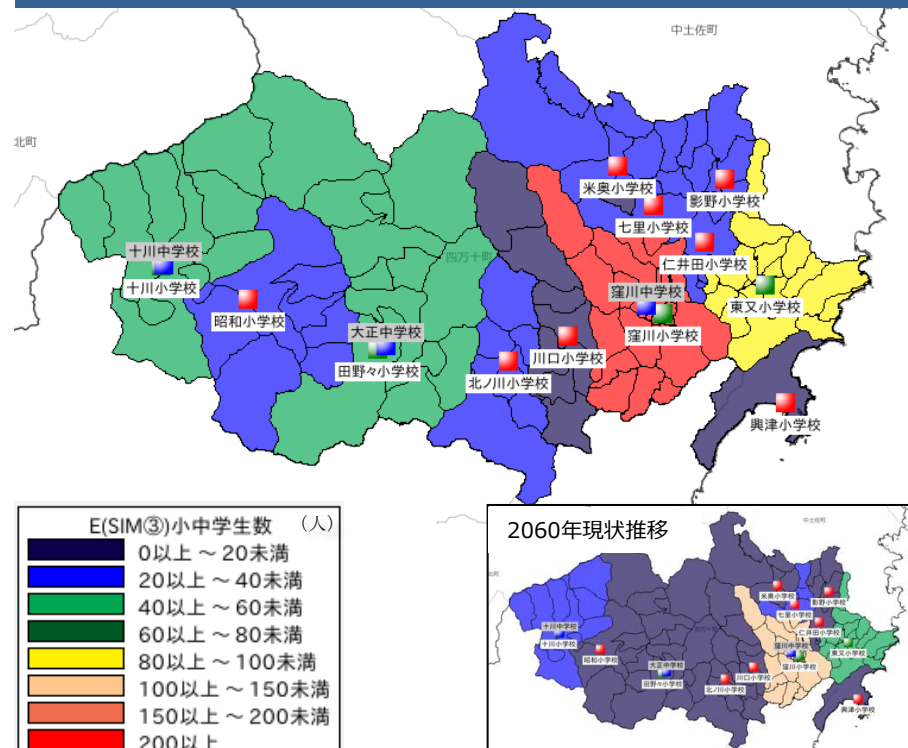
シミュレーション①



出典：本書推計値

窪川小学校区への流入の有無で条件を変更したシミュレーション①と②を比較する。町全体の児童生徒数の将来推計値には、シミュレーション①(781人)及び②(780人)では、ほとんど差はみられない。一方で、窪川小学校区児童生徒数の全体に占める割合は、①49.3%→36.3%に低下し、一方で東又、仁井田、田野々、昭和、十川地域については児童生徒数が増加する結果となる。

【SIM③】小中学生 2060年推計人口分布



出典：本書推計値

2060年現状推移とシミュレーション③の児童生徒数を比較すると、いずれの小学校区においても、増加する結果となる。

特に、前述した減少が著しい仁井田、影野、米奥、興津、川口、北ノ川、昭和の小学校区においては、シミュレーション③の人口の流入(流出阻止)効果大きい。また、最も児童生徒数の多い窪川小学校区の占有率は、50.0%→40.2%と低下する。

注) 本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

注) 地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小学校区へ、「作屋」は七里小学校区に含めて表示している。

10. シミュレーション内容と結果

各地区のシミュレーション内容と結果

【各地区】

地区名 2020年地区人口 2020年出生率	シミュレーション想定条件				2060年人口 (シミュレーション 結果)	2060年人口 (現状推移)
	シミュレーション パターン	世代別流入条件	転入数	出生率		
【窪川地域】 11,632人 1.41	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年8組 ・30歳代前半の夫婦が毎年6組	毎年28人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	7,150人	4,690人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年5組 ・30歳代前半の夫婦が毎年5組	毎年20人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	6,569人	
	シミュレーション③	・20歳後半のUJターン者が毎年20人 ・30歳前半の子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年4組	毎年32人 (小学校区人口の0.3%)	1.68	6,927人	
【大正地域】 2,308人 1.48	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年2組	毎年6人 (小学校区人口の0.3%)	2.18	927人	580人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年2組 ・30歳代前半の夫婦が毎年3組	毎年10人 (小学校区人口の0.4%)	2.18	1,131人	
	シミュレーション③	・20歳代(前半×2、後半×2)のUJターン者が毎年4人 ・20歳後半×1、30歳前半×2の子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年3組	毎年13人 (小学校区人口の0.6%)	1.68	1,144人	
【十和地域】 2,523人 1.65	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年2組	毎年6人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	980人	609人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年3組 ・30歳代前半の夫婦が毎年2組	毎年10人 (小学校区人口の0.4%)	2.18	1,198人	
	シミュレーション③	・20歳代(前半×3、後半×2)のUJターン者が毎年5人 ・30歳前半の子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年2組	毎年11人 (小学校区人口の0.4%)	1.68	1,082人	
地区合計 (四万十町全体)	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年10組 ・30歳代前半の夫婦が毎年10組	毎年40人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	9,057人	5,879人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年10組 ・30歳代前半の夫婦が毎年10組	毎年40人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	8,898人	
	シミュレーション③	・20歳前半×5人、30歳後半×24のUJターン者 毎年計29人 ・20歳後半×1、30歳前半×8の子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年9組	毎年56人 (小学校区人口の0.3%)	1.68	9,153人	

10. シミュレーション内容と結果

各小学校区のシミュレーション内容と結果

【各小学校区】

小学校区名 2020年小学校区人口 2020年出生率	シミュレーション想定条件				2060年人口 (シミュレーション 結果)	2060年人口 (現状推移)
	シミュレーション パターン	世代別流入条件	転入数	出生率		
【仁井田小学校区】 881人 1.05	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	497人	314人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年4人 (小学校区人口の0.5%)	2.18	612人	
	シミュレーション③	・20歳代後半のUIJターン者が毎年1人 ・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年4人 (小学校区人口の0.5%)	1.68	542人	
【影野小学校区】 609人 1.24	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口の0.3%)	2.18	226人	120人
	シミュレーション②					
	シミュレーション③	・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年3人 (小学校区人口0.5%)	1.68	246人	
【七里小学校区】 732人 1.92	シミュレーション①	・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口0.3%)	2.18	432人	304人
	シミュレーション②					
	シミュレーション③	・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人	毎年2人 (小学校区人口0.3%)	1.68	406人	
【米奥小学校区】 525人 2.25	シミュレーション①	・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口0.4%)	2.18	278人	174人
	シミュレーション②					
	シミュレーション③	・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人	毎年2人 (小学校区人口0.4%)	1.68	389人	

10. シミュレーション内容と結果

各地区のシミュレーション内容と結果

【各小学校区】

小学校区名 2020年小学校区人口 2020年出生率	シミュレーション想定条件				2060年人口 (シミュレーション 結果)	2060年人口 (現状推移)
	シミュレーション パターン	世代別流入条件	転入数	出生率		
【窪川小学校区】 5,812人 1.35	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年3組 ・30歳代前半の夫婦が毎年3組	毎年12人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	4,161人	2,817人
	シミュレーション②	・流入なし	毎年0人	2.18	3,337人	
	シミュレーション③	・20歳代後半の男性UIJターン者が毎年3人 ・20歳代後半の女性UIJターン者が毎年7人	毎年10人 (小学校区人口の0.2%)	1.68	3,752人	
【川口小学校区】 697人 1.51	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口の0.3%)	2.18	247人	166人
	シミュレーション②					
	シミュレーション③	・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年3人 (小学校区人口の0.4%)	1.68	285人	
【東又小学校区】 1,614人 1.78	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年4人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	1,015人	658人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年2組	毎年6人 (小学校区人口の0.4%)	2.18	1,143人	
	シミュレーション③	・20歳代後半の女性UIJターン者が毎年3人 ・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年6人 (小学校区人口の0.4%)	1.68	1,037人	
【興津小学校区】 762人 0.86	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口の0.3%)	2.18	293人	137人
	シミュレーション②					
	シミュレーション③	・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人	毎年2人 (小学校区人口の0.3%)	1.68	270人	

10. シミュレーション内容と結果

各地区のシミュレーション内容と結果

【各小学校区】

小学校区名 2020年小学校区人口 2020年出生率	シミュレーション想定条件				2060年人口 (シミュレーション 結果)	2060年人口 (現状推移)
	シミュレーション パターン	世代別流入条件	転入数	出生率		
【田野々小学校区】 1,752人 1.38	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年4人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	738人	476人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年2組 ・30歳代前半の夫婦が毎年2組	毎年8人 (小学校区人口の0.5%)	2.18	943人	
	シミュレーション③	・20歳代(前半×2, 後半×2) UIターン者が毎年4人 ・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年7人 (小学校区人口の0.4%)	1.68	813人	
【北ノ川小学校区】 556人 1.91	シミュレーション①	・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口の0.4%)	2.18	189人	105人
	シミュレーション②					
	シミュレーション③	・20歳代後半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組 ・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年6人 (小学校区人口の1.1%)	1.68	332人	
【十川小学校区】 1,568人 1.94	シミュレーション①	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年4人 (小学校区人口の0.3%)	2.18	718人	455人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年2組 ・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年6人 (小学校区人口の0.4%)	2.18	864人	
	シミュレーション③	・20歳代前半のUIターン者が毎年3人 ・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年6人 (小学校区人口の0.4%)	1.68	744人	
【昭和小学校区】 955人 1.19	シミュレーション①	・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年2人 (小学校区人口の0.2%)	2.18	262人	154人
	シミュレーション②	・20歳代後半の夫婦が毎年1組 ・30歳代前半の夫婦が毎年1組	毎年4人 (小学校区人口の0.4%)	2.18	334人	
	シミュレーション③	・20歳代後半のUIターン者が毎年2人 ・30歳代前半で子ども(0~4歳)が1人いる夫婦が毎年1組	毎年5人 (小学校区人口の0.5%)	1.68	338人	

11.【事例1】他地域における取組 ～北海道厚真町～

◇ 厚真町の概要と子育て支援施策

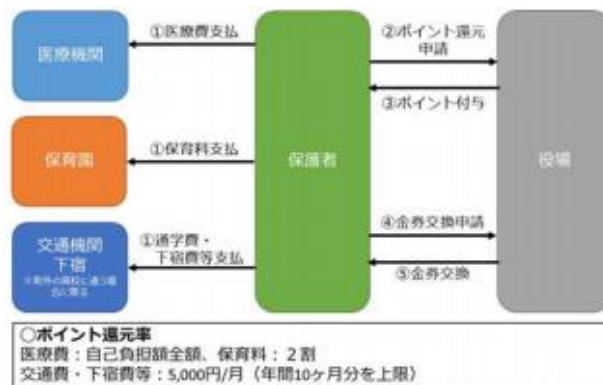
- ✓ 厚真町は北海道の道央南部に位置し、人口4,457人、高齢化率37.1%（令和2年1月現在）。
- ✓ 高度経済成長期に大規模な転出超過が発生して以降、人口減少が続いていたが、札幌市、苫小牧市や千歳空港へのアクセスが良いという地理的利点を活かし、住環境の整備、子育て支援に加え、起業家への支援や新規就農者の育成など、様々な施策を総合的に実施することで、直近3年連続で社会増を達成している。
- ✓ 平成25年度に、厚真町単独の起業化支援制度を創設。本制度を活用した起業家数は13件で、制度を活用した事業者の倒産・廃業はゼロ（平成29年3月末時点）。また、地域おこし協力隊の活用による起業や新規就農支援にも取り組んでおり、平成23年度の受け入れ開始以来、9名が起業・新規就農で厚真町内に定住。また、平成28年11月から、1週間から1か月程度の滞在を想定したお試しサテライトオフィスの運用を開始し、企業進出への支援を本格化することとしている。
- ✓ 厚真町は、廃校となった小学校を改修し、研修農場を整備し、平成29年10月から運用を開始。研修農場では、講義を行うほか、多品種の栽培に対応したほ場やハウス等を整備し、実践的な演習も可能。

◇ 子育てもサポートする「子育て支援住宅」の整備

- 道内有数の工業都市である苫小牧市に勤務するサラリーマン世帯を主にターゲットとして、平成26年度から平成28年度の3年間に、町外の世帯を対象とした一戸建ての「子育て支援住宅」を15棟整備。
- 入居要件として「町外から厚真町に移住すること」「小学生以下の子を1名以上扶養していること」等を設定するとともに、家賃は5.6万円を基準額として、扶養する18歳以下の子ども1人につき家賃を5千円控除する仕組みとすることにより、若年世帯の移住増加を実現。

◇ 出産前から高校卒業までの一貫した子育て支援

- 隣接市へ診療に行く妊産婦の交通費の補助、出産祝い金（第3子以降10万円）の支給、高校生以下の医療費や保育料など子育てにかかった経費を町内で使える商品券として還元する制度など、出産前から高校卒業まで一貫した子育て支援を実施。
- 平成28年には、町産材のカラマツ材などを使用した子育てに関する拠点施設（認定こども園・学童保育・子育て支援センターが入居）を開設し、豊かな自然を感じ、のびのび子育てができる環境を提供。



子育てにかかる経費を商品券で還元する仕組み



子育て支援住宅

11. 【事例2】他地域における取組 ～福井県池田町～

◇ 池田町の概要と子育て支援施策

- ✓ 池田町は福井県と岐阜県の県境に位置し、四方が山に囲まれ、総面積のうち91.7%を山林が占めている。人口2,486人、高齢化率44.77%（令和2年4月現在）。
- ✓ 昭和25年をピークに自然減、社会減による人口減少が続いており、特に子育て世代の流出が顕著となるなかで、平成27年度に『福井県池田町地方創生総合戦略～「豊国の農村」まち育て戦略～』を策定した。
- ✓ 小さな社会ならではの豊かな生活環境を再構築することで、「すみか」「しごと」「なかま」をキーワードに地方創生の取組を行い、平成27年から平成31年までの5年間で社会増減率を-2.01%から1.47ポイント改善させ、-0.54%とした。
- ✓ 地産地消地商を目指し、過疎債を利用して平成23年度に株式会社まちUP池田を設立。主な事業は、まちの駅運営事業、ツリーピクニックアドベンチャーいけだ事業、観光協会事業等であり、森林・林業と観光政策の複合化戦略を行っている。
- ✓ その他にも、風土の素材を活かした商品開発、起業支援センター、商品開発拠点等の整備及び環境保全型農業の取組を行い、地域資源循環型農村を目指している。

◇ 家族・子育ての幸福度の向上によるまちづくり

- ・ 安心な地域で家族が幸せに暮らすための豊かな人との関係性づくりを目的に、家事・子育て全体を地域全体が見守り、支援する環境を整備。
- ・ 「ママ（パパ）がんばる手当事業」では、0歳から3歳までの子どもを持つ親に地域商品券を支給し、家庭への援助と地域内消費の活性化を生み出している。
- ・ 子育てしやすい環境づくりにも配慮し、妊婦向けにママ・ケア事業とようこそ赤ちゃん事業、子育て世帯にはエコカー購入支援や病児・病児後保育事業等を行っている。
- ・ 教育分野では地域資源を活かした教育や地域住民が先生となるまち人授業、通学用定期券の助成事業を行っている。

■ ママ（パパ）がんばる手当事業 支給額

基礎手当金	月額20,000円（いけだ応援券）
子ども加算金	月額10,000円（子ども一人につき）

◇ 木活と木育による木望のまちプロジェクト

- ・ 木活と木育を通じて森林資源に新たな価値を創造することにより、多様な人が木や森でつながることを目的とした取組を行っている。
- ・ 木活では、杉材を使用して廃校を宿泊体験施設にリノベーションを行うことや、幼保育園や福祉医療施設の木質化を推進している。
- ・ 木育では、木のおもちゃで遊べる木育施設の整備や、町の子ども達が1歳の誕生日を迎えた際に、町産材で作った積み木をプレゼントするウッドファースト事業に取り組んでいる。



1歳のお子さんにプレゼント



アドベンチャーパーク



切り株の散歩道

11. 【事例3】他地域における取組 ～岡山県矢掛町～

◇ 岡山県矢掛町の移住・定住推進策

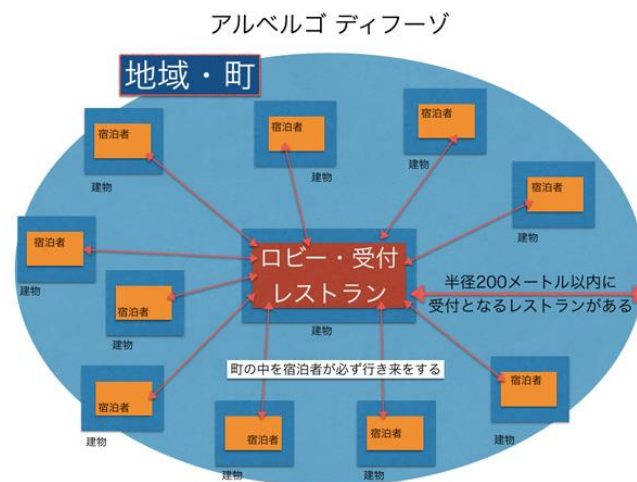
- ✓ 矢掛町は岡山県の南西部に位置する町で、人口約1.4万人、高齢化率37.0%（平成27年国勢調査）である。
- ✓ 主要産業は農業であり、稲作の他、ぶどう、梨などの果実の栽培が盛ん。
- ✓ 矢掛市街地と小田市街地の二つの市街地があるが、矢掛町中心部にはスーパーマーケットなどの店舗は少ない。
- ✓ 中心市街地の事業所数は2011年は249社であったが2017年には234社に減少するなど、空き家、空き店舗が増加している。
- ✓ 人口減や経済衰退を食い止めるため、町では「矢掛町しごと・ひと・まち創生総合戦略」において「観光力」の強化を重点施策に掲げた。
- ✓ 平成25年から古民家再生事業に着手し、現在まで3件の古民家を再生整備した。その1つが観光客向けの宿泊施設「矢掛屋 INN&SUITES」である。
- ✓ 過去20年間でゼロであった町内の宿泊客数が、この事業により年間約1万人まで増加。
- ✓ さらに、家族や団体向けに貸切ができる宿泊施設が開業するなど、750m範囲の商店街に、3年間で10件の民間企業による空き家・古民家を改修した店舗展開が行われた。
- ✓ こうした取組を加速させ、今後は道の駅整備や観光アプリ開設などハード・ソフトの両面で観光客受入整備を総合的に実施していく。

◇ 世界初の「アルベルゴ・ディフーゾ・タウン」に認定

- 古民家や空き家を宿泊施設として再生させ、地域を活性化させた矢掛町の取組が評価され、2018年6月、イタリアのアルベルゴ・ディフーゾ協会から、日本のアルベルゴ・ディフーゾ・タウンとして世界初の認定がされた。
- 公式認定を受けたことでアルベルゴ・ディフーゾの手法を活用するなど同協会と連携した取組が可能。

◇ アルベルゴ・ディフーゾ

- アルベルゴ・ディフーゾ（分散型ホテル）は、廃村の危機にあったイタリアの村を再生させる試みとして1980年代に提唱された。
- 具体的には過疎化した地域の建物や空き家を活用し、宿泊施設や受付、食堂等として別々に配置。これらが建物内に一体に配置されていないことで、観光客が地域を巡り、滞在してもらうことが可能となる（受付は各場所から200m以内に配置すると決められている）。
- 空き家や空き店舗をできる限り現状のまま活用して観光客を取り込み、地域の活性化を図ることが狙い。地域全体をホテルに見立てて持続可能なまちづくりをするという特徴がある。
- その地域の特色を活かした地元料理や体験型のメニューにより、その地域ならではのサービスを提供できるという特徴もある。



12 最後に ～小規模人口推計に基づく

政策・施策の検討にあたって～

四万十町の人口は近年、自然減と社会減の傾向が続き、16,463人（2020年7月31日時点）となっている。

将来推計人口を見ると、小学校区別に差はあるものの、いずれも年少人口と生産年齢人口が著しく減少する見込みであり、高齢化率が上昇する結果となっている。特に、影野、興津、川口、北ノ川、昭和小学校区で人口が大きく減少し、昭和小学校区では40年間で人口の83%以上が減少することで将来的な高齢化率は77%を超えると推測される。北ノ川小学校区では40年間で人口の81%以上減少し、高齢化率は78%を超えることが推測される。

旧町村の地域別では、大正、十和地域で人口が大きく減少し、40年間で人口の75%程度が減少し、高齢化率は60%前後に達すると推測されている。

人口が減少することで将来的な地区の存続や、行政サービスの確保が困難になることが懸念されるため、今後のまちづくりのあり方などについて、改めて人口推計を土台として考える必要がある。

このような状況を踏まえ、小学校区ごとの特徴や課題を考慮し、特定の世代・世帯の流入等を想定した人口動態シミュレーションを3パターン実施した。

いずれの小学校区も主に20～30歳代のUIJターン者、20歳後半や30歳代の子育て世帯の流入増（流出減）を図ることで、将来にわたりバランスの良い人口構成になると見込まれる。

町全体で、毎年現在人口の約0.3%程度の社会増と現在の出生率1.68以上を実現することができれば、四万十町人口ビジョンで設定した長期目標（2060年時点で8,831人）と社人研推計（2018年推計）における将来人口（2045年時点で9,300人程度）を達成できることになる。

地区の将来像やこれからのまちのあり方、政策の方向性を考えるにあたっては、下記のとおり、人口推計・シミュレーション結果を基盤とするとともに、それぞれの地区に暮らす住民の方々と問題意識や目標を共有し、課題解決に向けて協働することが重要である。

①「人口は地域の暮らし・まちを形づくる基盤」

地域の将来や目指す姿を考えるうえで、人口はすべての基礎データであり、地方創生の主役である住民の方々にも現状や課題を理解しやすい形で示す必要がある。

②「定住の基盤は地元（日常の生活圏域）」

定住を受け止める基盤は日常の生活圏であり、地区・小学校区単位での現状分析や具体的な対策を示すことが求められる。

③「人口減少対策に対する当事者意識の醸成」

地域ごとの課題や可能性を踏まえるとともに、住民の意見を反映した目標を設定するなど、住民の方々が当事者意識を持って理解し共有し行動することが必要である。

人口減少は地域の存亡にかかる問題であり、そこに暮らす住民が自らの生活圏である「地元」に、新たな移住者を受け入れながら生活していくことを納得し、前向きにとらえる必要がある。

さらに、住民の理解や協力のもとで移住者が増加しても、地域が所得面を含めて移住者の生活を支えることが出来なければ、定住には繋がらない。

地方創生に向けた取組を着実に推進するためには、人口減少をはじめとする諸課題に地域が一体となって取り組むとともに、四万十町としても人と暮らしの両面において実効性の高い政策・施策を検討・実施していくことが求められる。

(参考資料) 各小学校区別の人口推計

1. 四万十町全体【シミュレーション④】

「田園回帰1%戦略」(P5)に準じたシミュレーションを参考として掲載する。

シミュレーション④

現在の地区人口の1%程度の流入(流出阻止)を目標値として、シミュレーション③を基準に流入(流出阻止)する人口を設定した。

以下に掲載する町全体や各地域、各小学校区等のグラフは、現状推移版と比較した。

【シミュレーション③】

- ・各小学校区の流入の特性に応じて、流入(流出阻止)世帯を検討
 - ※流入(流出阻止)世帯の検討に当たっては、各小学校のコーホート変化率の流出年齢や性別の特性、各小学校区の産業構造、町営住宅の有無等を考慮した。
 - ※各小学校区の2020年人口の0.5%程度の人口の流入(流出阻止)を想定した。
 - ※米奥小学校区については農家住宅6戸に対し、R3～7年、13～17年、23～27年、33～37年の間にそれぞれ30代前半夫婦4組、30代後半夫婦2組の流入を想定し、6世帯のうち3世帯は0～4歳の子どもが1人いる世帯とした。
 - また、10年間居住し農家住宅を退去した世帯はそのまま小学校区に残る想定とした。



合計特殊出生率1.68

※厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」
四万十町出生率ベイズ推定値

【シミュレーション④】

- ・各小学校区の流入の特性に応じて、流入(流出阻止)世帯を検討
 - ※流入(流出阻止)世帯の検討に当たっては、各小学校のコーホート変化率の流出年齢や性別の特性、各小学校区の産業構造、町営住宅の有無等を考慮した。
 - ※各小学校区の2020年人口の**1%程度**の人口の流入(流出阻止)を想定した。
 - ※米奥小学校区については農家住宅6戸に対し、R3～7年、13～17年、23～27年、33～37年の間にそれぞれ30代前半夫婦4組、30代後半夫婦2組の流入を想定し、6世帯のうち3世帯は0～4歳の子どもが1人いる世帯とした。
 - また、10年間居住し農家住宅を退去した夫婦はそのまま地区に残る想定とした。



合計特殊出生率1.68

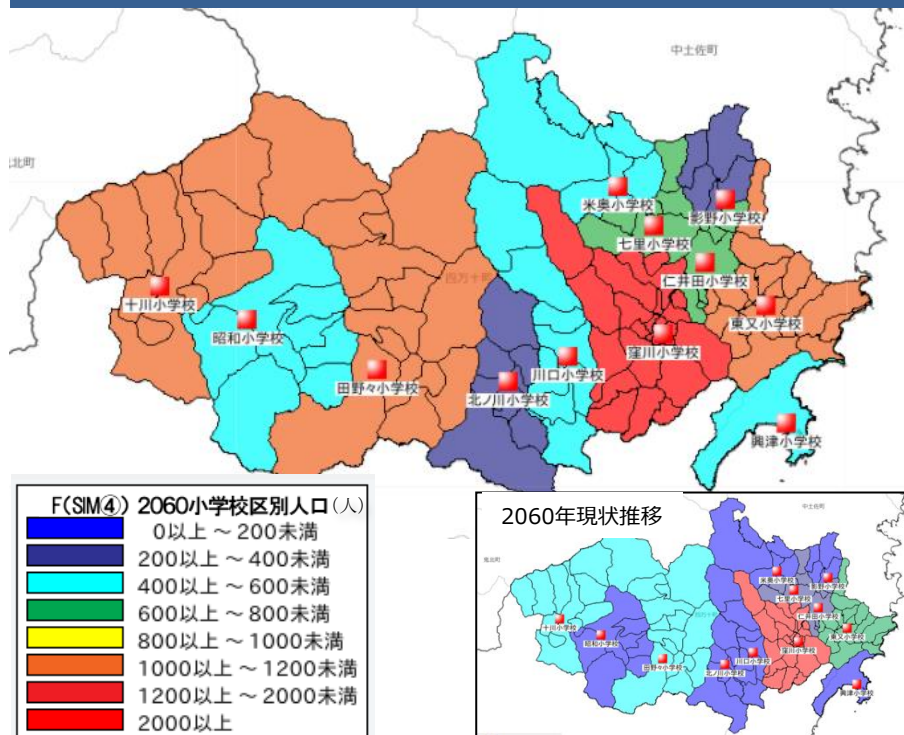
※厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」
四万十町出生率ベイズ推定値

四万十町全体および旧町村の3地域の推計については、各小学校区の推計値を合算した。

(参考資料①) 各小学校区別の人口推計

1. 四万十町全体【シミュレーション④】

SIM④小学校区別の2060年将来推計人口分布



出典：本書推計値、jSTAT MAPにより作成

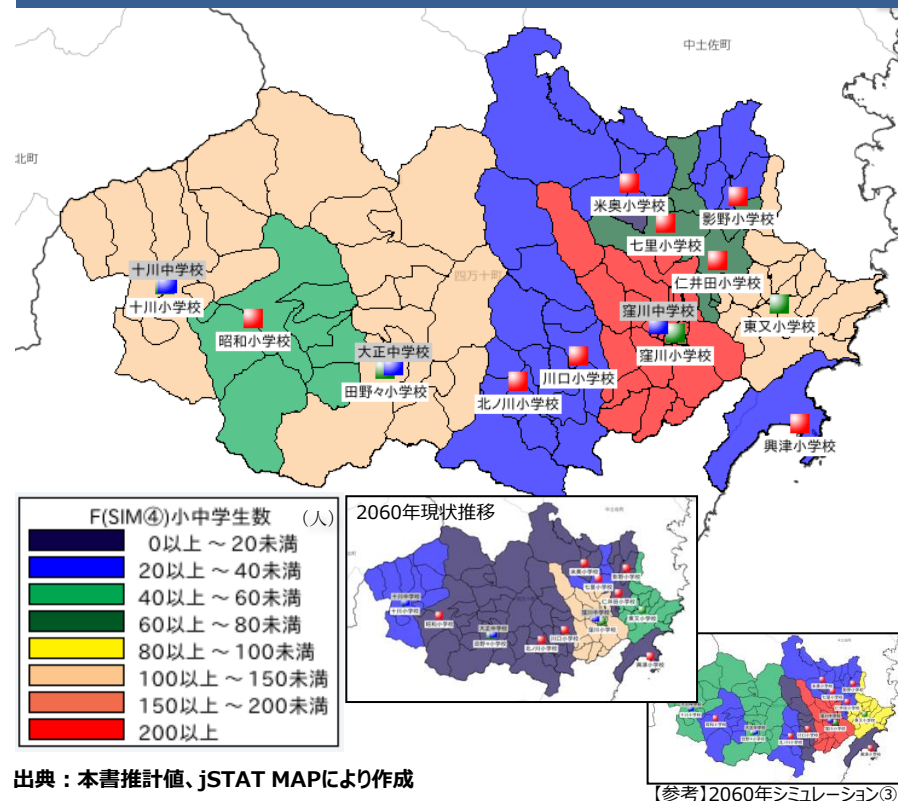
小学校区別の人口をみると、窪川小校区が町全体人口の35.3%を占めており、次点に田野々小校区が10.6%、東又小校区9.8%、十川小校区9.5%の順となっており、これらの小学校区で、全体の65.2%の人口を占めている。

これら4小学校区の周辺に位置する興津小校区やその他山間部の各小学校区では、800人に満たない校区人口が半数存在する。

注) 本報告書では小学校区単位で人口を表示しており、地図上の町丁字の一地区の人口を表していない。

注) 地図で表示する便宜上、P8の通学区域のうち行政区内で2校区に分割されている「替坂本」は仁井田小校区へ、「作屋」は七里小校区に含めて表示している。

【SIM④】小中学生 2060年推計人口分布



出典：本書推計値、jSTAT MAPにより作成

2060年の現状推移とシミュレーション④の児童生徒数を比較すると、いずれの小学校区においても増加する結果となり、増加幅はシミュレーション③よりも大きい。

特に、現状推移と比べ、仁井田、窪川、東又、田野々、昭和、十川の小学校区においては、その増加幅が大きく、シミュレーション④の人口の流入（流出阻止）効果が大きい。また、最も児童生徒数の多い窪川小学校区の占有率は、50.0%→37.3%と低下する。

(参考資料①) 各小学校区別の人口推計

1. 四万十町全体【シミュレーション④】

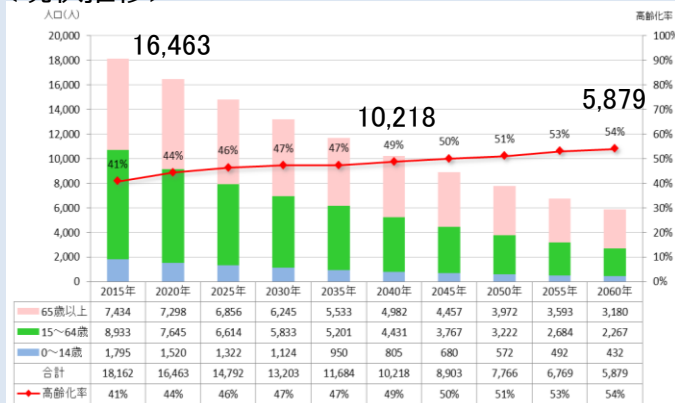
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

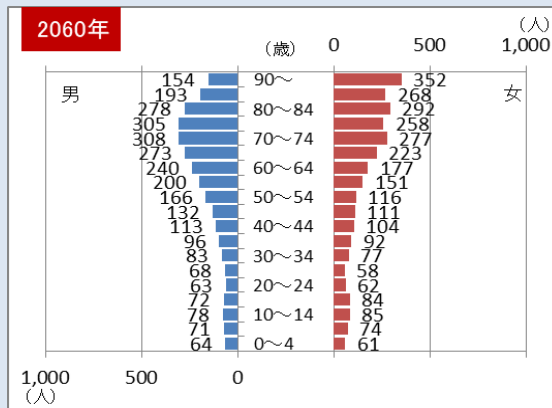
- ・20歳代のUIJターン者が毎年47人
- ・20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年22組、60歳代の夫婦が毎年4組
【合計 毎年121人（地域人口の0.7%）増】（大人99人・子ども22人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

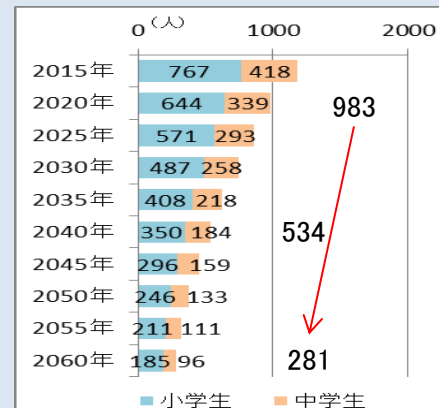
＜現状推移＞



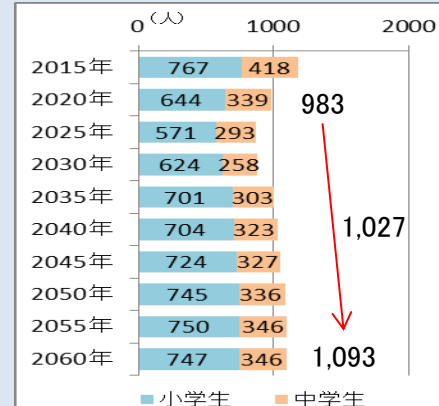
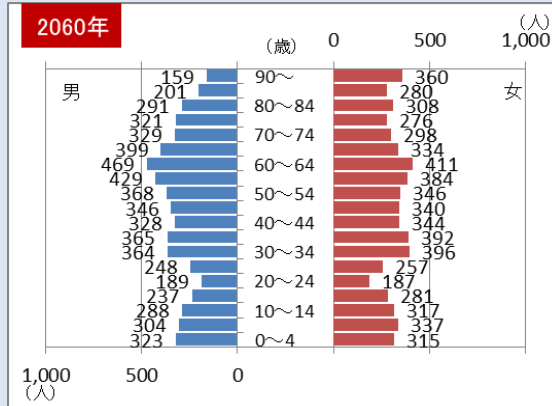
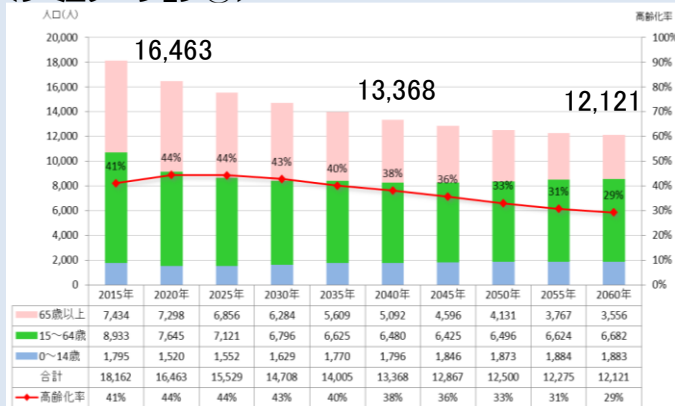
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



＜シミュレーション④＞



(参考資料) 各小学校区別の人口推計

2. 窪川地域【シミュレーション④】

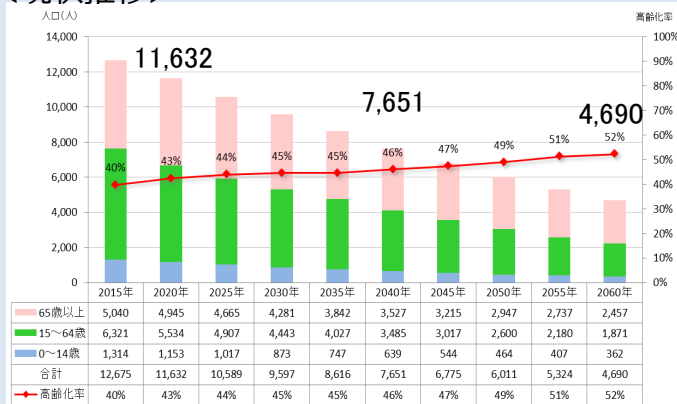
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

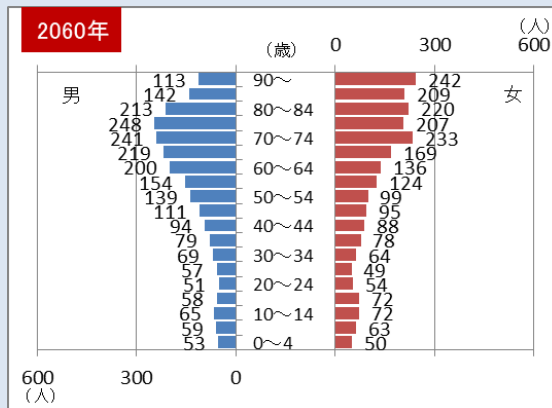
- ・20歳代後半UIJターン者が毎年32人
 - ・30歳前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年12組、60歳代前半の夫婦が毎年4組
- 【合計 毎年76人（地域人口の0.7%）増】（大人64人・子ども12人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

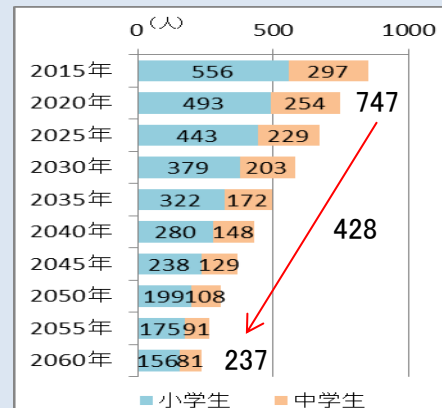
<現状推移>



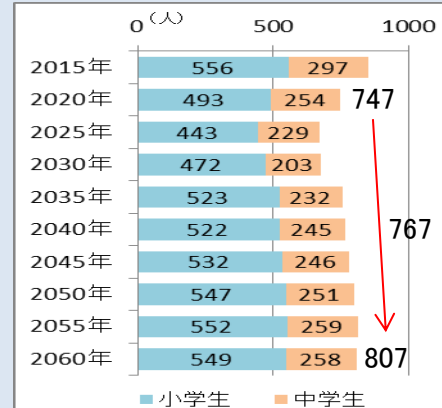
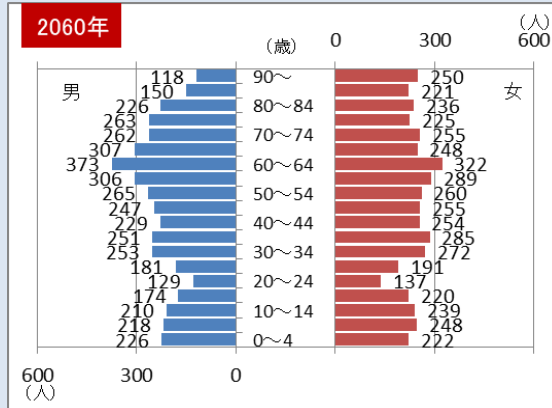
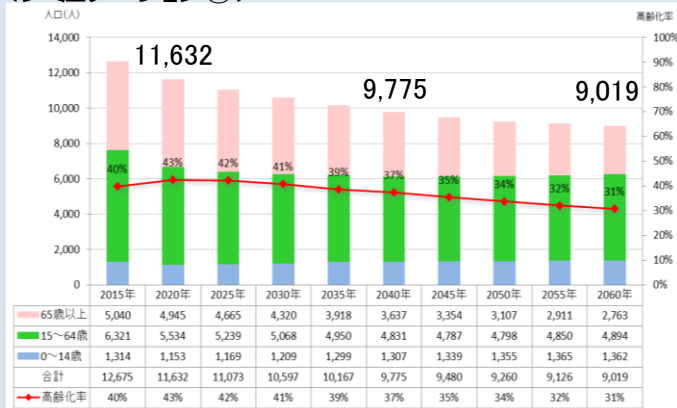
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校区別の人口推計

3. 大正地域【シミュレーション④】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

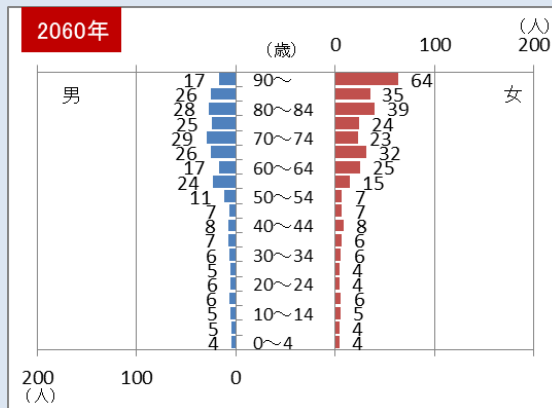
- ・20歳代のUIターン者が毎年6人
- ・20歳代後半～30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年5組
【合計 毎年21人（地域人口の0.9%）増】（大人16人・子ども5人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

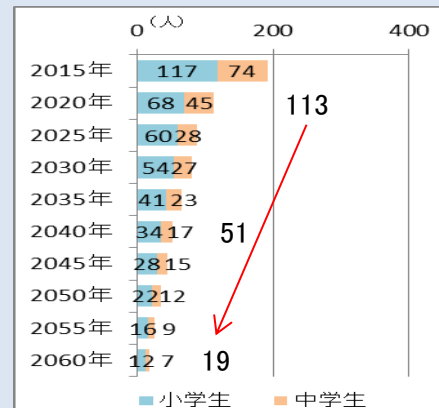
<現状推移>



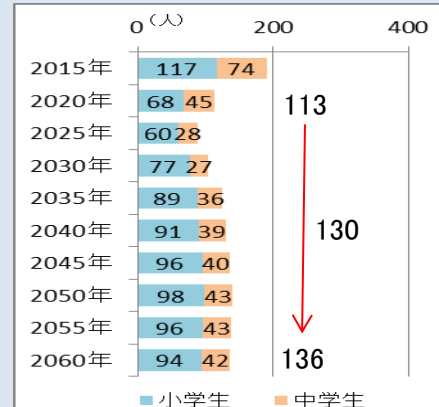
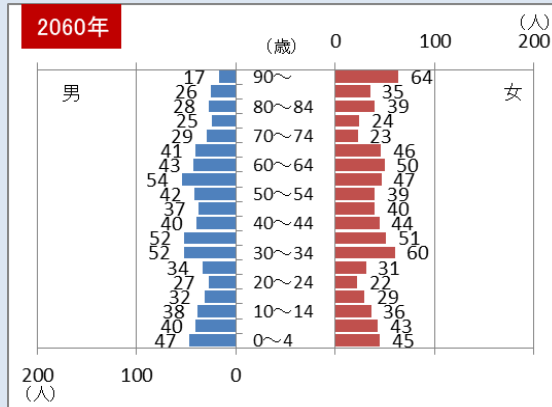
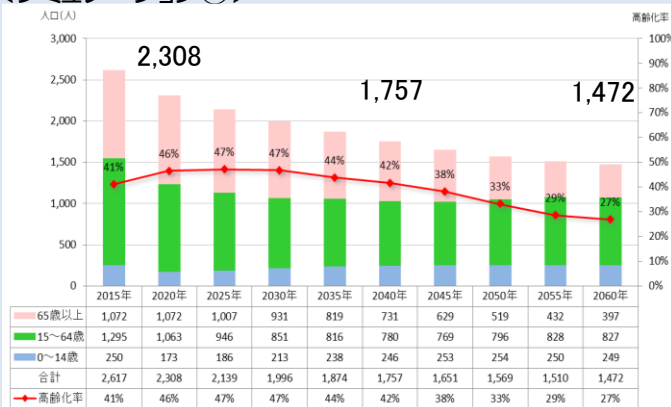
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校区別の人口推計

4. 十和地域【シミュレーション④】

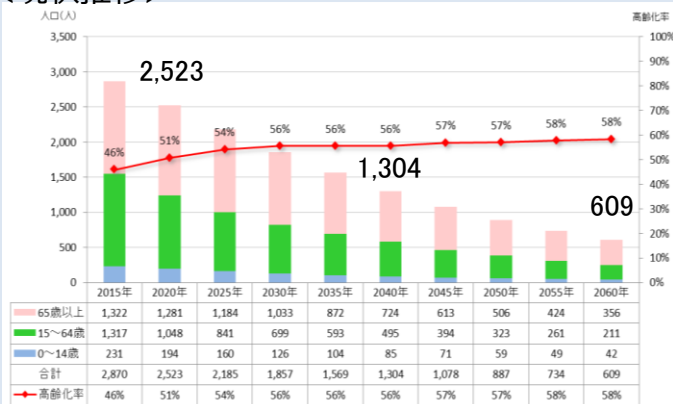
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

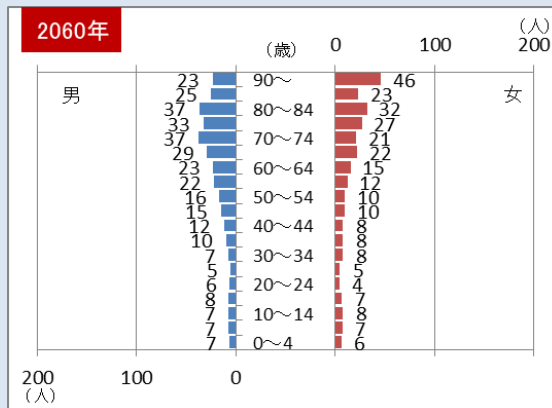
- ・20歳代のUIJターン者が毎年9人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年5組
【合計 毎年24人（地域人口の1.0%）増】（大人19人・子ども5人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

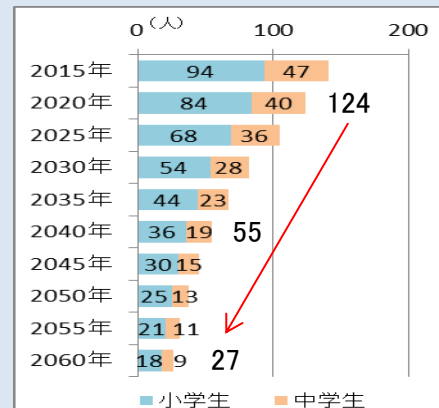
<現状推移>



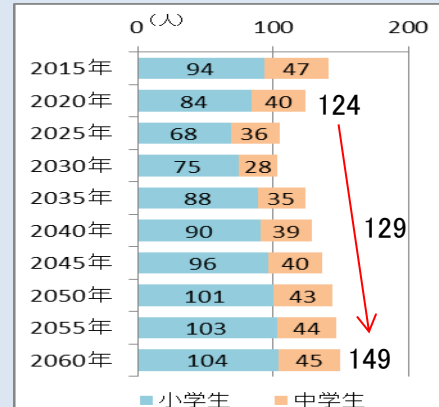
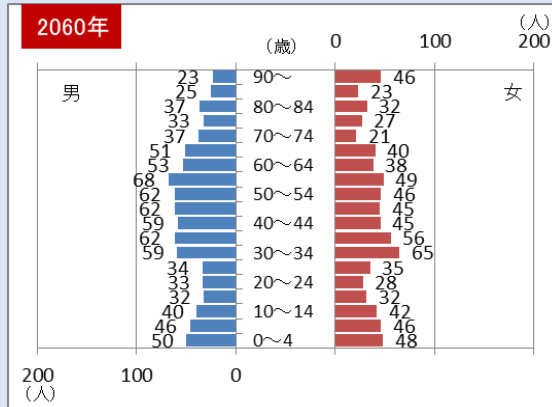
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

5. 仁井田小学校区【シミュレーション④】

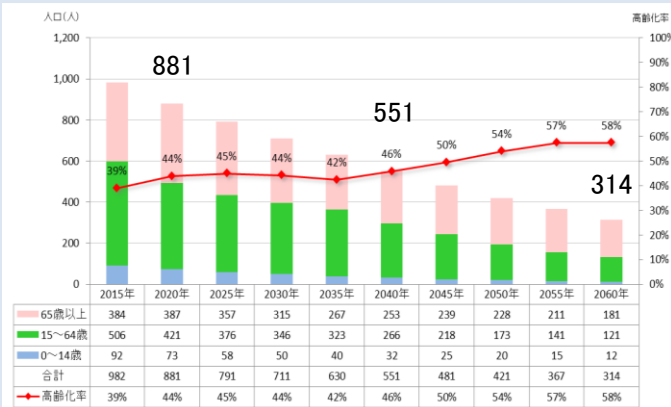
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

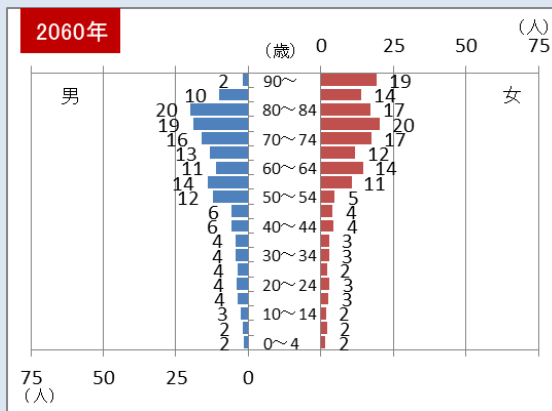
- ・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年2組
【合計 毎年8人（地域人口の0.9%）増】（大人6人・子ども2人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

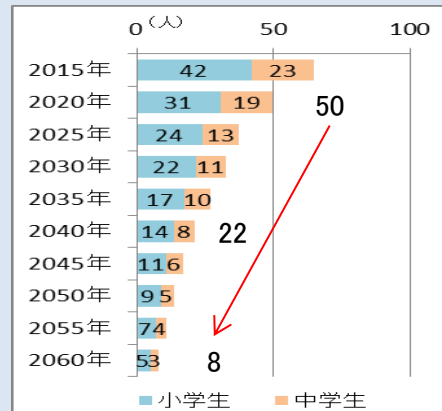
<現状推移>



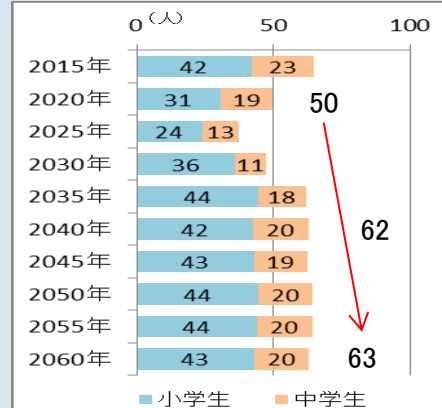
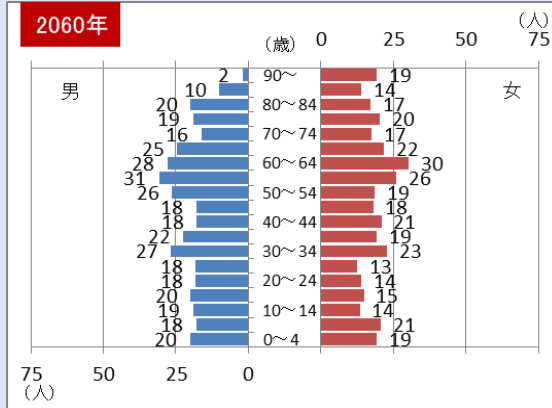
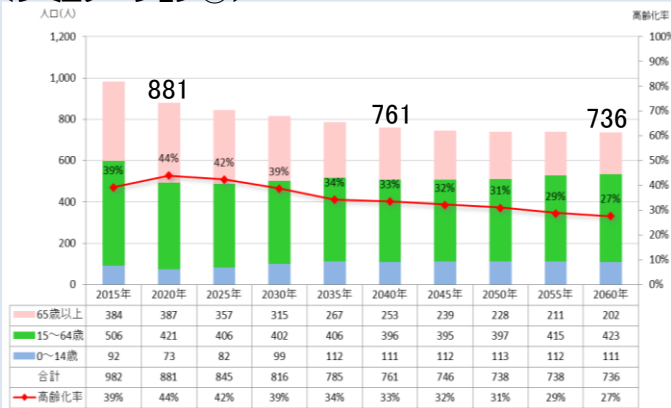
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校区別の人口推計

6. 影野小学校区【シミュレーション④】

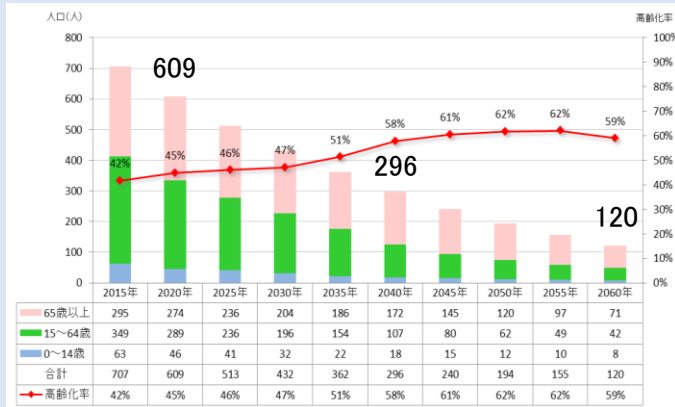
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

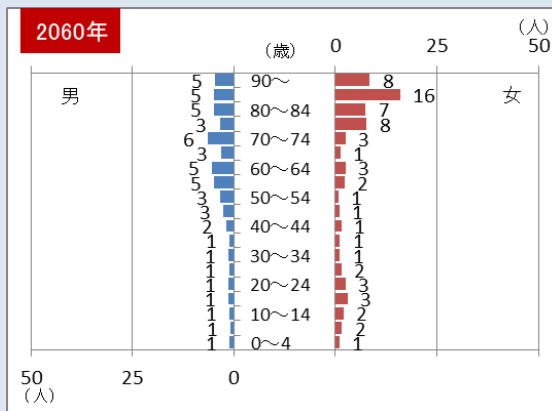
- ・20歳代後半のUIJターン者が毎年2人
 - ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組
- 【合計 毎年5人（地域人口の0.8%）増】（大人4人・子ども1人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

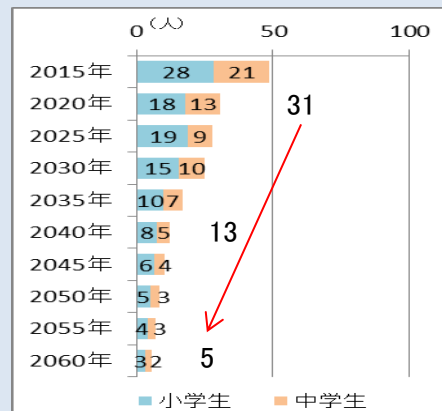
<現状推移>



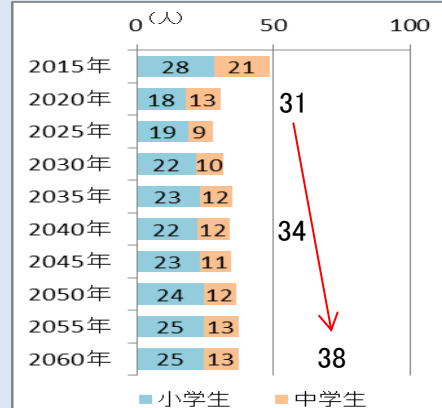
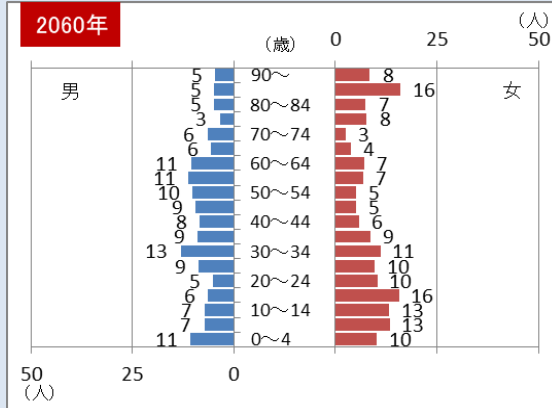
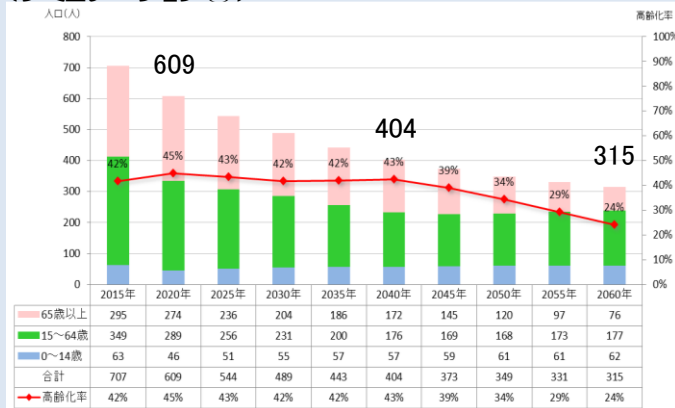
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

7. 七里小学校区【シミュレーション④】

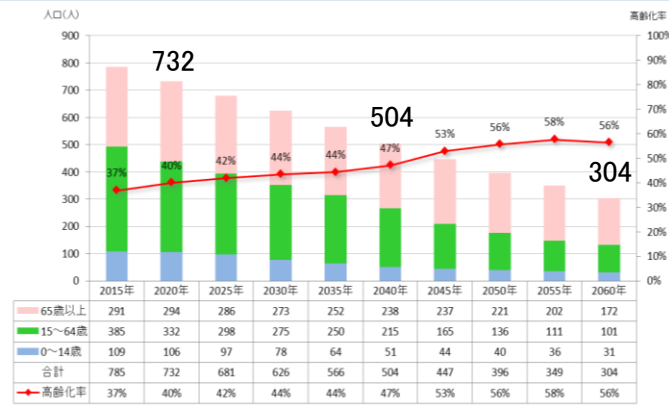
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

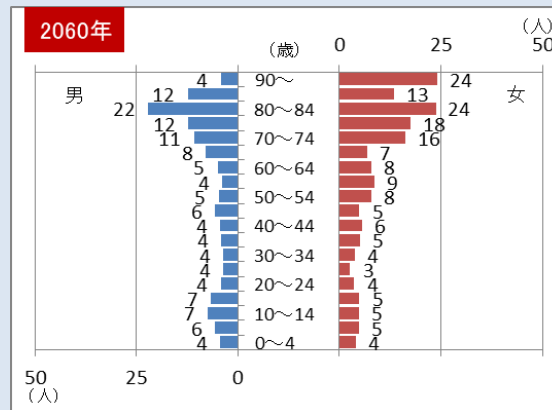
- ・20歳代後半のUIJターン者が毎年3人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組
【合計 毎年6人（地域人口の0.8%）増】（大人5人・子ども1人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

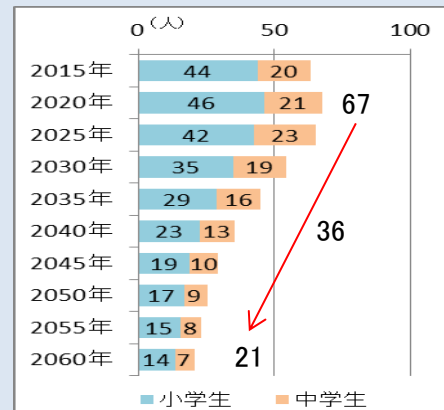
<現状推移>



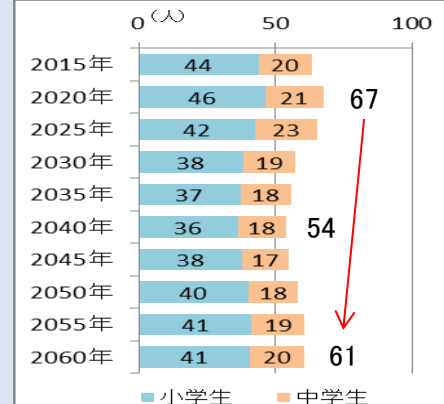
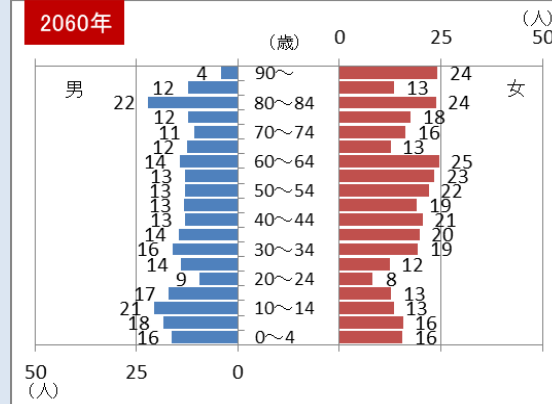
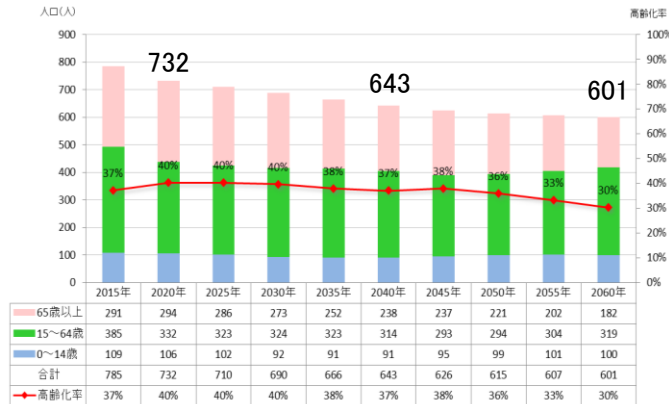
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

8. 米奥小学校区【シミュレーション④】

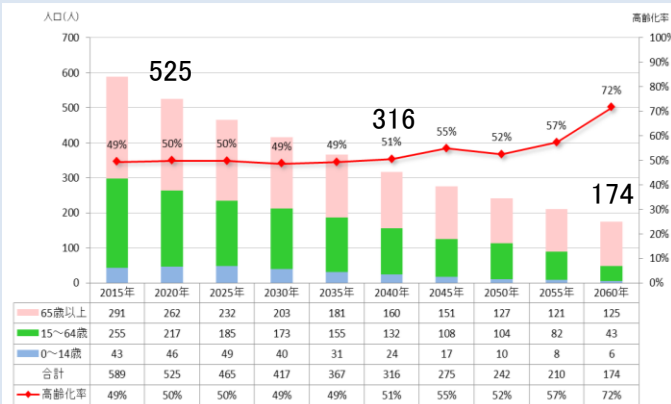
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現 【合計 毎年4人（地域人口の0.8%）増】（大人3人・子ども1人）

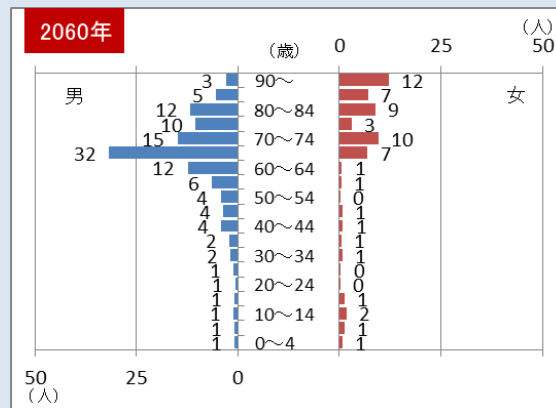
- ・20歳代後半のUIターン者が毎年1人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組
- ・農家住宅としてR3～7年、13～17年、23～27年、33～37年の間にそれぞれ30代前半夫婦4組、30代後半夫婦2組（うち3組は0～4歳の子ども1人世帯）の流入を想定。

◇ 将来推計人口と高齢化比率

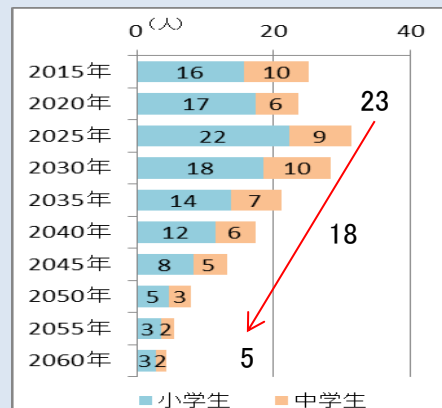
<現状推移>



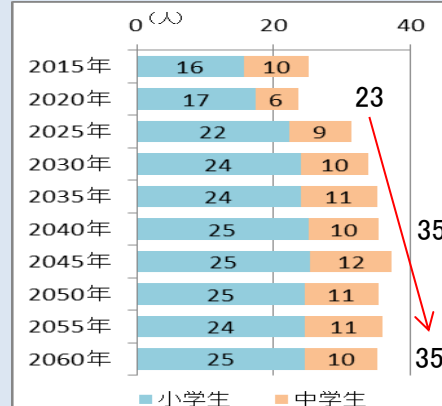
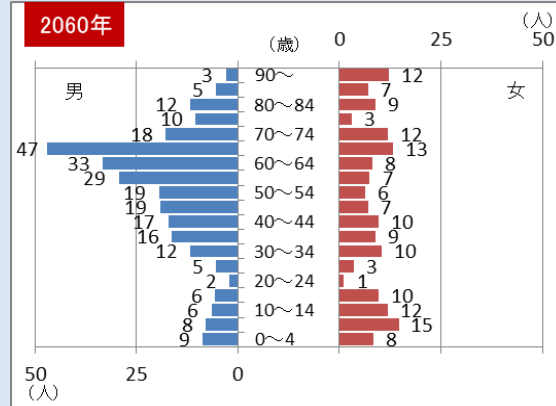
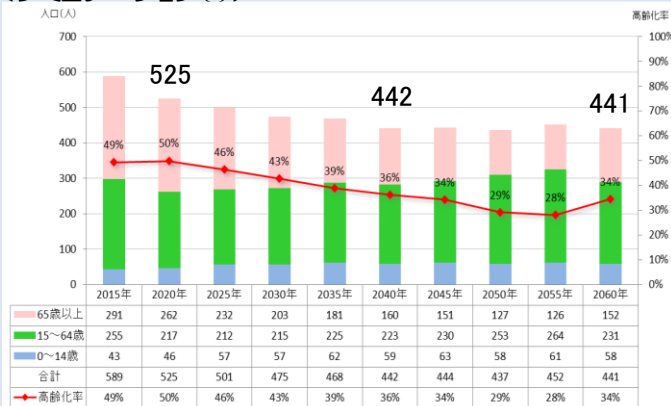
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

9. 窪川小学校区【シミュレーション④】

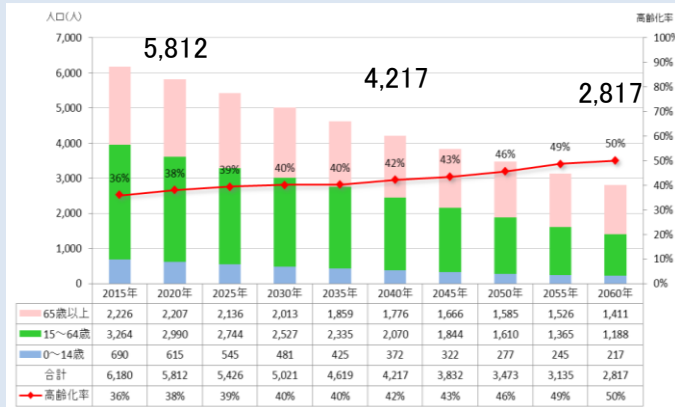
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

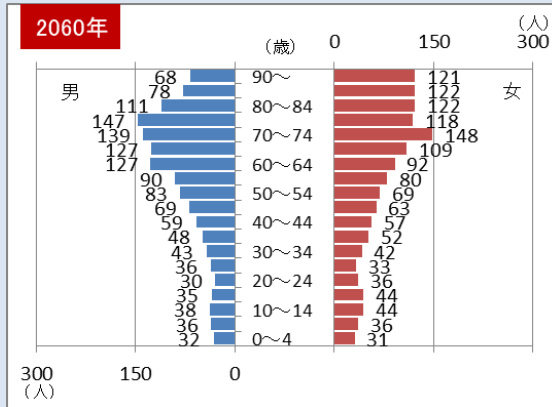
- ・20歳代後半の男性UIJターン者が毎年5人、女性UIJターン者が毎年10人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年3組、60歳代前半の夫婦が毎年1組
【合計 毎年26人（地域人口の0.4%）増】（大人23人・子ども3人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

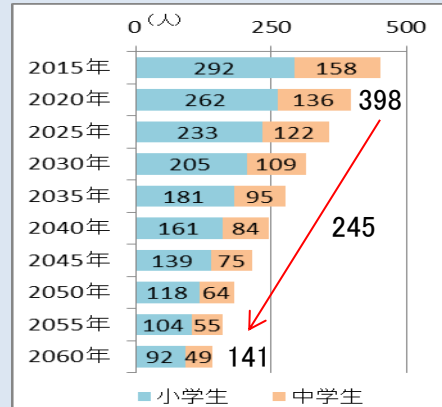
<現状推移>



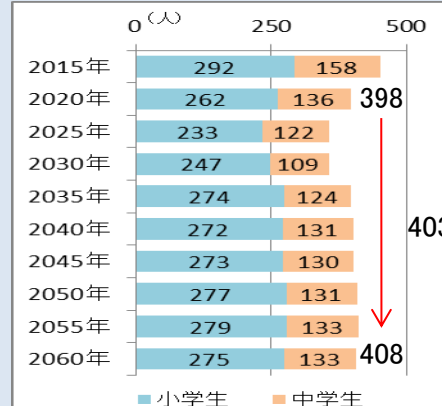
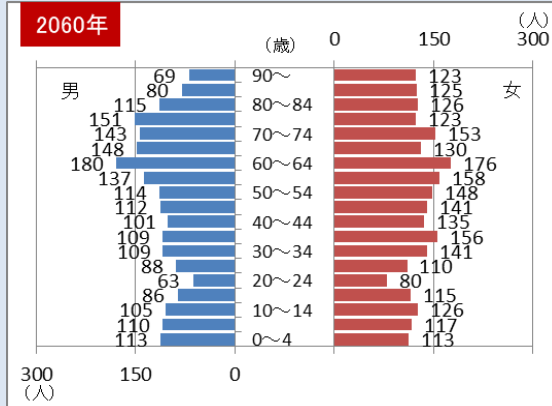
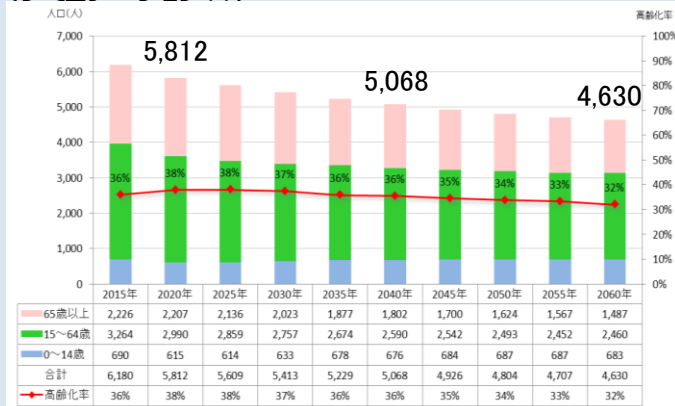
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

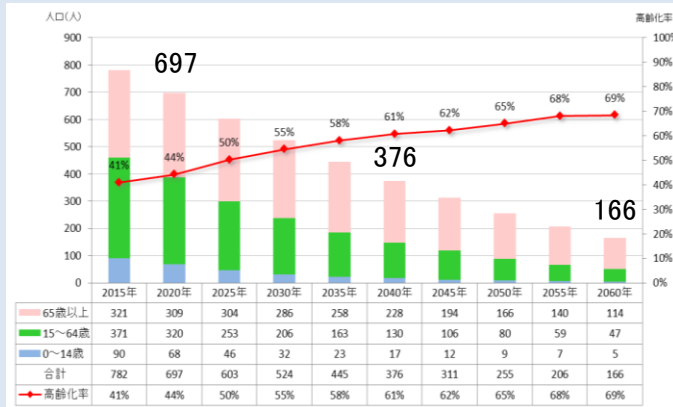
10. 川口小学校区【シミュレーション④】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

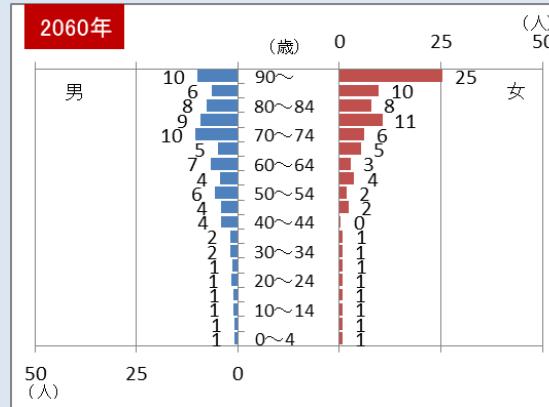
- ④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現
 ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年2組
 【合計 毎年6人（地域人口の0.9%）増】（大人4人・子ども2人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

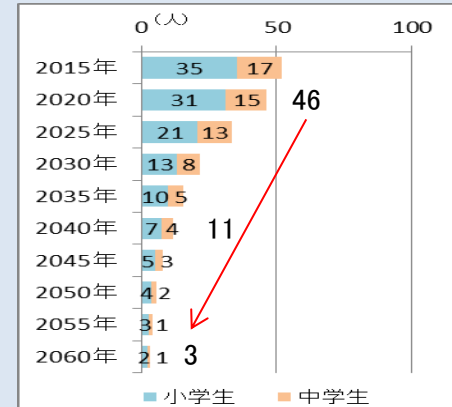
<現状推移>



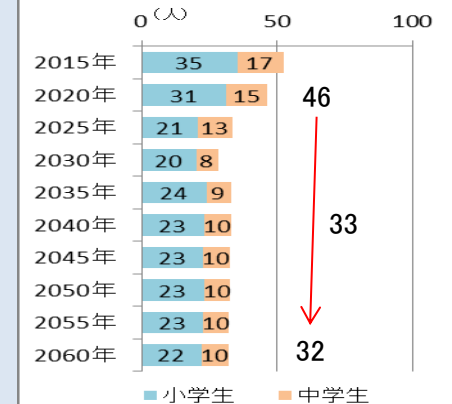
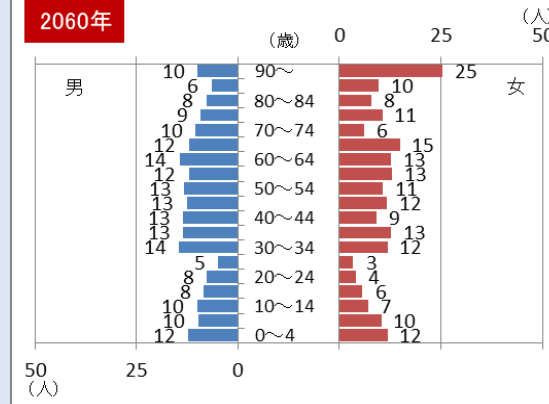
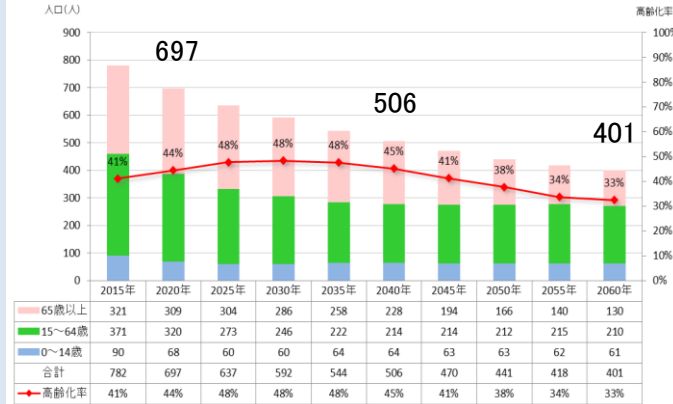
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

11. 東又小学校区【シミュレーション④】

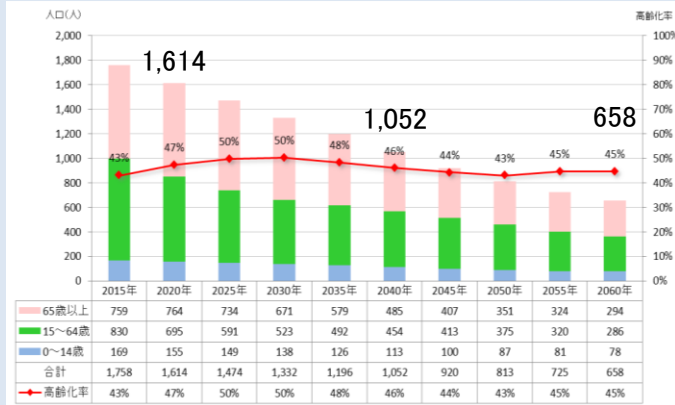
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

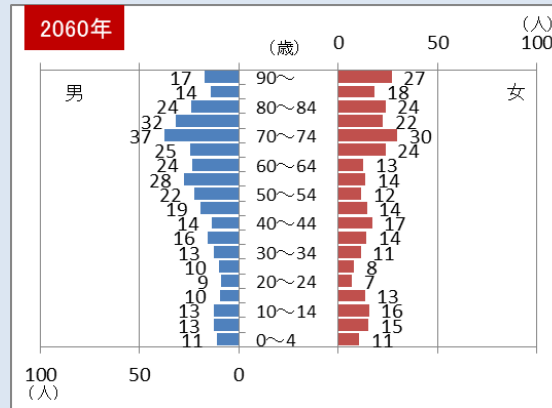
- ・20歳代後半のUIターン者が毎年5人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年2組、60歳代前半の夫婦が毎年2組
【合計 毎年15人（地域人口の0.9%）増】（大人13人・子ども2人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

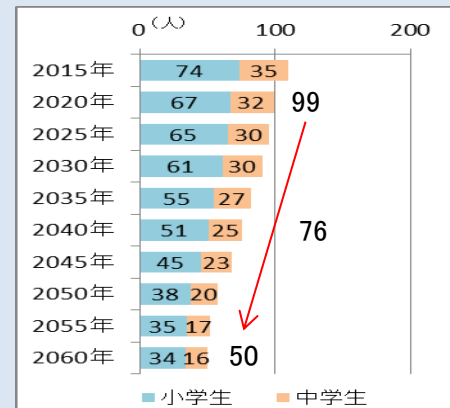
<現状推移>



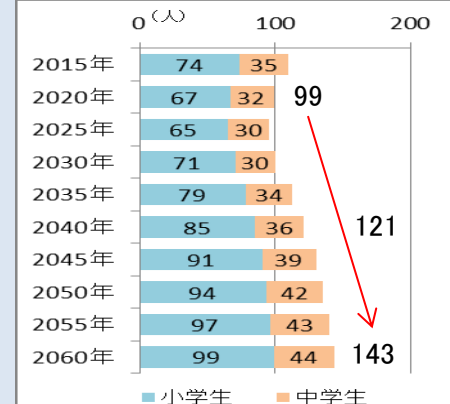
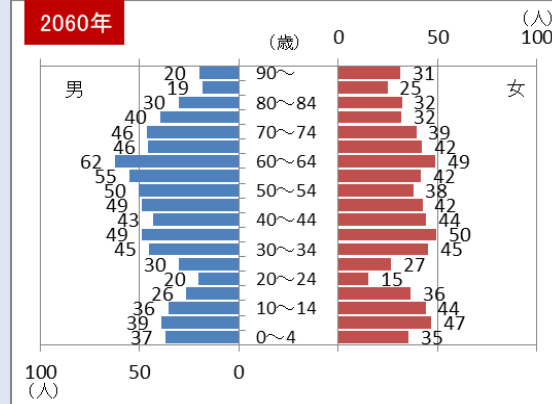
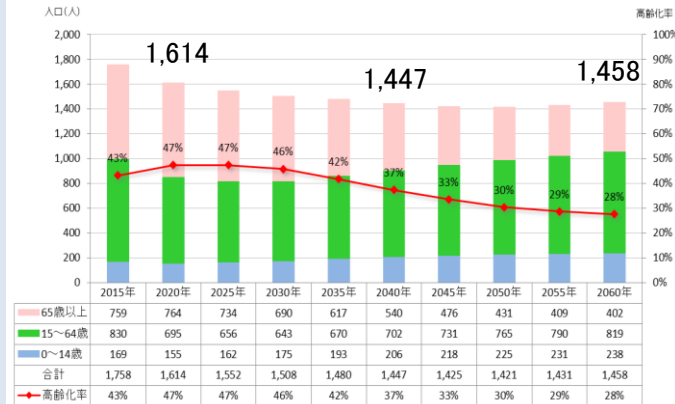
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校区別の人口推計

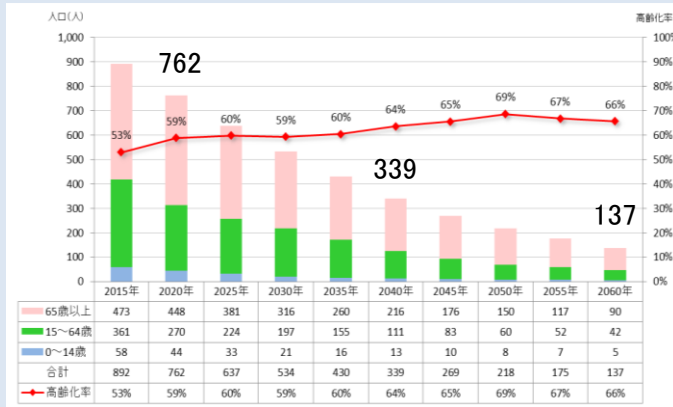
12. 興津小学校区【シミュレーション④】

【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

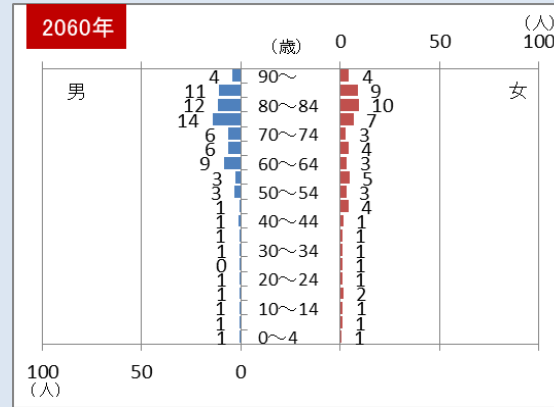
- ④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現
- ・20歳代後半のUIJターン者が毎年4人
 - ・60歳代前半の夫婦が毎年1組
- 【合計 毎年6人（地域人口の0.8%）増】（大人6人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

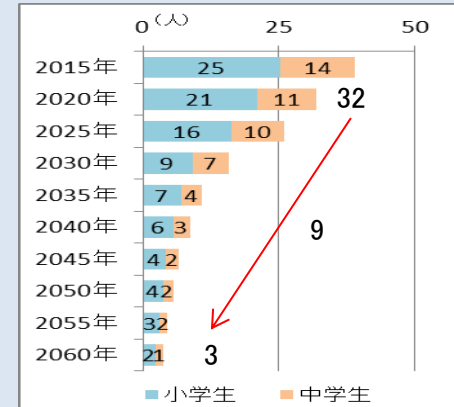
<現状推移>



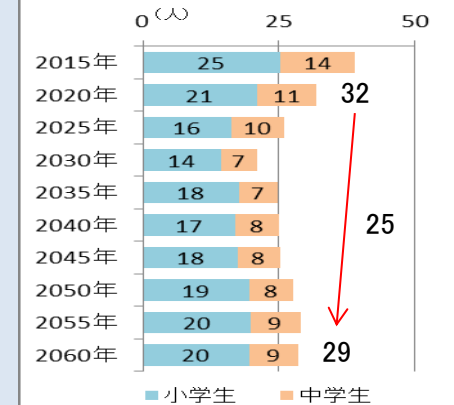
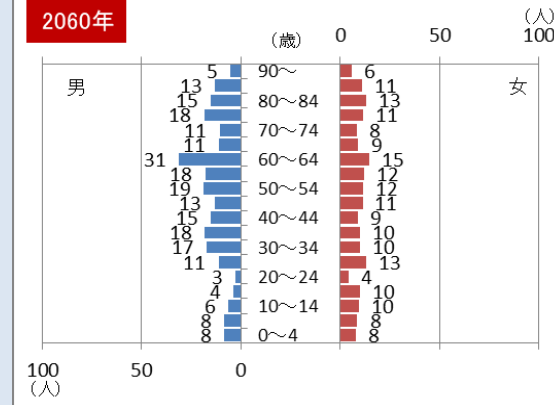
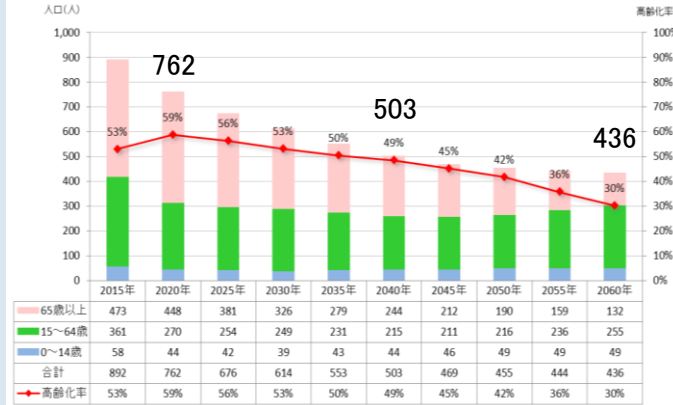
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

13. 田野々小学校区【シミュレーション④】

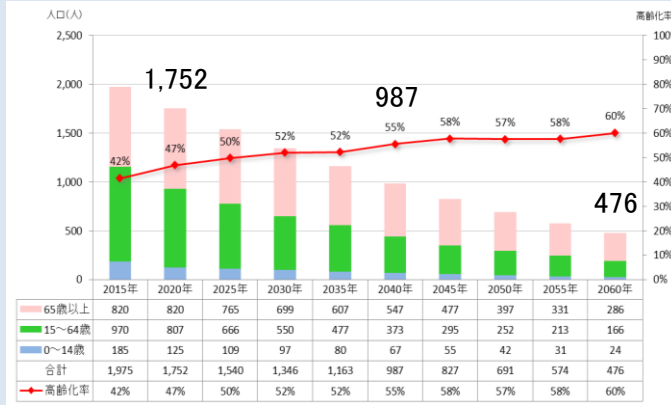
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

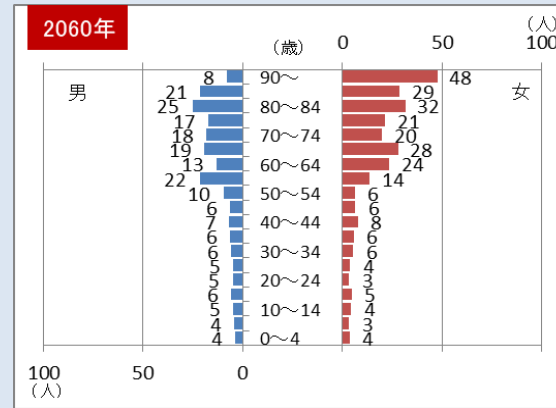
- ・20歳代前半のUIターン者が毎年3人、20歳代後半のUIターン者が毎年3人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年3組
【合計 毎年15人（地域人口の0.9%）増】（大人12人・子ども3人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

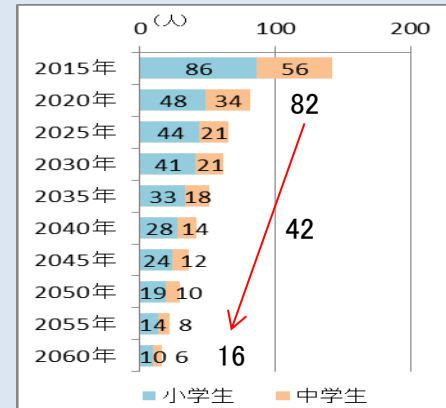
<現状推移>



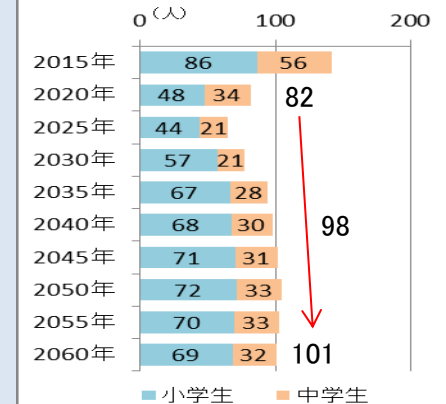
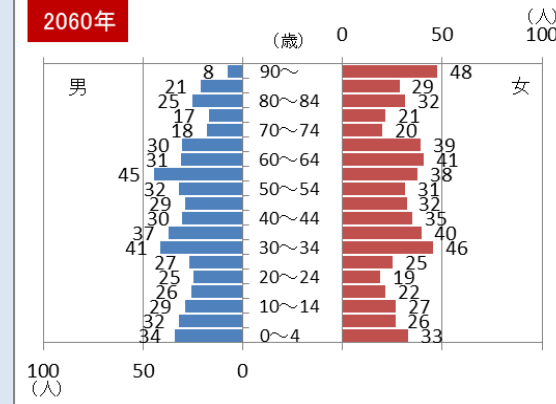
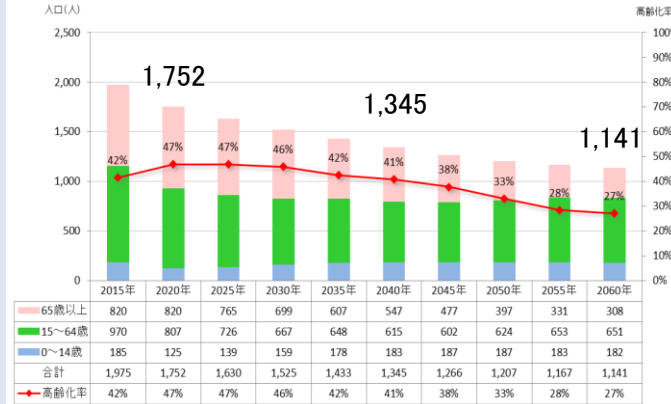
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

14. 北ノ川小学校区【シミュレーション④】

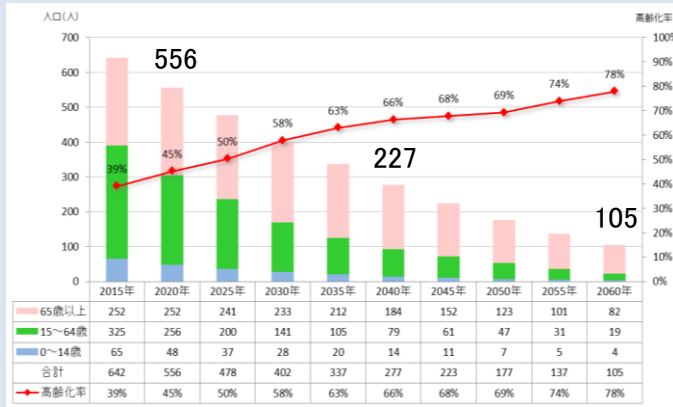
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベイズ推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

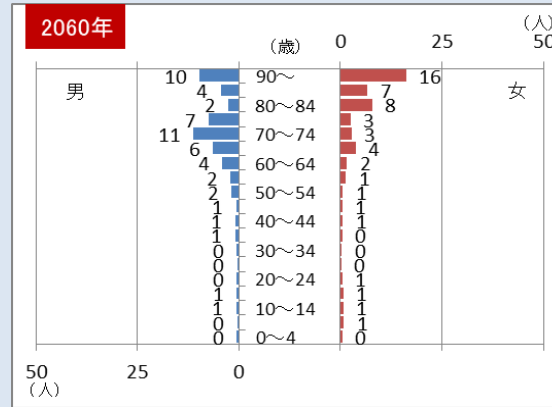
- ・20歳代後半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組
 - ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年1組
- 【合計 毎年6人（地域人口の1.1%）増】（大人4人・子ども2人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

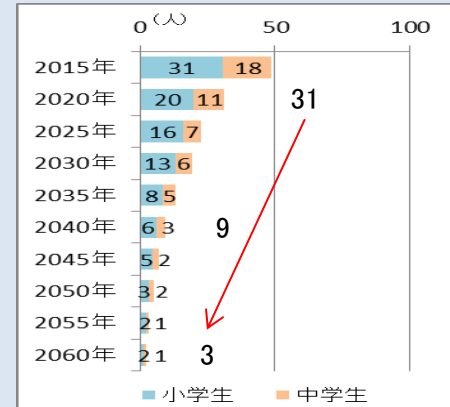
<現状推移>



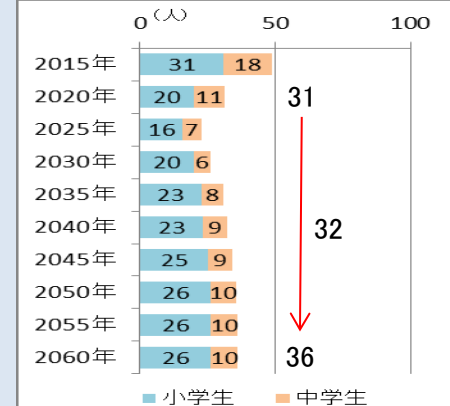
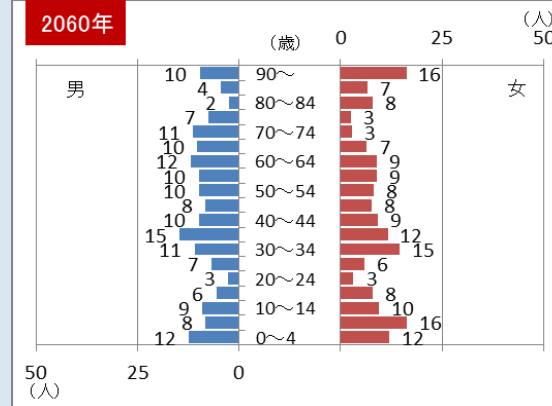
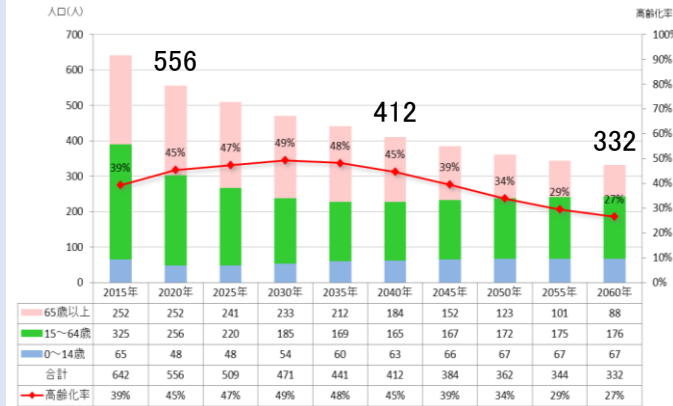
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

15. 十川小学校区【シミュレーション④】

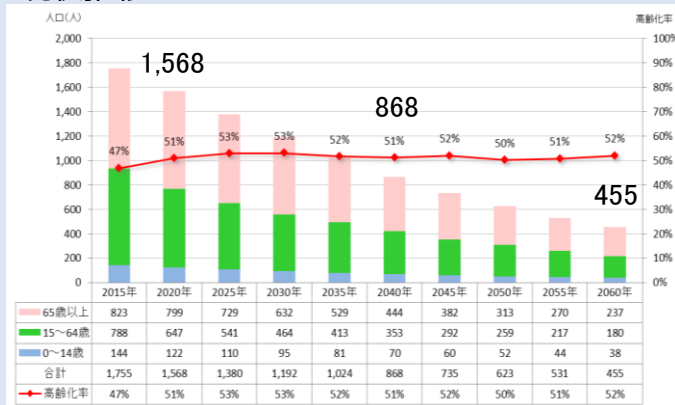
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

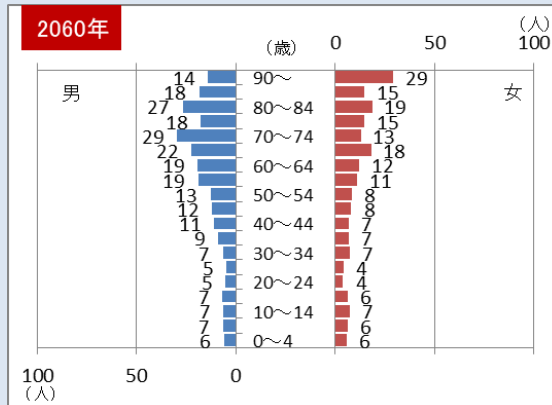
- ・20歳代前半のUIJターン者が毎年5人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年3組
【合計 毎年14人（地域人口の0.9%）増】（大人11人・子ども3人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

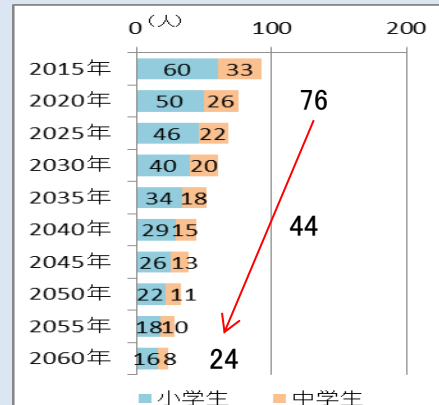
<現状推移>



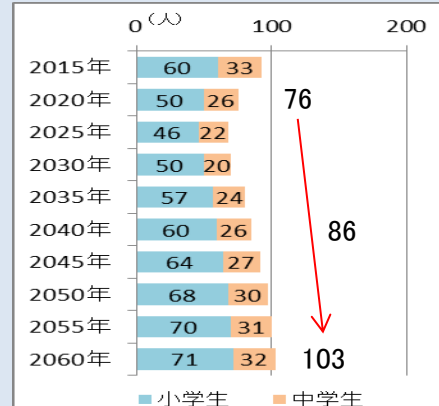
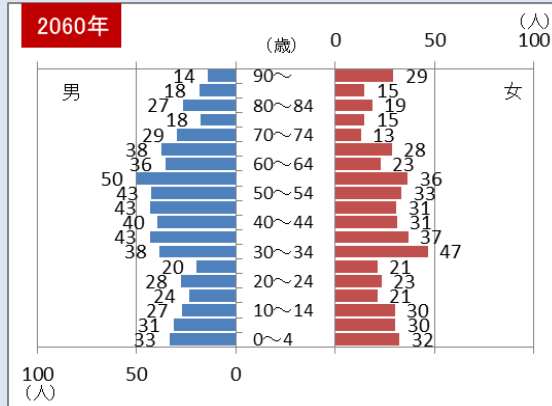
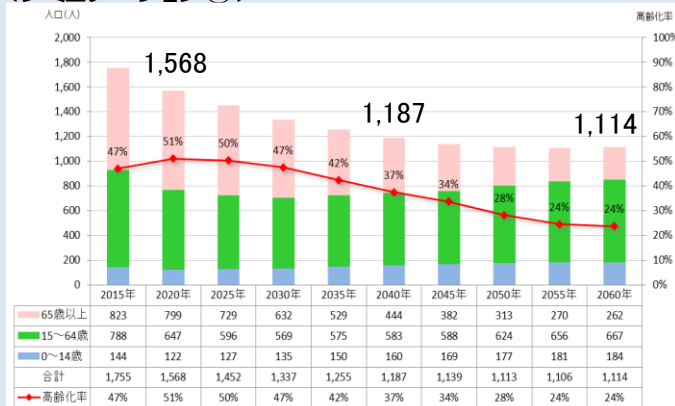
◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>



(参考資料) 各小学校学区別の人口推計

16. 昭和小学校区【シミュレーション④】

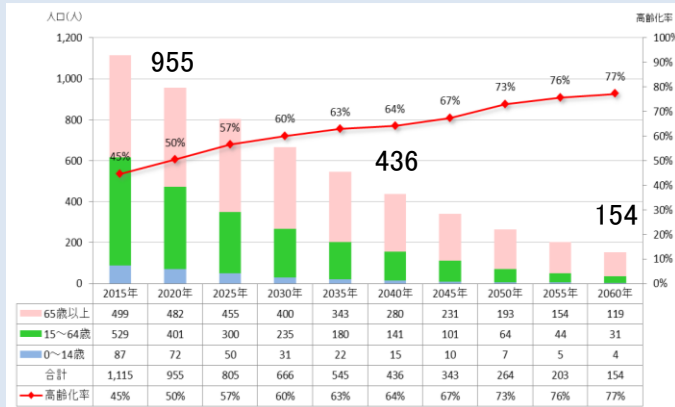
【シミュレーション想定条件】 出生率：1.68（厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計H25-H29」四万十町出生率ベース推定値）

④：下記の世代の流入（あるいは流出阻止）が毎年実現

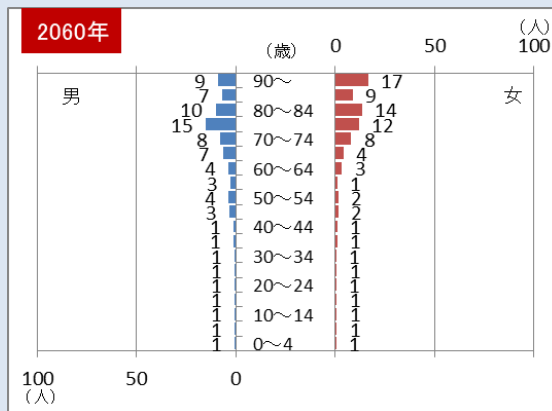
- ・20歳代後半のUIJターン者が毎年4人
- ・30歳代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年2組
【合計 毎年10人（地域人口の1.0%）増】（大人8人・子ども2人）

◇ 将来推計人口と高齢化比率

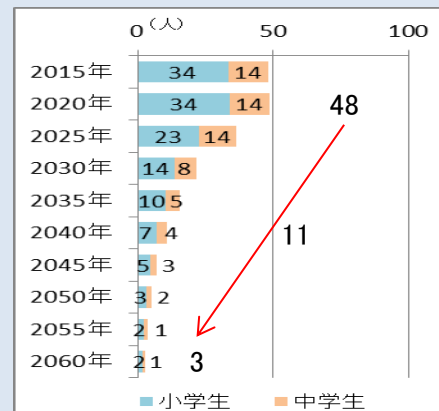
<現状推移>



◇ 人口ピラミッド（2060年）



◇ 児童・生徒数（2060年）



<シミュレーション④>

